

各務原市

高齢者福祉・介護保険サービスに

関するアンケート

結果報告書

令和5年3月

各務原市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の概要	1
	（1）調査の目的.....	1
	（2）調査方法及び回収結果.....	2
2	本調査報告書の基本的な事項	2
	（1）数値の基本的な取り扱いについて.....	2
II	調査結果のサマリ.....	3
1	健康状態について	3
	（1）幸福度.....	3
	（2）介護予防について.....	3
2	認知症について	3
	（1）認知症予防への関心.....	3
	（2）認知症カフェへの参加意向.....	3
	（3）認知症高齢者の介護で必要なこと.....	4
3	日常生活について	4
	（1）日頃の生活で不安に思っていること.....	4
4	介護について	4
	（1）在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス.....	4
	（2）不安を感じる介護等.....	4
	（3）介護者の困りごと.....	5
	（4）ケアマネジャーの業務で困難なこと.....	5
5	災害対策について	5
	（1）災害時における避難.....	5
6	権利擁護について	6
	（1）家庭内における高齢者虐待.....	6
7	高齢者福祉施策全般について	6
	（1）高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点を置くべきこと.....	6
	（2）高齢者世帯を地域で支えるためにあるとよい生活支援.....	6
III	調査結果（一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者）.....	7
1	回答者について	7
	（1）回答者.....	7
	（2）居住地区.....	8
	（3）性別	9
	（4）年齢	9
	（5）要支援・要介護度.....	10
	（6）現在の要支援・要介護度に対する考え.....	11
	（7）日常生活での介護・介助の必要性.....	11
	（8）介護・介助が必要になった主な原因（認定を受けた原因）.....	12
	（9）主に介護・介助する人.....	13
	（10）主に介護している方の年齢.....	13
	（11）施設等への入所・入居の検討状況.....	14
2	家族や生活状況について	15

(1) 家族構成.....	15
(2) 住まいの形態.....	16
(3) 経済的にみた暮らしの状況.....	17
(4) 仕事や学校等に行かず家族以外との交流をしない人.....	17
3 健康について	18
(1) 現在の健康状態.....	18
(2) 現在の幸福度.....	19
(3) 現在治療中または後遺症のある病気.....	20
(4) 病院・医院への通院頻度.....	20
(5) 気分が沈んだりゆううつな気持ちになる.....	21
(6) 物事に対して興味がわかない、心から楽しめない.....	21
(7) 飲酒習慣の有無.....	22
(8) 喫煙習慣の有無.....	22
(9) 歯の数と入れ歯の利用状況.....	23
(10) 歯や口の健康状態について.....	24
(11) 誰かと食事をともにする機会.....	26
(12) BMI	27
(13) 半年で2～3kg以上の体重減少があったか	28
(14) 健康について知りたいこと.....	28
4 運動や外出状況について	29
(1) 運動能力や身体状況について.....	29
(2) 過去1年間の転倒経験.....	31
(3) 転倒に対する不安.....	31
(4) 週に1回以上の外出.....	32
(5) 外出の回数が減っているか.....	32
(6) 外出を控えているか.....	33
(7) 外出を控えている理由.....	34
(8) 外出する際の移動手段.....	35
(9) 運転免許証の有無.....	36
5 物忘れについて	37
(1) 日常生活での物忘れについて.....	37
(2) 自分または家族に認知症の症状があるか.....	38
(3) 認知症に関する相談窓口を知っているか.....	39
(4) 認知症に対する不安.....	40
(5) 自分や家族が認知症になった際に周囲に知られること.....	40
(6) 認知症カフェへの参加意向.....	41
6 日常生活について	42
(1) 日常生活での活動について.....	42
(2) 近所づきあいの程度.....	44
(3) 日頃の生活で不安に思っていること.....	45
(4) 携帯電話・スマートフォンの保有状況.....	45
(5) スマートフォンを利用する目的.....	46
(6) 今以上にスマートフォンを活用したいか.....	46
7 相談対応について	47
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人.....	47
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人.....	48
(3) 病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人.....	48

(4) 看病や世話をしあける人.....	49
(5) 認知症になったら財産管理等の手続きの支援を頼める人.....	50
(6) 家族や友人、知人以外の相談相手.....	51
(7) 友人・知人と会う頻度.....	52
(8) 1か月間に会った友人・知人の人数.....	52
8 災害対策について	53
(1) 災害時に自力で避難できるか.....	53
(2) 災害時の避難対策について.....	54
(3) 避難方法等についての家族との決めごと.....	54
9 社会参加について	55
(1) 趣味の有無.....	55
(2) 生きがいの有無.....	56
(3) 会・グループ等への参加状況.....	56
(4) 地域活動への参加者としての参加意向.....	59
(5) 地域活動への企画・運営としての参加意向.....	60
(6) 地域住民主体の活動への参加意向.....	61
(7) 社会参加活動や仕事への参加頻度.....	63
10 介護予防について	65
(1) 介護予防への取り組み状況.....	65
(2) 介護予防教室への参加意向.....	65
(3) 教室の開催場所.....	66
(4) 参加したことがある介護予防事業.....	66
(5) 介護予防事業に参加しない理由.....	67
(6) 介護予防に関して市に力を入れてほしいこと.....	67
11 介護保険及び高齢者福祉全般について	68
(1) 高齢者福祉サービスについての認知状況.....	68
(2) 介護サービスの充実と保険料との考え方.....	75
(3) 地域のつながりや助け合いは必要だと思うか.....	76
(4) 助け合い活動へ参加する際の考え方.....	76
(5) 一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯を地域で支えるためにあるとよ いと思う生活支援.....	77
(6) 介護を受けたい場所.....	78
(7) わがまち茶話会への参加意向.....	78
(8) 高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点をおくべきこと.....	79
(9) 介護保険サービスの利用状況.....	80
(10) 介護保険サービスを利用していない理由.....	80
(11) 令和4年12月の介護保険サービス利用状況.....	81
(12) 介護保険サービスの利用状況.....	81
(13) 現在のサービス事業者を選んだ理由.....	86
(14) サービスを受けた際の変化.....	86
(15) 要介護認定を申請した理由.....	87
(16) 長期療養が必要な場合の在宅介護への意向.....	87
(17) 利用中の介護保険サービス以外の支援・サービス利用状況.....	88
(18) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス.....	88
(19) 訪問診療の利用状況.....	89
(20) 現在のケアマネジャーへの満足度.....	89
12 本人を介護している人について 【介護をしている人のみ】	90

(1) 介護を理由に1年以内に仕事を辞めた人がいるか.....	90
(2) 主な介護者が行っている介護等について.....	90
(3) 不安に感じる介護等について.....	91
(4) 主な介護者の現在の勤務形態.....	91
(5) 主な介護者の働き方についての調整等.....	92
(6) 今後も働きながら介護を続けていけるか.....	92
(7) 仕事と介護の両立に効果があると思う支援.....	93
(8) サービスを受けた際の負担の変化(介護者).....	93
(9) 介護の際に困っていること.....	94
(10) 今後の介護について.....	94
IV 調査結果(事業所).....	95
1 実施しているサービスについて.....	95
(1) 提供している介護サービス.....	95
(2) 新規参入したい介護サービス.....	96
(3) 縮小したい介護サービス.....	97
(4) 家族からの虐待の事例を経験したこと.....	98
(5) 虐待の事例.....	98
(6) 虐待の対応にあたっての問題.....	99
(7) 認知症高齢者介護に関して進める必要があること.....	99
(8) サービス開始当初と比較した現在の需要.....	100
(9) 職員の技術・知識向上のための外部研修受講状況.....	100
(10) 苦情や要望があった際の対応.....	101
(11) 利用者から不当な要求を受けたこと.....	101
(12) 事業所の事業展開上の課題.....	102
(13) この1年間の人材確保状況.....	102
(14) 人材の確保のための取り組み.....	103
(15) この1年間の離職率.....	103
(16) 人材の定着・育成のための取り組み.....	104
(17) ケアマネジャーとの連携は取れているか.....	104
(18) 他の事業所との連携は取れているか.....	105
(19) 在宅における医療と介護の連携は十分か.....	105
(20) 在宅における医療と介護の連携についての課題.....	106
(21) 新規事業に参入する際に課題となること.....	106
V 調査結果(居宅介護支援専門員(ケアマネジャー)).....	107
1 回答者について.....	107
(1) 性別.....	107
(2) 年齢.....	107
(3) ケアマネジャー業務の経験年数.....	107
(4) 勤務形態.....	108
(5) 母体組織.....	108
(6) 組織形態.....	108
(7) 所属事業所の所在地.....	109
2 ケアプランの作成について.....	109
(1) ケアプラン作成件数.....	109
(2) 利用者への訪問頻度.....	110
(3) ケアプラン作成の際に気をつけていること.....	110
(4) ケアプラン作成の際のアセスメント.....	111

(5) ケアプランの作成を断ったこと.....	111
(6) 事業者からサービス提供を拒否されたこと.....	112
(7) サービス事業者から利用者が希望しないサービスを組み入れるよう求められたこと.....	113
(8) 認知症利用者のケアプラン作成時に困難だと思うこと.....	113
(9) 高齢者自立支援事業等で知っているもの.....	114
(10) 高齢者自立支援事業等をケアプランに反映させているか.....	114
(11) 反映させていない理由.....	115
(12) ケアマネジャーの業務として難しいこと.....	116
(13) 困った時の相談先.....	117
3 ケアマネジメントの質の向上について	118
(1) サービスの質の向上に向けた研修への参加状況.....	118
(2) 研修に参加していない理由.....	118
(3) 研修で受けたい内容.....	119
(4) 利用者やその家族からの苦情を受けたこと.....	119
(5) 苦情の内容.....	120
(6) 資質向上のための研修について行政に期待すること.....	120
4 サービス担当者会議の実施状況について	122
(1) サービス担当者会議の実施状況.....	122
(2) サービス担当者会議の出席者.....	122
(3) サービス担当者会議を開催できない理由.....	123
5 地域包括支援センターについて	124
(1) 地域包括支援センターとの連携状況.....	124
(2) 連携が取れていない理由.....	124
(3) どうしたら連携が取れるようになるか.....	125
(4) 地域包括支援センターへ期待すること.....	125
6 医療との連携状況について	126
(1) 日頃の医療との連携状況.....	126
(2) 医療との連携が取れていない理由.....	126
(3) 医師とのよりよい連携のための方策.....	127
(4) 医療行為が必要な利用者の有無.....	128
(5) 医療行為の内容.....	128
(6) 医師とどのような連携を取っているか.....	129
(7) 医師との連携で必要なこと.....	131
7 高齢者虐待について	133
(1) 家庭内における高齢者虐待の事例を経験したこと.....	133
(2) 虐待事例の相談先.....	133
(3) 高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組み.....	134
8 ヤングケアラー問題について	135
(1) ヤングケアラー問題を知っているか.....	135
(2) ヤングケアラーの事例を経験したこと.....	135
9 介護保険全般について	136
(1) 質に問題がある、あるいは不足している介護保険サービス.....	136
(2) 総合事業の中で特に利用者ニーズが高いと感じるサービス.....	138
(3) 総合事業の実施にあたり課題となること.....	138
10 災害時の対応について	139

(1) 事業所における災害時事業継続計画の有無.....	139
(2) 災害時の行動について利用者と相談できているか.....	139
11 高齢者福祉全般について	140
(1) 高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点を置くべきこと.....	140
(2) 今後充実させるべき介護予防事業.....	141

I 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、令和6年度から8年度までを計画期間とする「第9期各務原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」策定の基礎資料とするために実施した。

①一般高齢者

令和4年12月1日現在、要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者を対象に、その生活実態や介護予防の取り組み、高齢者福祉施策に関するニーズなどを把握することを目的として実施した。

②居宅要支援・要介護認定者

令和4年12月1日現在、居宅の要支援・要介護認定者を対象に、介護保険サービスの利用状況、満足度、利用希望等を把握するとともに、ケアプランや介護保険制度に対する意向等を把握し、介護保険サービスの充実と公平・公正な介護保険制度の運営に向けた基礎資料づくりを目的として実施した。

③介護保険サービス事業所

本市の被保険者が利用するサービス事業者を対象に、今後の事業見込みや意見・要望等を把握することを目的として実施した。

④居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）

居宅介護支援専門員を対象に、介護保険サービス利用者とサービス提供事業者等の間に潜在している意見や要望を把握し、問題点を明確にすることを目的として実施した。

(2) 調査方法及び回収結果

調査対象	①一般高齢者	②居宅要支援・ 要介護認定者	③介護保険サ- ビス事業所	④居宅介護支援 専門員
配布数	2,000 票	600 票	200 票	132 票
抽出法	無作為抽出	無作為抽出	全件抽出	全件抽出
調査方法	郵送または Web	郵送または Web	郵送または Web	郵送または Web
調査時期	令和5年1月	令和5年1月	令和5年1月	令和5年1月
調査地域	各務原市全域	各務原市全域	各務原市全域	各務原市全域
有効回収数	1,386 票	341 票	129 票	109 票
有効回収率	69.3%	56.8%	64.5%	82.6%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%を上下する場合もある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある間は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問である。したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

Ⅱ 調査結果のサマリ

1 健康状態について

(1) 幸福度

現在の幸福度についてたずねたところ、「8～10点」と回答した割合は、①一般高齢者では43.8%であったのに対し、②居宅要支援・要介護認定者では26.4%となっている。「0～4点」の割合は、①一般高齢者では7.3%、②居宅要支援・要介護認定者では15.2%となっている。要介護度が上昇すると、幸福度も低下することがうかがえる。

(2) 介護予防について

①一般高齢者に対し、介護予防への取り組み状況についてたずねたところ、「意識して取り組んでいる」が31.9%となっているのに対し、「体力が落ちてきたら取り組みたい」(7.5%)・「もう少し歳をとってから取り組みたい」(7.4%)・「きっかけがあれば取り組みたい」(18.1%)・「具体的な取り組み方がわからない」(25.0%)を合わせた“関心はあるが現在は取り組んでいない”が58.0%となっている。介護予防に対する関心は高いものの、実際の活動にはつながっていないケースが多いと見込まれ、関心を喚起するのみならず、活動への参加につなげる取り組みが必要と見られる。

介護予防事業に参加しない理由として最も多かったのは「事業に参加するほどの状態ではない」(50.3%)であり、次いで「事業があることを知らない」(29.6%)、「どんな事業を受けたらよいかわからない」(14.1%)などとなっている。

介護予防に関して市に力を入れてほしいこととして、「認知症予防」(39.5%)が最も多く、次いで「軽運動の推進」(37.6%)、「生活習慣病の予防」(23.7%)などとなっている。

2 認知症について

(1) 認知症予防への関心

①一般高齢者に対し、認知症に対する不安があるかたずねたところ、“不安である”が72.9%となっている。また、健康について知りたいこととして「認知症の予防」(32.5%)が最も高くなっている。

(2) 認知症カフェへの参加意向

認知症カフェへの参加意向をたずねたところ、「参加したくない」が①一般高齢者では44.5%、②居宅要支援・要介護認定者では55.7%となっている。実際の利用に至るまでに

何らかの抵抗を感じる人が少なくないことがうかがえることから、認知症カフェの周知を図るとともに、認知症への理解を深め、認知症者を地域全体で支えることができるまちづくりを引続き進めていくことが求められる。

(3) 認知症高齢者の介護で必要なこと

③介護保険サービス事業所に対し、認知症高齢者の介護を進める必要があることについてたずねたところ、「認知症についての理解促進」(75.2%)が最も多く、次いで「認知症高齢者を抱える家族への支援」(62.8%)、「認知症ケアの人材育成」(57.4%)などとなっている。

3 日常生活について

(1) 日頃の生活で不安に思っていること

日常生活で不安に思っていることについては、①一般高齢者、②居宅要支援・要介護認定者いずれも「病気など健康状態が悪くなった時のこと」が最も多くなっている。長寿命化が進む中で、日常的な健康づくりへの関心はさらに高まると見込まれ、市民の健康づくりを支援するための取り組みや健康推進施策との一体的な実施・連携など、これまで以上に施策の効果を高める仕組みづくりが求められる。

4 介護について

(1) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

②居宅要支援・要介護認定者に対し、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてたずねたところ、「移送サービス」(30.5%)が最も多く、次いで「配食」(19.6%)、「外出同行」(17.9%)などとなっている。

(2) 不安を感じる介護等

②居宅要支援・要介護認定者を介護する人に対し、不安を感じる介護等についてたずねたところ、「夜間の排泄」(35.3%)が最も多く、次いで「認知症状への対応」(31.4%)、「日中の排泄」(28.8%)などとなっている。在宅での介護の継続においては、これらをカバーするサービスの充実が不可欠であることがうかがえる。

(3) 介護者の困りごと

②居宅要支援・要介護認定者を介護する人に対し、介護の際に困っていることについてたずねたところ、「心身の疲労が大きい」(43.6%)が最も多く、「旅行・趣味など生活を楽しむ余裕がない」(36.5%)、「経済的負担が大きい」(25.6%)などが続く。平均寿命と健康寿命の差(=介護を要する期間)は、男性では8～9年、女性では12年前後であることから、今後もレスパイトサービス(家族介護者等が息抜きできるようにするためのサービス)の充実が必要となっている。

(4) ケアマネジャーの業務で困難なこと

④居宅介護支援専門員に対し、ケアマネジャーの業務で難しいこととして「利用者本人と家族との意見が異なる時の調整」(77.1%)が最も多く、「身寄りのない独居高齢者の安全の確保と対応」(69.7%)、「困難なケースへの対応」(55.0%)などが続く。

また、認知症のある利用者のケアプラン作成時に困難だと思うことについてたずねたところ、「本人の同意が得られない」(69.7%)が第1位となっている。

5 災害対策について

(1) 災害時における避難

災害時に自力で避難「できない」と回答した人の割合をみると、①一般高齢者では11.9%となっているのに対し、②居宅要支援・要介護認定者では68.9%となっている。

②居宅要支援・要介護認定者に対し、家族との避難や安否確認方法の話し合い・決めごとを「必要だと思うができていない」が62.5%、「決めていないし考えてもいない」が22.0%となっている。

高齢者世帯を地域で支えるためにあるとよい生活支援として「災害時の避難支援・安否確認」と回答した人の割合は、①一般高齢者、②居宅要支援・要介護認定者ともに3割弱を占めている。

災害発生時に備えた避難行動要支援者名簿への登録や更新、支援を必要とする人の特定及び支援体制の構築は継続的な課題であり、福祉避難所の設置についても、事業所等との連携強化は不可欠となっている。

6 権利擁護について

(1) 家庭内における高齢者虐待

③介護保険サービス事業所で、家族からの虐待の事例を経験したことが「ある」と回答した人の割合は10.1%となっている。虐待の対応にあたっての問題として「虐待している人が虐待だと思っていない」(76.9%)が最も多くなっている。

④居宅介護支援専門員に対し、家庭内における高齢者虐待の事例を経験したことが「ある」と回答した人の割合は51.4%となっている。高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組みとして「相談窓口の設置、明確化」(63.3%)が最も多く、次いで「関係機関のネットワークの強化」(50.5%)などとなっている。

介護者への支援などを通じた高齢者虐待の防止、早期発見・早期介入のための情報連携体制の構築・深化が求められる。

7 高齢者福祉施策全般について

(1) 高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点を置くべきこと

高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点を置くべきことについてたずねたところ、①一般高齢者では「相談体制の充実」(56.9%)が最も多く、「サービス利用の手続きの簡素化」(54.2%)、「在宅での保健・医療・福祉のサービスの充実」(46.9%)などが続いている。②居宅要支援・要介護認定者では「サービス利用の手続きの簡素化」(41.6%)が最も多く、次いで「相談体制の充実」(40.8%)、「在宅での保健・医療・福祉のサービスの充実」(35.2%)などとなっている。いずれも上位3項目が重複しており、市民の視点では、これらが重要視されていることがうかがえる。

④居宅介護支援専門員に対して高齢者が住みよいまちづくりのために重点を置くべきことについてたずねたところ、「気軽に出かけられるような外出支援体制の充実」(61.5%)が最も多く、次いで「相談体制の充実」(56.9%)、「サービス利用の手続きの簡素化」(56.0%)などとなっている。

(2) 高齢者世帯を地域で支えるためにあるとよい生活支援

高齢者世帯を地域で支えるためにあるとよい生活支援についてたずねたところ、①一般高齢者、②居宅要支援・要介護認定者ともに「話し相手・相談相手になること」が第1位となっている。また、「安否確認などの声かけ・見守り」や「災害時の避難支援・安否確認」も上位となっており、日常的な見守りや非常時における支援体制の構築が重要と見込まれる。

Ⅲ 調査結果（一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者）

1 回答者について

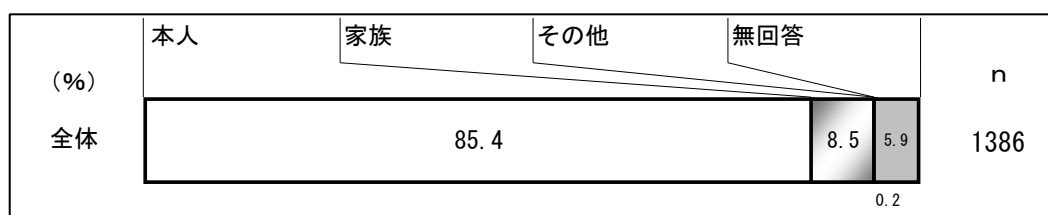
(1) 回答者

一般高齢者では「本人」が85.4%、「家族」が8.5%となっている。

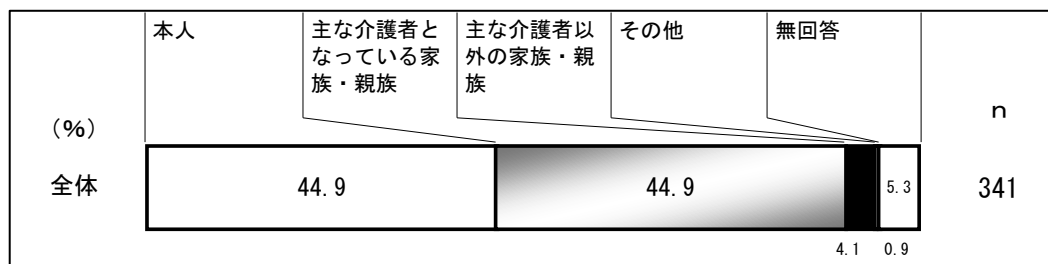
居宅要支援・要介護者では「本人」・「主な介護者となっている家族・親族」が同率で44.9%、「主な介護者以外の家族・親族」が4.1%となっている。

一般高齢者【問1】／居宅要支援・要介護認定者【問1】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

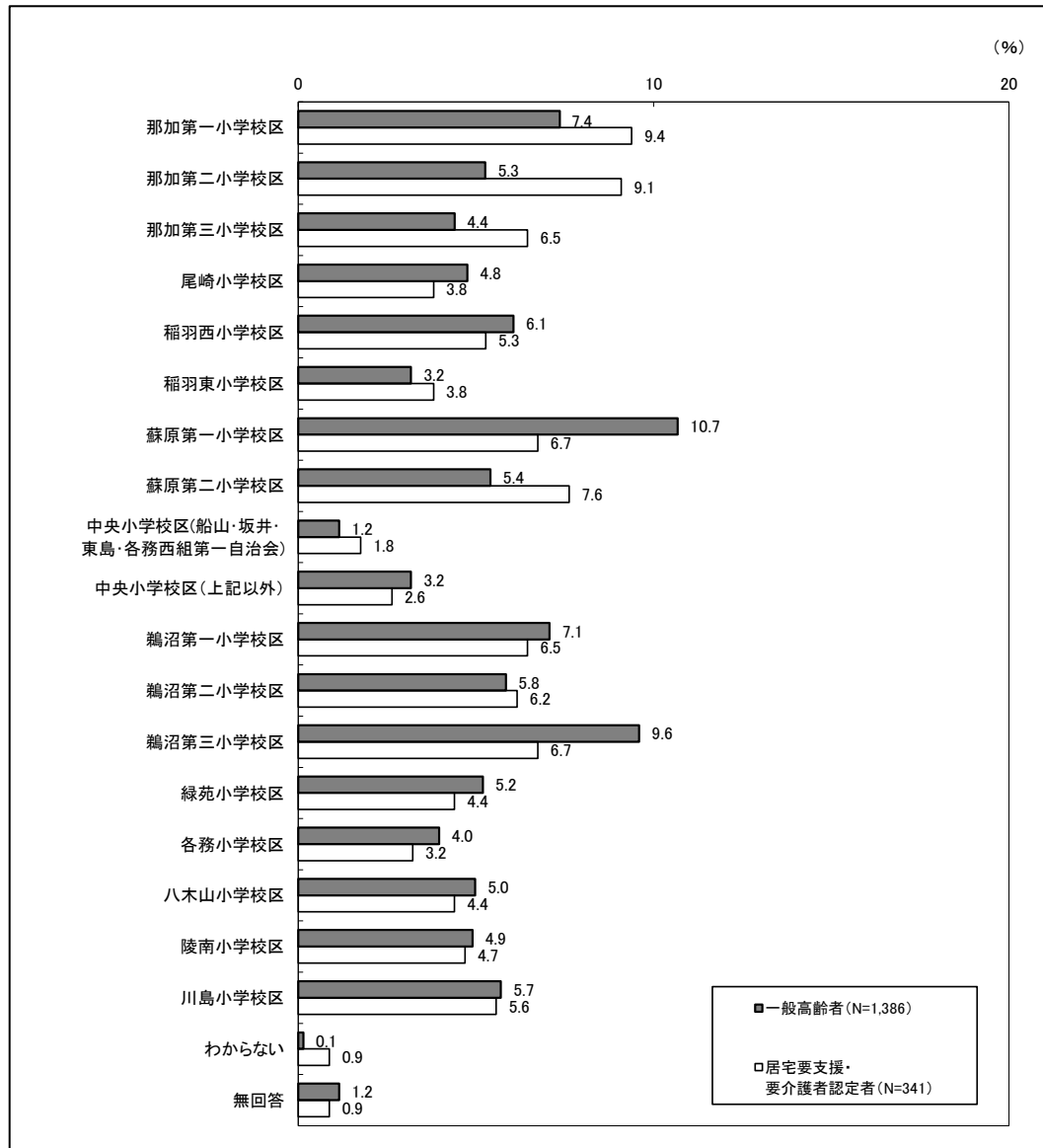


(2) 居住地区

居住地区は以下のとおり。

一般高齢者【問2】／居宅要支援・要介護認定者【問2】(単数回答)

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

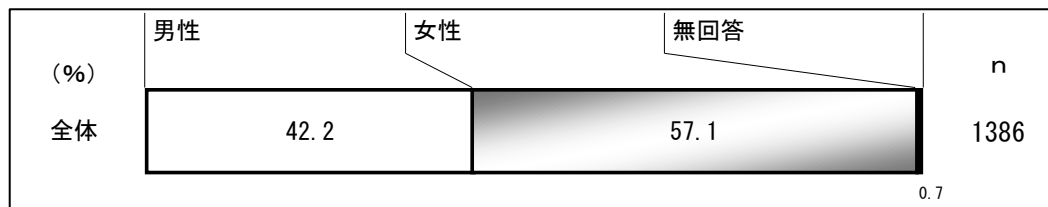


(3) 性別

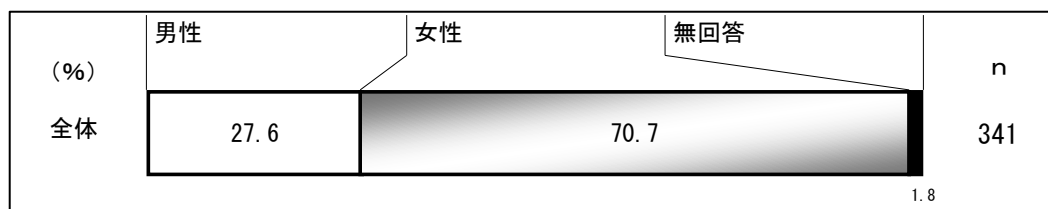
一般高齢者では「女性」が57.1%、「男性」が42.2%となっている。
 居宅要支援・要介護認定者では「女性」が70.7%、「男性」が27.6%となっている。

一般高齢者【問3】／居宅要支援・要介護認定者【問3】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



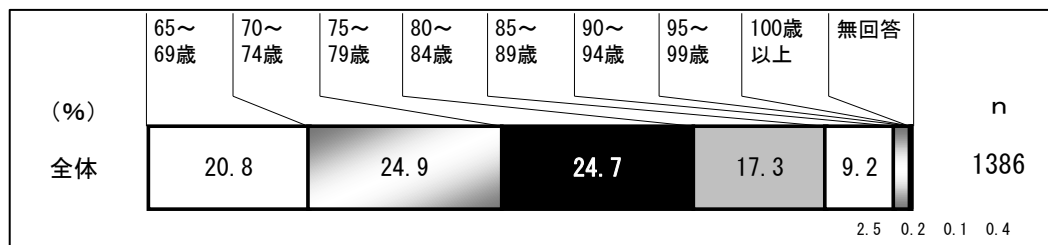
(4) 年齢

一般高齢者では「70～74歳」が24.9%、「75～79歳」が24.7%、「65～69歳」が20.8%などとなっている。

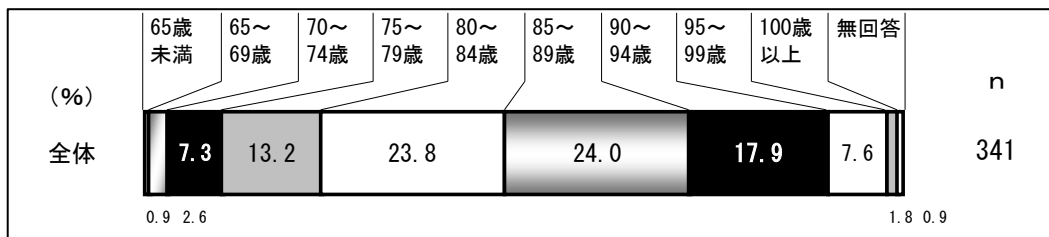
居宅要支援・要介護認定者では「85～89歳」が24.0%、「80～84歳」が23.8%、「90～94歳」が17.9%となっている。

一般高齢者【問4】／居宅要支援・要介護認定者【問4】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



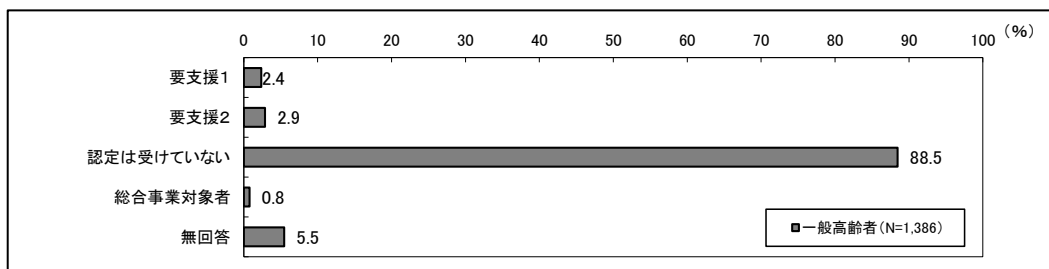
(5) 要支援・要介護度

一般高齢者では「認定は受けていない」が88.5%となっている。

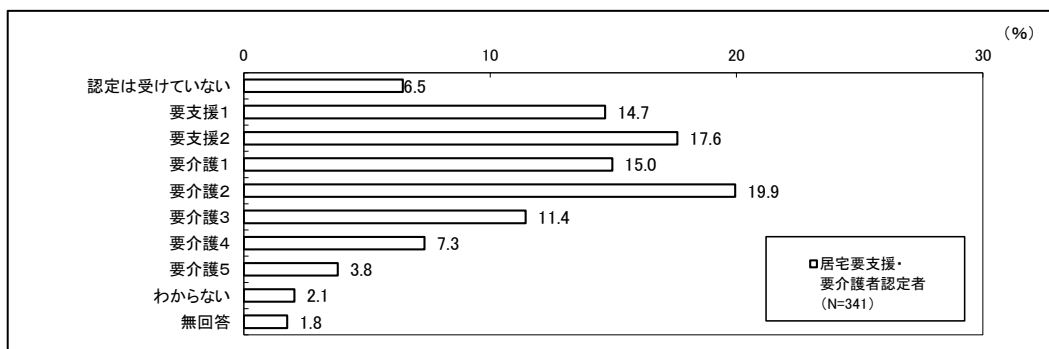
居宅要支援・要介護認定者では「要介護2」が19.9%、「要支援2」が17.6%、「要介護1」が15.0%などとなっている。

一般高齢者【問5】／居宅要支援・要介護認定者【問7】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

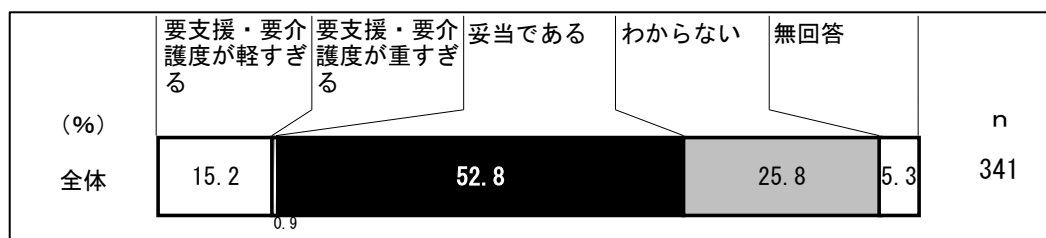


(6) 現在の要支援・要介護度に対するの考え

居宅要支援・要介護認定者の現在の要支援・要介護度に対するの考えは、「妥当である」が52.8%、「要支援・要介護度が軽すぎる」が15.2%、「要支援・要介護度が重すぎる」が0.9%、「わからない」が25.8%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問8】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

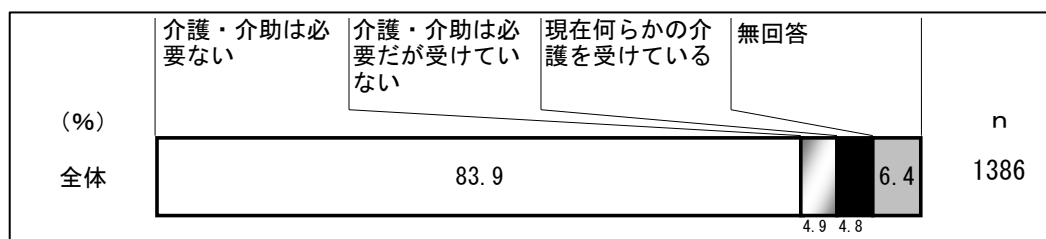


(7) 日常生活での介護・介助の必要性

一般高齢者の日常生活での介護・介助の必要性については「介護・介助は必要ない」が83.9%、「介護・介助は必要だが現在は受けていない」が4.9%、「現在何らかの介護を受けている」が4.8%となっている。

一般高齢者【問7】(単数回答)

■一般高齢者



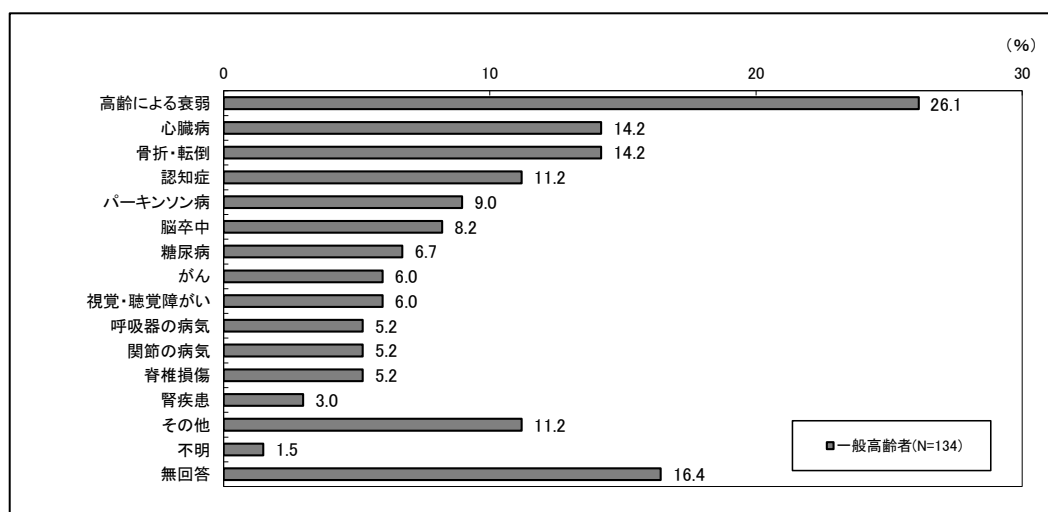
(8) 介護・介助が必要になった主な原因（認定を受けた原因）

介護・介助が必要になった原因については、一般高齢者では「高齢による衰弱」(26.1%)、「心臓病」・「骨折・転倒」(同率 14.2%) などとなっている。

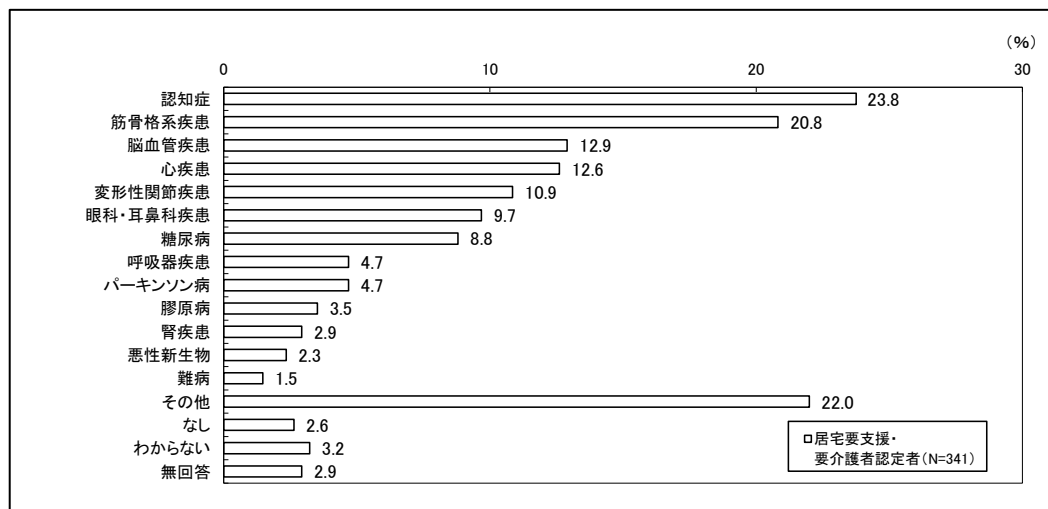
要支援・要介護認定を受けた原因については、居宅要支援・要介護認定者では「認知症」(23.8%) が最も多く、「筋骨格系疾患」(20.8%)、「脳血管疾患」(12.9%) などとなっている。

一般高齢者【問 7-1】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 9】(複数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

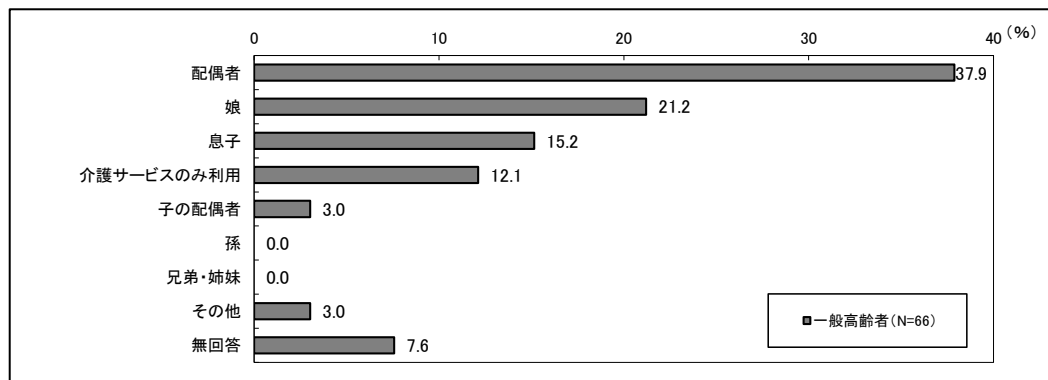


(9) 主に介護・介助する人

一般高齢者の主に介護・介助する人については、「配偶者」が37.9%、「娘」が21.2%、「息子」が15.2%、「身内の介護は受けず介護サービスのみ利用」が12.1%などとなっている。

一般高齢者【問7-2】(単数回答)

■一般高齢者

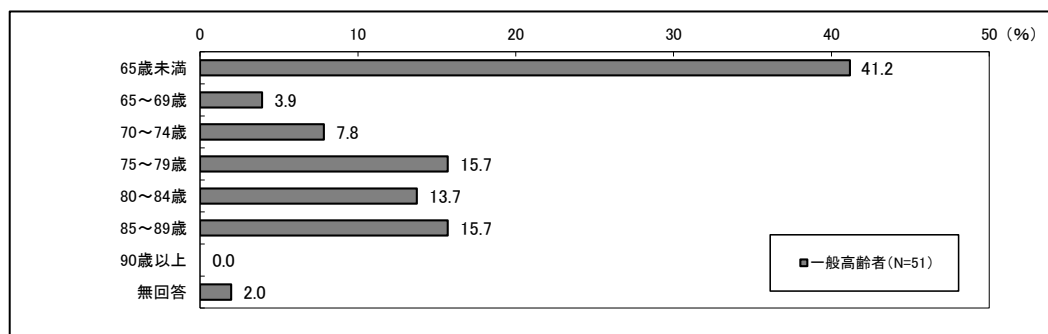


(10) 主に介護している方の年齢

主に介護・介助する方の年齢については、「65歳未満」が41.2%、「75～79歳」・「85～89歳」が同率で15.7%などとなっている。

一般高齢者【問7-3】(単数回答)

■一般高齢者

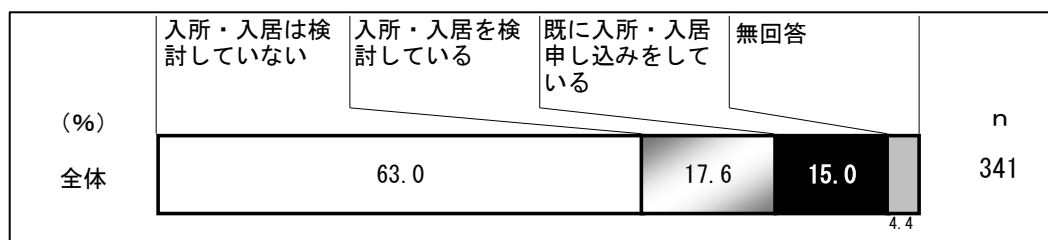


(11) 施設等への入所・入居の検討状況

居宅要支援・要介護認定者の施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が63.0%、「入所・入居を検討している」が17.6%、「既に入所・入居申し込みをしている」が15.0%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問10】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者



2 家族や生活状況について

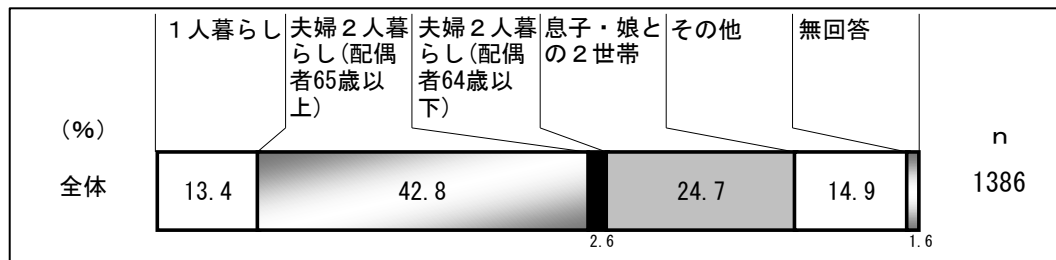
(1) 家族構成

一般高齢者の世帯は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が42.8%、「息子・娘との2世帯」が24.7%などとなっている。

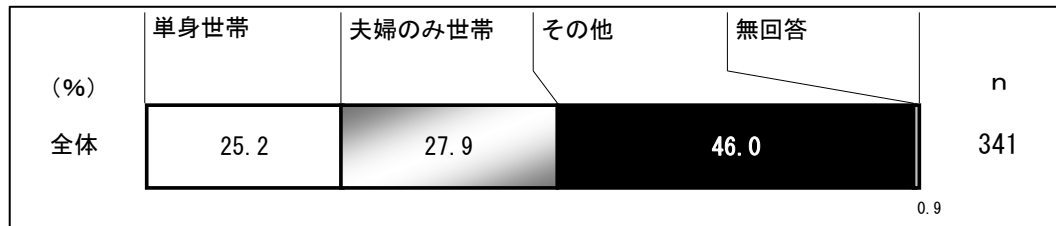
居宅要支援・要介護認定者の世帯は、「夫婦のみ世帯」が27.9%、「単身世帯」が25.2%などとなっている。

一般高齢者【問6】／居宅要支援・要介護認定者【問5】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

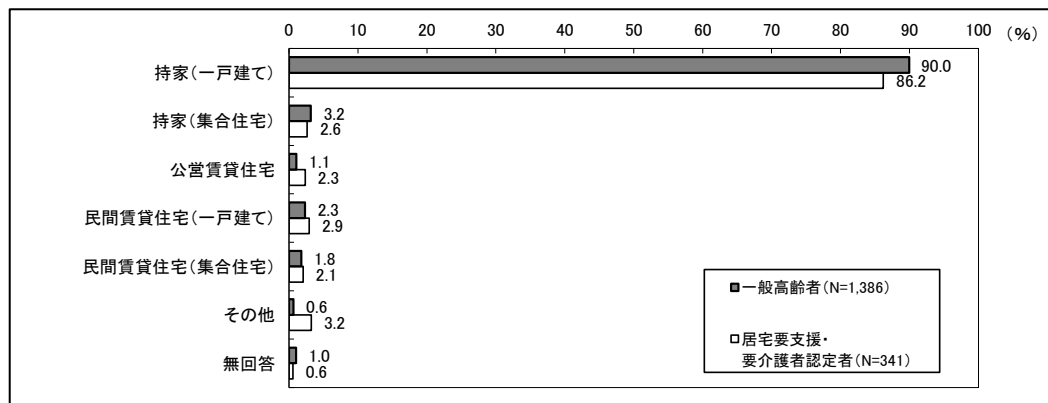


(2) 住まいの形態

住まいの形態は、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者いずれも「持家（一戸建て）」がそれぞれ90.0%、86.2%と最も高くなっている。

一般高齢者【問9】／居宅要支援・要介護認定者【問6】（単数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



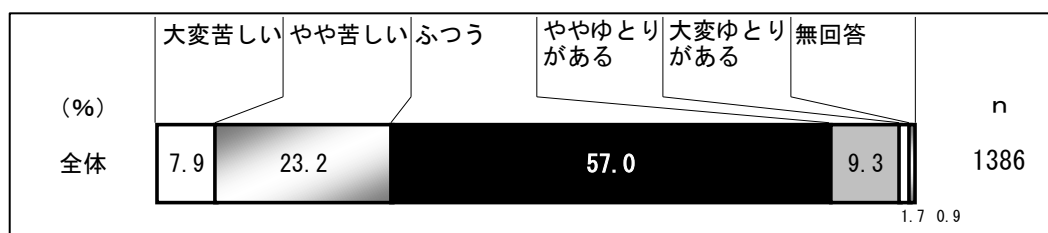
(3) 経済的にみた暮らしの状況

経済的にみた暮らしの状況は、一般高齢者では「ふつう」が57.0%を占める。「大変苦しい」(7.9%)と「やや苦しい」(23.2%)を合わせた“苦しい”は31.1%、「ややゆとりがある」(9.3%)と「大変ゆとりがある」(1.7%)を合わせた“ゆとりがある”は11.0%となっている。

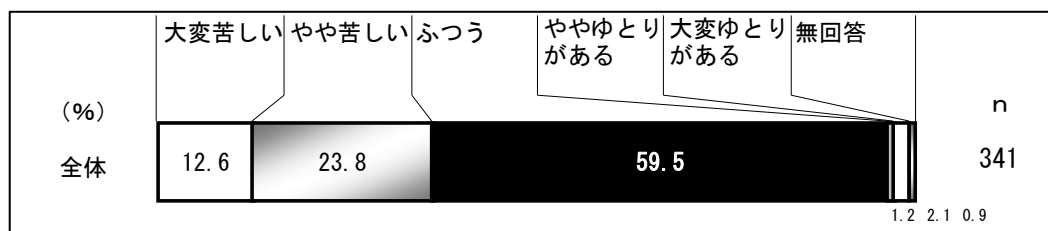
居宅要支援・要介護認定者では「ふつう」が59.5%を占める。「大変苦しい」(12.6%)と「やや苦しい」(23.8%)を合わせた“苦しい”は36.4%、「ややゆとりがある」(1.2%)と「大変ゆとりがある」(2.1%)を合わせた“ゆとりがある”は3.3%となっている。

一般高齢者【問8】／居宅要支援・要介護認定者【問11】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

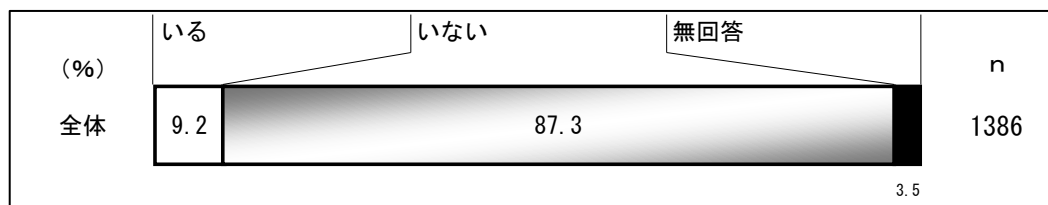


(4) 仕事や学校等に行かず家族以外との交流をしない人

一般高齢者を対象に仕事や学校等に行かず家族以外との交流をしない人がいるかたずねたところ、「いる」は9.2%となっている。

一般高齢者【問10】(単数回答)

■一般高齢者



3 健康について

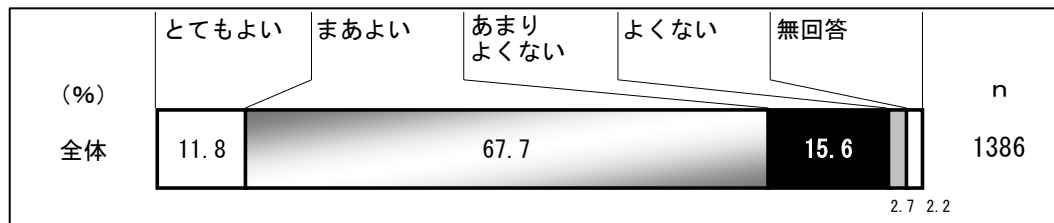
(1) 現在の健康状態

現在の健康状態についてたずねたところ、一般高齢者では「とてもよい」(11.8%)と「まあよい」(67.7%)を合わせた“よい”が79.5%、「あまりよくない」(15.6%)と「よくない」(2.7%)を合わせた“よくない”が18.3%となっている。

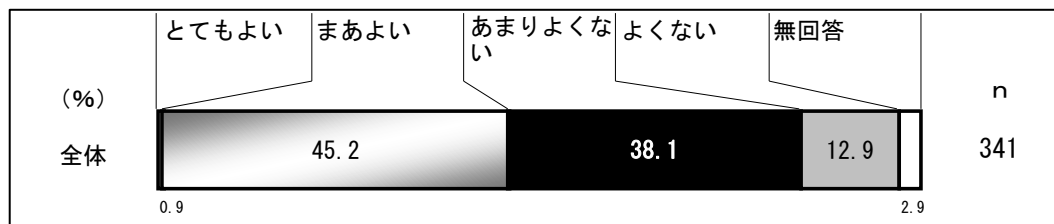
居宅要支援・要介護認定者では「とてもよい」(0.9%)と「まあよい」(45.2%)を合わせた“よい”が46.1%、「あまりよくない」(38.1%)と「よくない」(12.9%)を合わせた“よくない”が51.0%となっている。

一般高齢者【問 45】／居宅要支援・要介護認定者【問 12】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



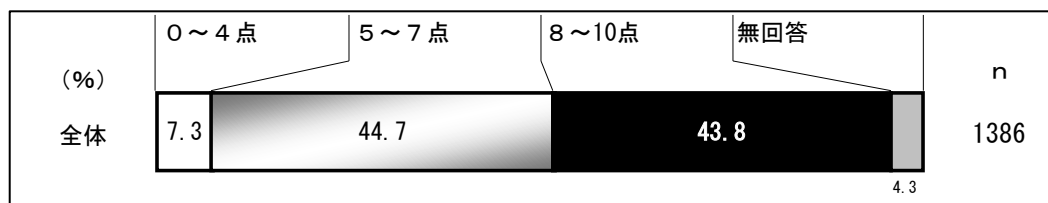
(2) 現在の幸福度

現在の幸福度をたずねたところ、一般高齢者では「5～7点」が44.7%、「8～10点」が43.8%、「0～4点」が7.3%となっている。

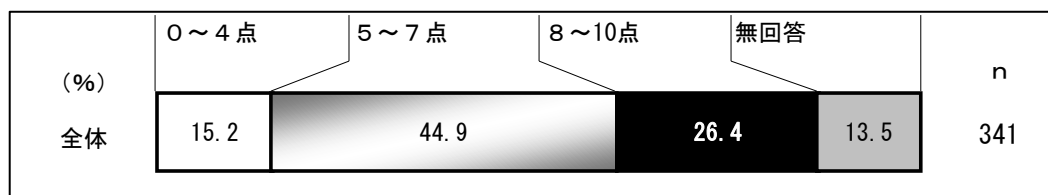
居宅要支援・要介護認定者では「5～7点」が44.9%、「8～10点」が26.4%、「0～4点」が15.2%となっている。居宅要支援・要介護認定者に比べると、一般高齢者では幸福度が高くなっている。

一般高齢者【問 46】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 45】 (単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

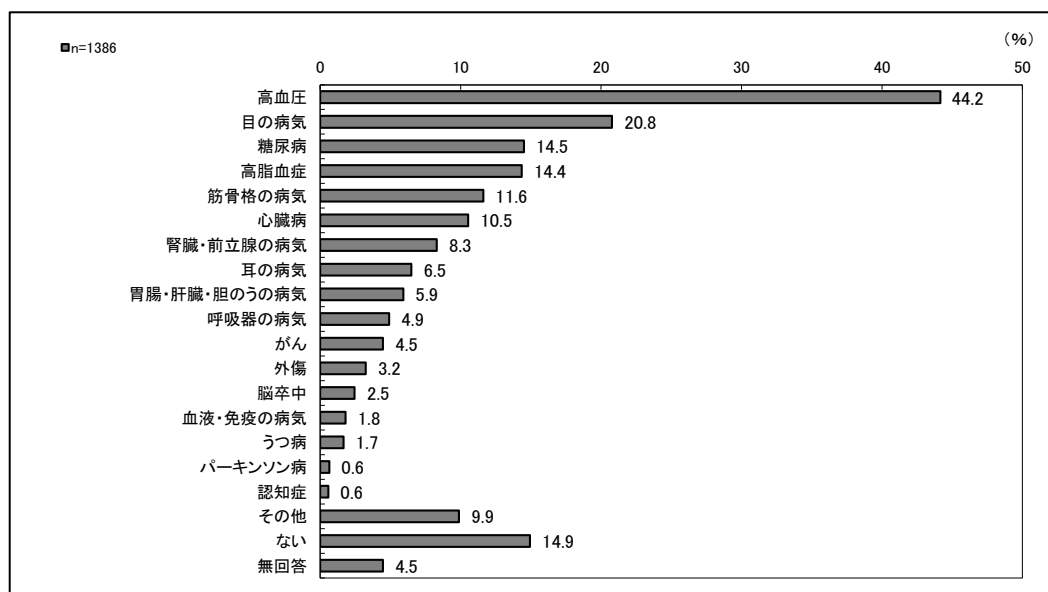


(3) 現在治療中または後遺症のある病気

一般高齢者の現在治療中または後遺症のある病気については、「高血圧」(44.2%)が最も高く、次いで「目の病気」(20.8%)、「糖尿病」(14.5%)などとなっている。なお、「ない」は14.9%となっている。

一般高齢者【問 51】(複数回答)

■一般高齢者

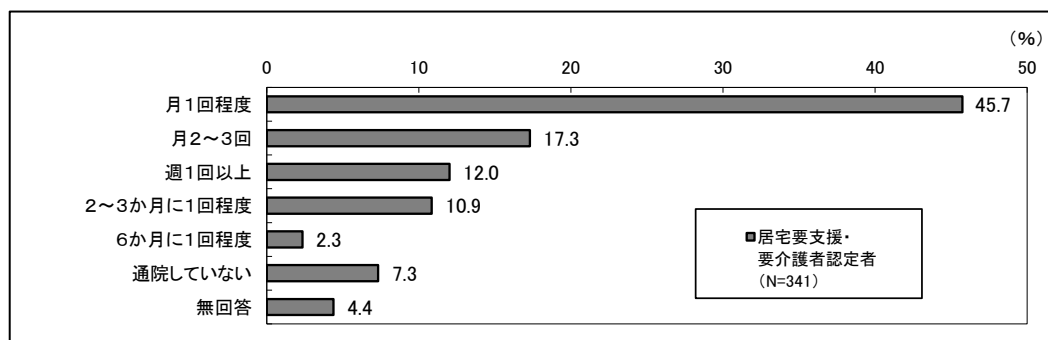


(4) 病院・医院への通院頻度

居宅要支援・要介護認定者の病院・医院への通院頻度については、「月1回程度」が45.7%、「月2～3回」が17.3%、「週1回以上」が12.0%などとなっている。なお、「通院していない」は7.3%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 13】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

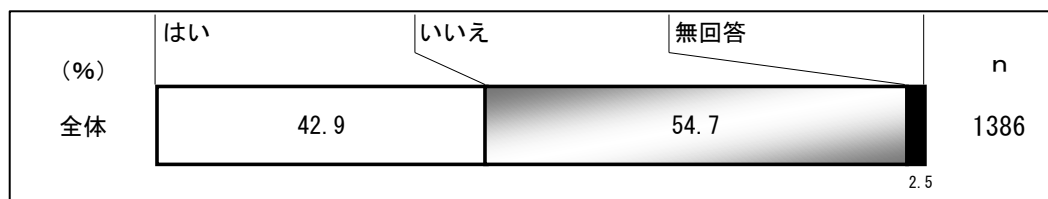


(5) 気分が沈んだりゆううつな気持ちになる

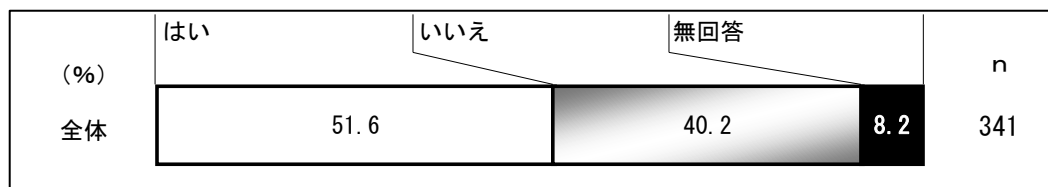
気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったかたずねたところ、一般高齢者では「いいえ」が54.7%、「はい」が42.9%となっている。居宅要支援・要介護認定では「いいえ」が40.2%、「はい」が51.6%となっている。

一般高齢者【問 47】／居宅要支援・要介護認定者【問 46】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

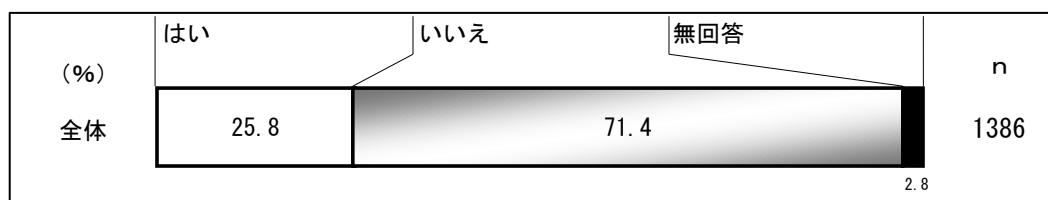


(6) 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない

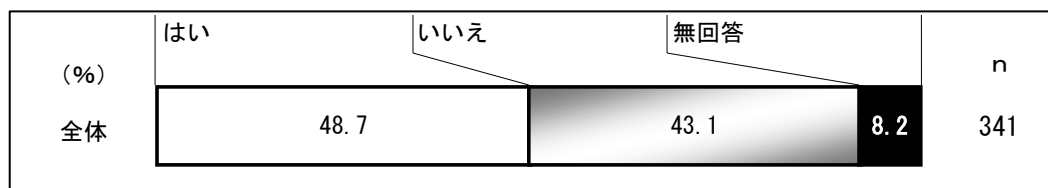
物事に対して興味がわからない、心から楽しめないことがあったかたずねたところ、一般高齢者では「いいえ」が71.4%、「はい」が25.8%となっている。居宅要支援・要介護認定では「いいえ」が43.1%、「はい」が48.7%となっている。

一般高齢者【問 48】／居宅要支援・要介護認定者【問 47】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

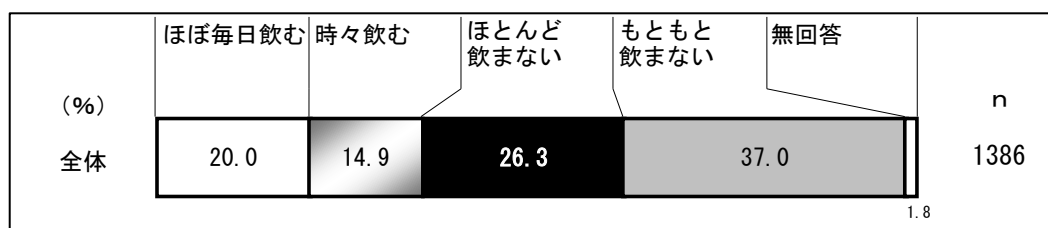


(7) 飲酒習慣の有無

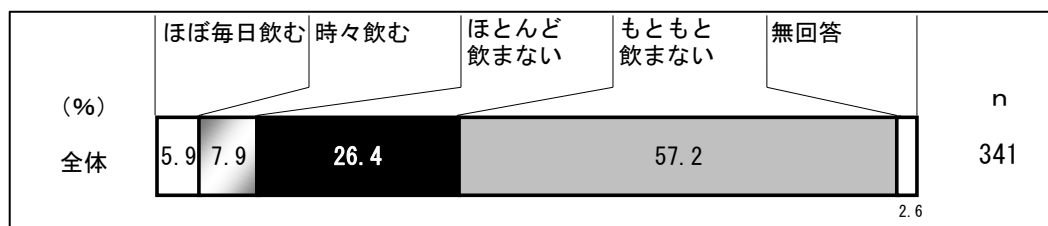
飲酒習慣の有無についてたずねたところ、一般高齢者では「もともと飲まない」が37.0%、「ほとんど飲まない」が26.3%、「ほぼ毎日飲む」が20.0%、「時々飲む」が14.9%となっている。居宅要支援・要介護認定では「もともと飲まない」が57.2%、「ほとんど飲まない」が26.4%、「時々飲む」が7.9%、「ほぼ毎日飲む」が5.9%となっている。居宅要支援・要介護認定者に比べると、一般高齢者は飲酒習慣のある人の割合が高くなっている。

一般高齢者【問 49】／居宅要支援・要介護認定者【問 48】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

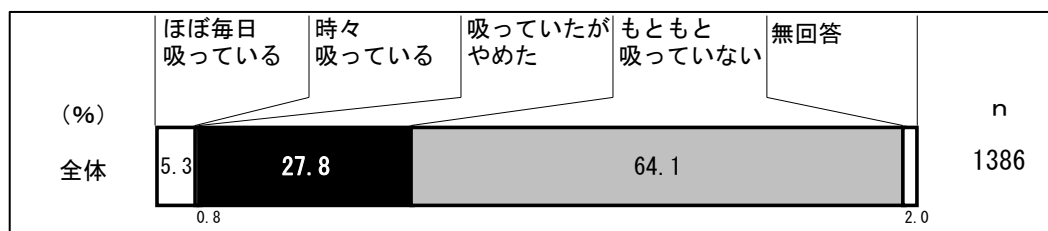


(8) 喫煙習慣の有無

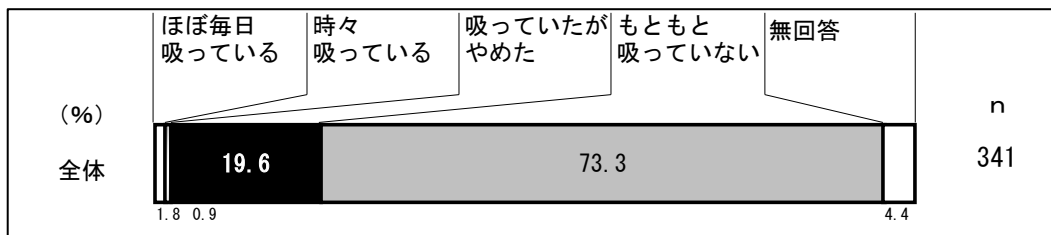
喫煙習慣の有無についてたずねたところ、一般高齢者では「もともと吸っていない」が64.1%、「吸っていたがやめた」が27.8%、「ほぼ毎日吸っている」が5.3%、「時々吸っている」が0.8%となっている。居宅要支援・要介護認定では「もともと吸っていない」が73.3%、「吸っていたがやめた」が19.6%、「ほぼ毎日吸っている」が1.8%、「時々吸っている」が0.9%となっている。

一般高齢者【問 50】／居宅要支援・要介護認定者【問 49】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



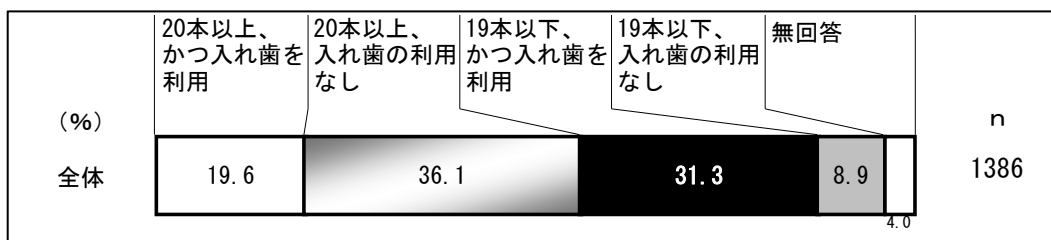
(9) 歯の数と入れ歯の利用状況

歯の数と入れ歯の利用状況については、一般高齢者では「20本以上、入れ歯の利用なし」が36.1%、居宅要支援・要介護認定者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が44.6%となっている。

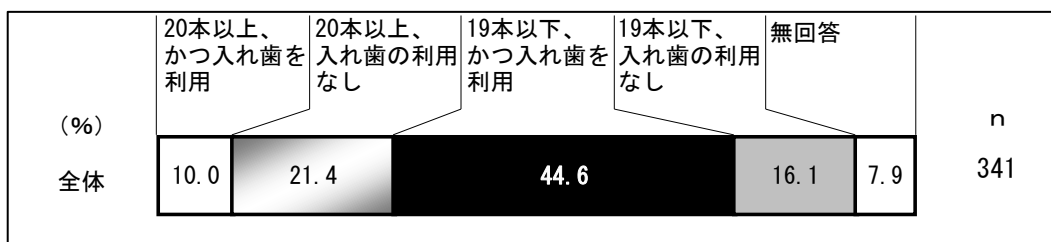
居宅要支援・要介護認定者と比べると、一般高齢者では“自分の歯は20本以上”の割合が高くなっている。

一般高齢者【問22】／居宅要支援・要介護認定者【問26】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



(10) 歯や口の健康状態について

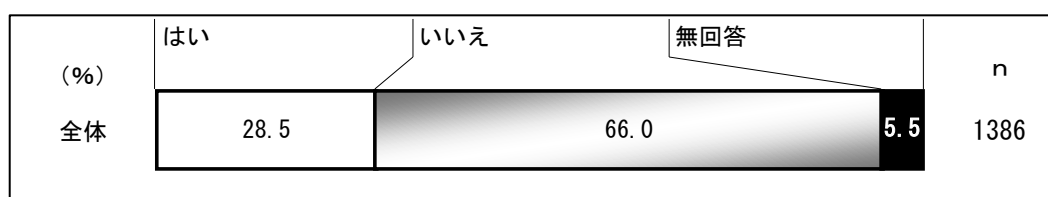
歯や口の健康状態については、居宅要支援者・要介護認定者では、「①半年前と比べて固いものが食べにくくなったか」「②お茶や汁物等でむせることがあるか」「③口の渇きが気になるか」の項目で「はい」の割合が、一般高齢者と比べて高くなっている。

「⑤定期的に歯科受診をしているか(健診含む)」については、「はい」と答えた割合が、一般高齢者で6割弱、要支援・要介護認定で4割強となっている。

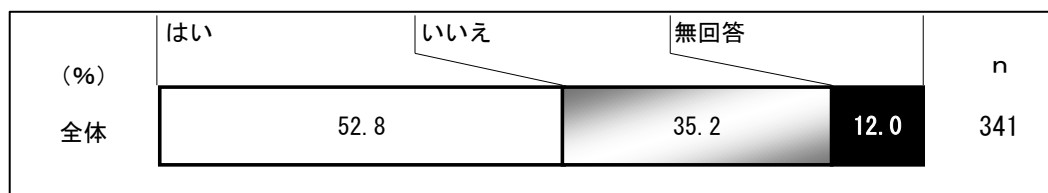
一般高齢者【問 21①～⑤】／居宅要支援・要介護認定者【問 25①～⑤】(単数回答)

①半年前と比べて固いものが食べにくくなったか

■一般高齢者

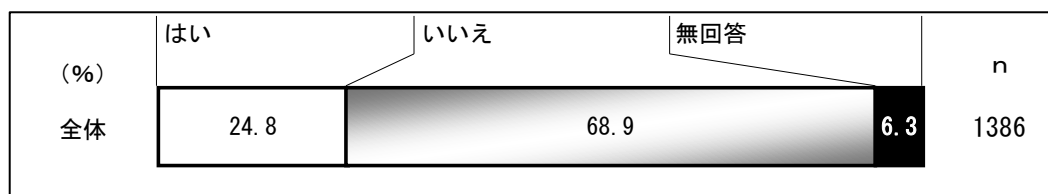


■居宅要支援・要介護認定者

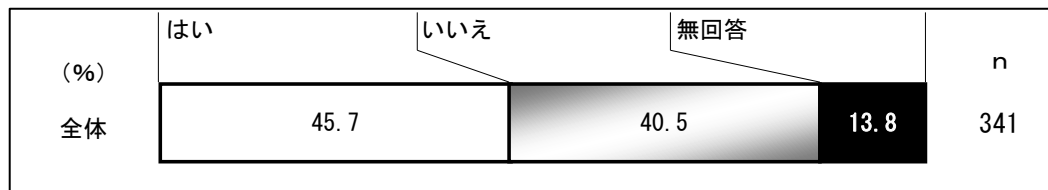


②お茶や汁物等でむせることがあるか

■一般高齢者

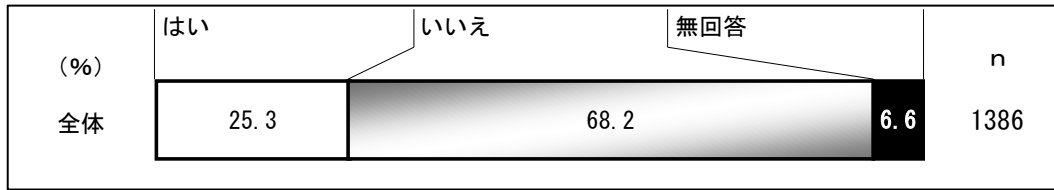


■居宅要支援・要介護認定者

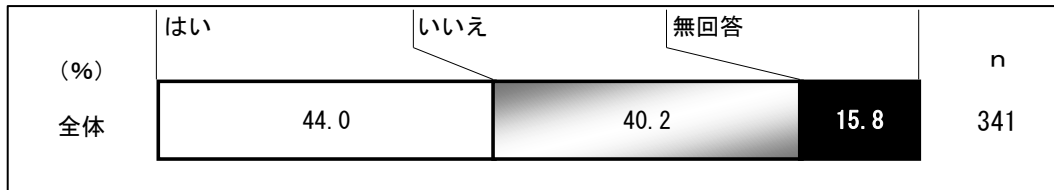


③口の渇きが気になるか

■一般高齢者

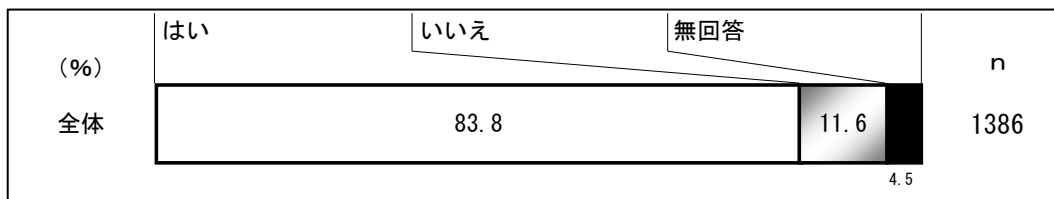


■居宅要支援・要介護認定者

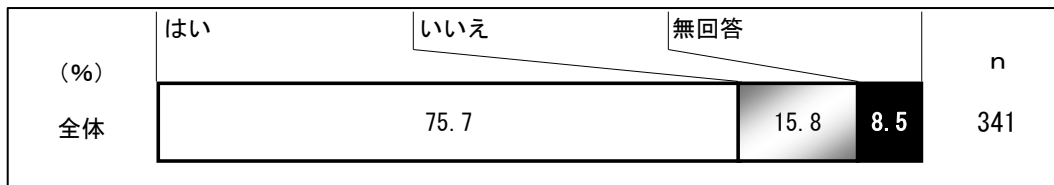


④歯磨きを毎日しているか

■一般高齢者

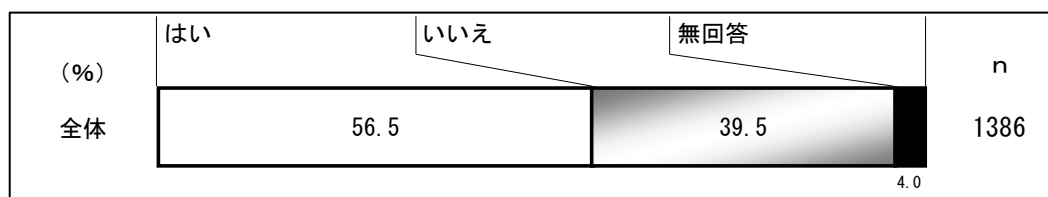


■居宅要支援・要介護認定者

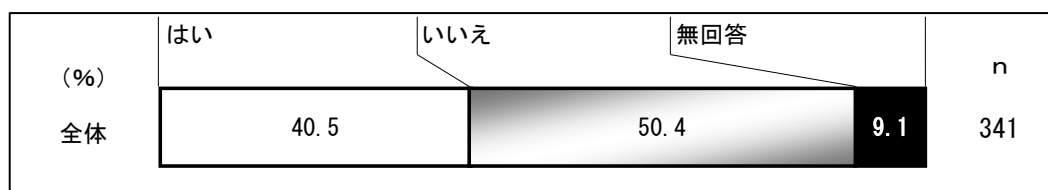


⑤定期的に歯科受診をしているか

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

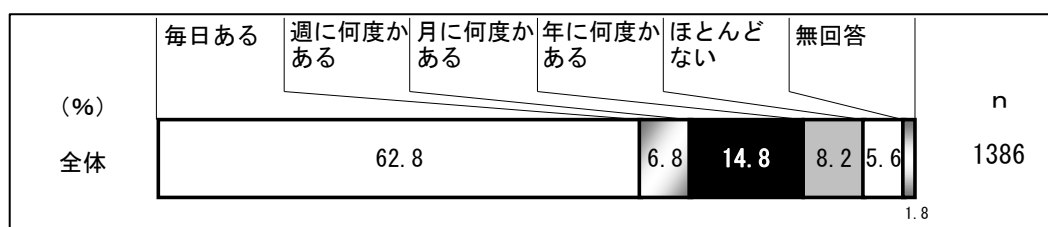


(11) 誰かと食事をとにもする機会

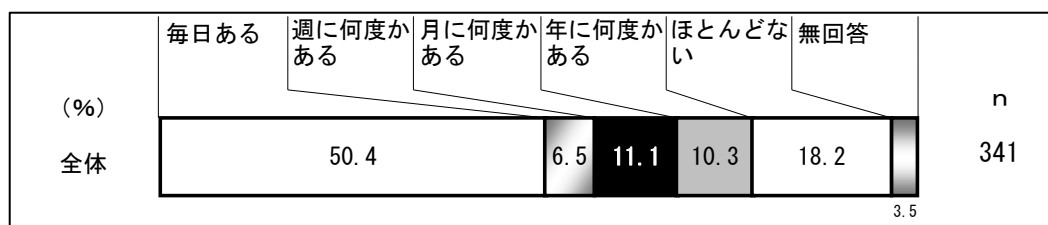
誰かと食事をとにもする機会についてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者いずれも「毎日ある」が最も高く、それぞれ62.8%、50.4%となっている。「ほとんどない」は一般高齢者が5.6%、居宅要支援・要介護認定者が18.2%となっている。

一般高齢者【問23】／居宅要支援・要介護認定者【問27】（単数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



■居宅要支援・要介護認定者

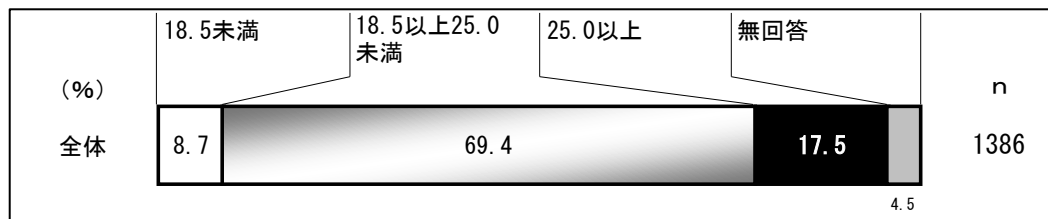


(12) BMI

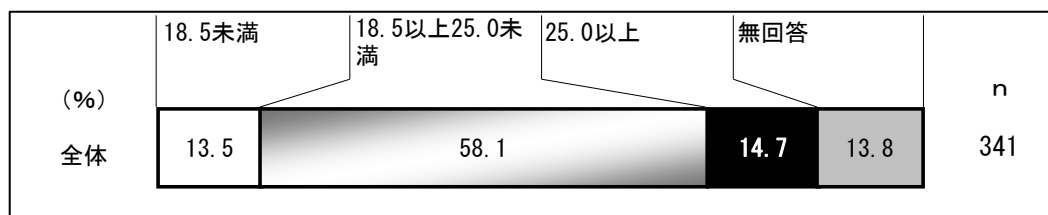
身長・体重から算出される BMI についてみると、一般高齢者では「18.5 以上 25.0 未満」が 69.4%、「25.0 以上」が 17.5%、「18.5 未満」が 8.7%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「18.5 以上 25.0 未満」が 58.1%、「25.0 以上」が 14.7%、「18.5 未満」が 13.5%となっている。

一般高齢者【問 19】／居宅要支援・要介護認定者【問 23】

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



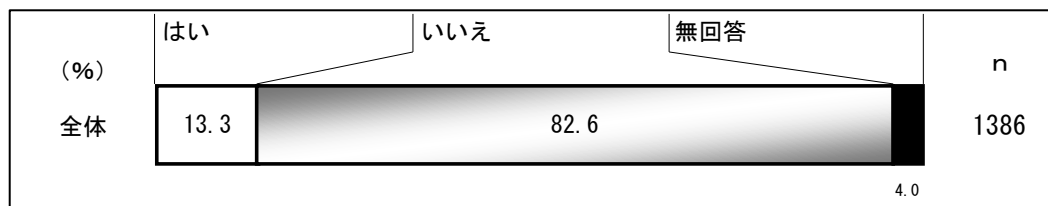
(13) 半年で2～3kg以上の体重減少があったか

半年で2～3kg以上の体重減少があったかたずねたところ、一般高齢者では「いいえ」が82.6%、「はい」が13.3%となっている。

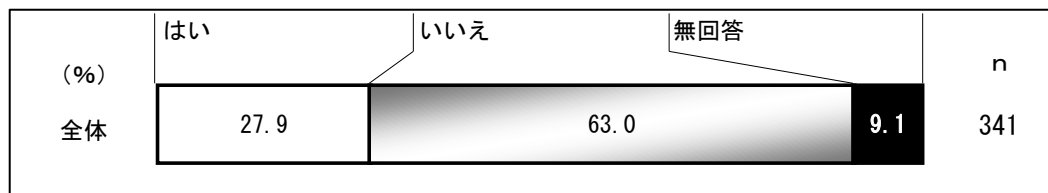
居宅要支援・要介護認定者では「いいえ」が63.0%、「はい」が27.9%となっている。

一般高齢者【問 20】／居宅要支援・要介護認定者【問 24】（単数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



■居宅要支援・要介護認定者

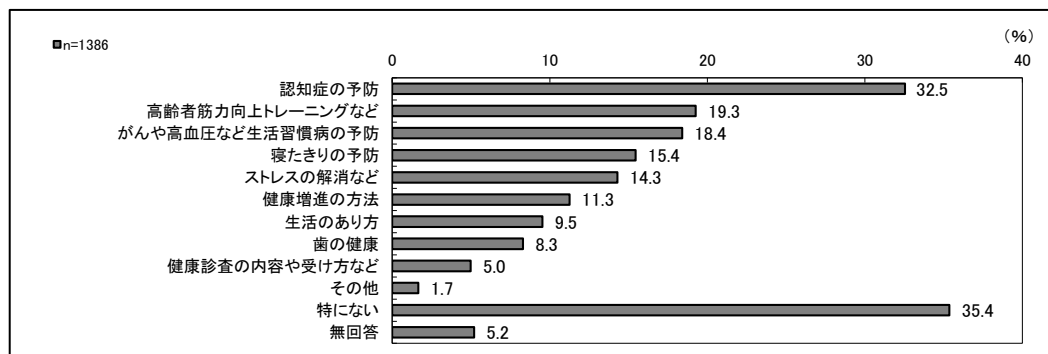


(14) 健康について知りたいこと

一般高齢者に健康について知りたいことをたずねたところ、「認知症の予防」(32.5%)が最も高く、次いで「高齢者筋力向上トレーニングなど」(19.3%)、「がんや高血圧などの生活習慣病の予防」(18.4%)などとなっている。なお、「特にない」は35.4%となっている。

一般高齢者【問 52】（複数回答）

■一般高齢者



4 運動や外出状況について

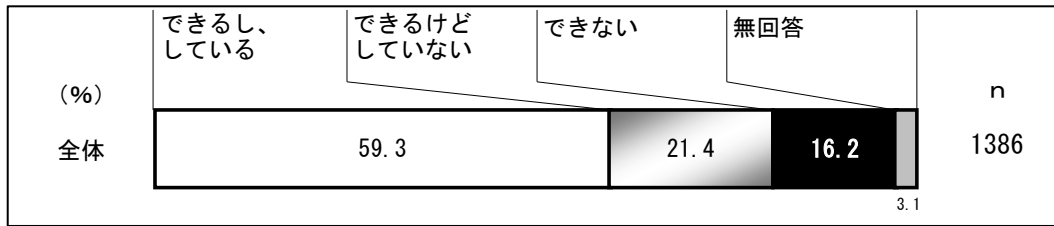
(1) 運動能力や身体状況について

運動能力や身体状況については、いずれの項目も「できるし、している」と答えた一般高齢者の割合が、要支援・要介護認定者と比べ、50ポイント程度高くなっている。

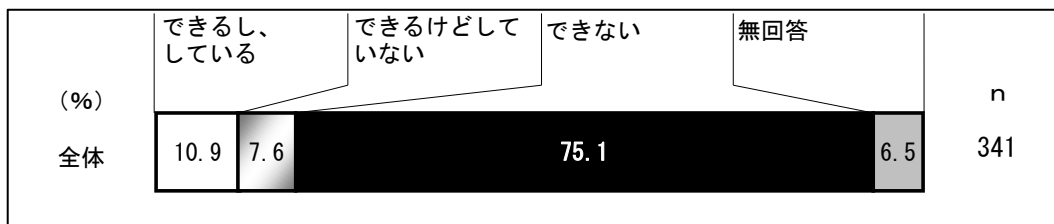
一般高齢者【問 11①～③】／居宅要支援・要介護認定者【問 15①～③】(単数回答)

①階段を手すりや壁をつたわずに昇る

■一般高齢者

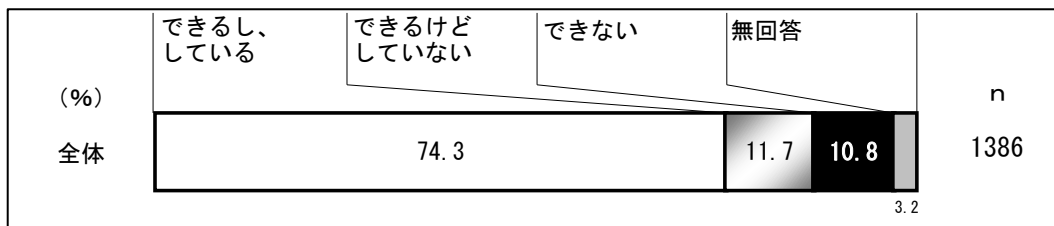


■居宅要支援・要介護認定者

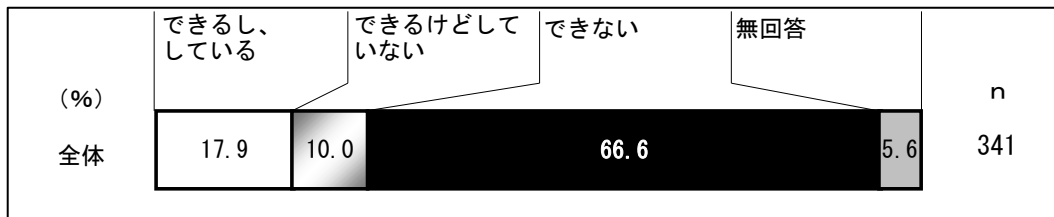


②椅子から何もつかまらずに立ち上がる

■一般高齢者

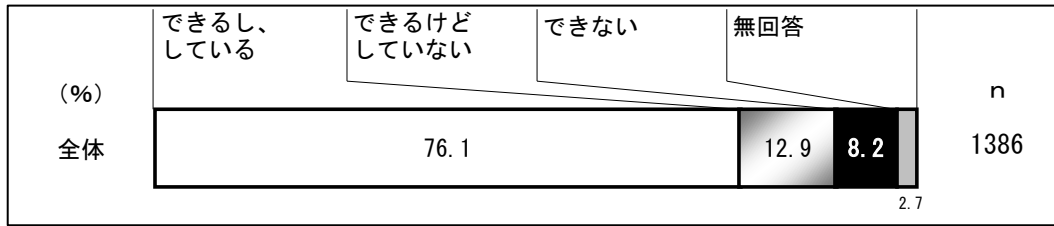


■居宅要支援・要介護認定者

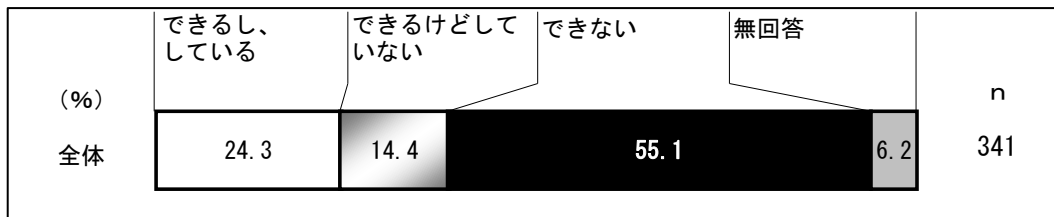


③15分位続けて歩く

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

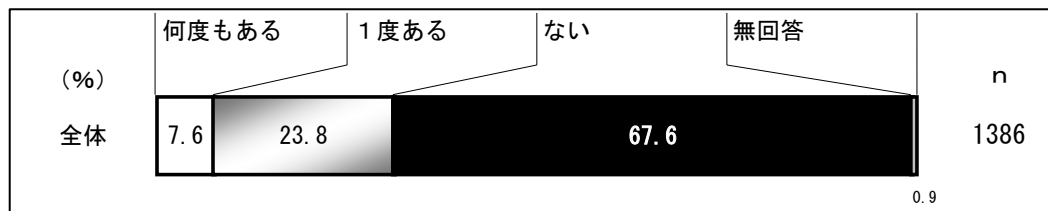


(2) 過去1年間の転倒経験

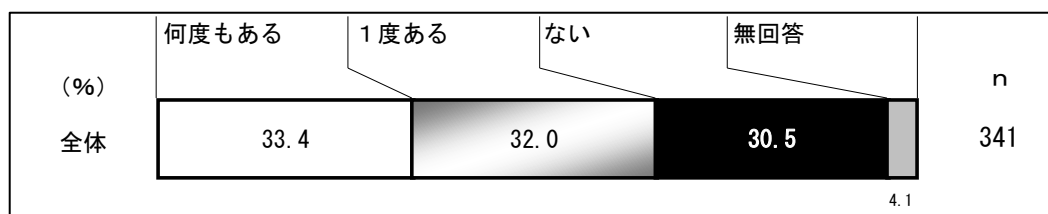
過去1年間の転倒経験については、要支援・要介護認定では一般高齢者と比べ頻度が高く、「何でもある」が33.4%となっている。

一般高齢者【問12】／居宅要支援・要介護認定者【問16】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

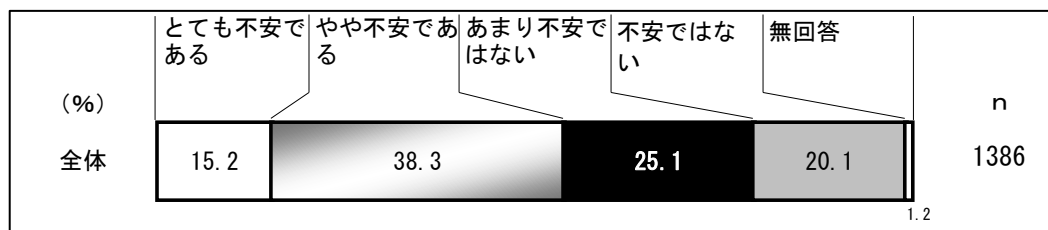


(3) 転倒に対する不安

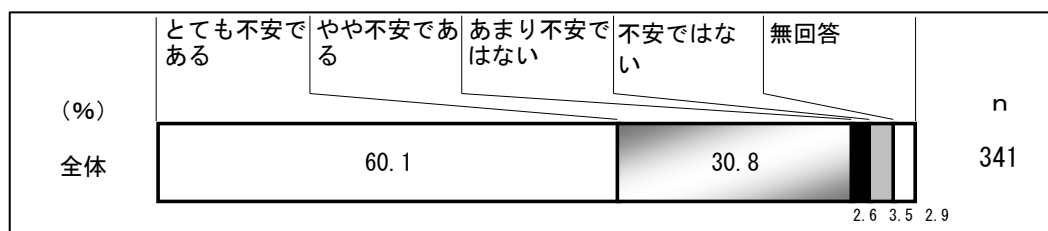
転倒に対する不安については、居宅要支援・要介護認定者では、「とても不安である」が60.1%と一般高齢者の15.2%と比べ高くなっている。

一般高齢者【問13】／居宅要支援・要介護認定者【問17】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

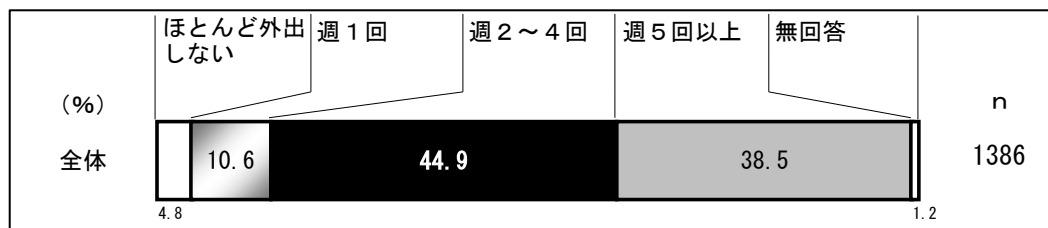


(4) 週に1回以上の外出

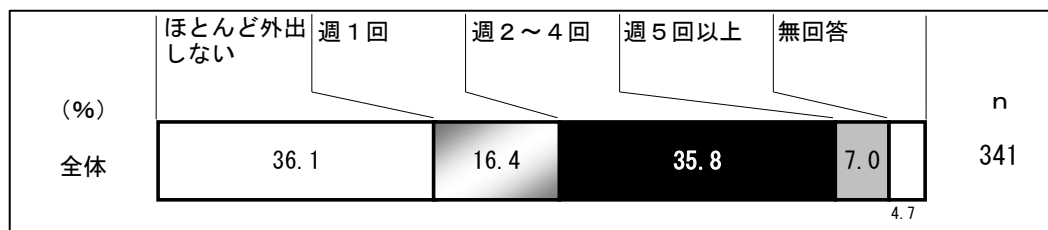
週に1回以上の外出をしているかたずねたところ、一般高齢者では「週2～4回」が44.9%と最も高く、次いで「週5回以上」が38.5%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「ほとんど外出しない」が36.1%と最も高く、次いで「週2～4回」が35.8%となっている。

一般高齢者【問14】／居宅要支援・要介護認定者【問18】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



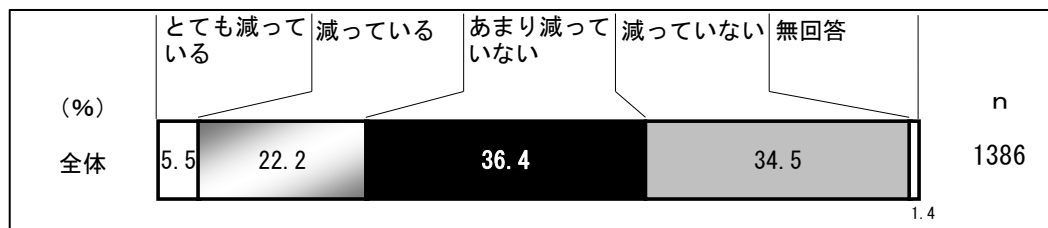
(5) 外出の回数が減っているか

昨年と比べて外出の回数が減っているかたずねたところ、一般高齢者では「とても減っている」(5.5%)と「減っている」(22.2%)を合わせた“減っている”が27.7%、「あまり減っていない」(36.4%)と「減っていない」(34.5%)を合わせた“減っていない”が70.9%となっている。

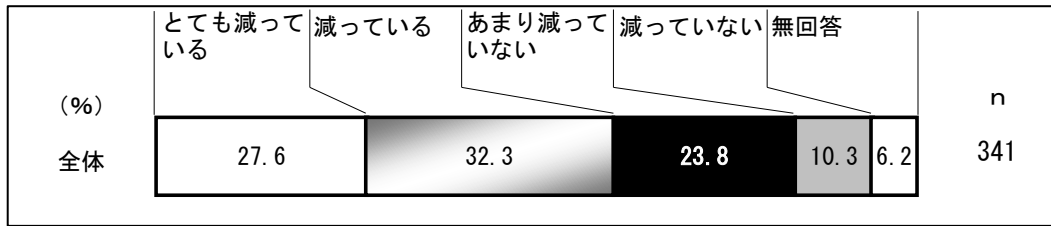
居宅要支援・要介護認定者では「とても減っている」(27.6%)と「減っている」(32.3%)を合わせた“減っている”が59.9%、「あまり減っていない」(23.8%)と「減っていない」(10.3%)を合わせた“減っていない”が34.1%となっている。

一般高齢者【問15】／居宅要支援・要介護認定者【問19】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

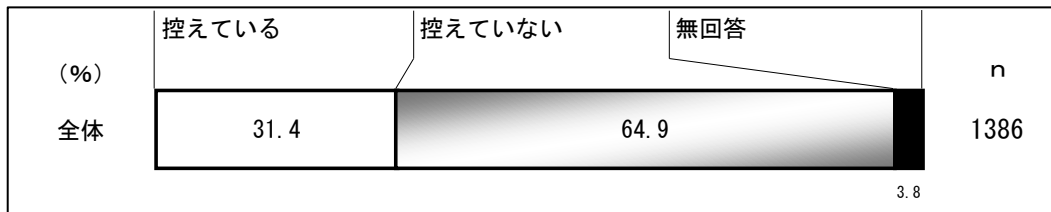


(6) 外出を控えているか

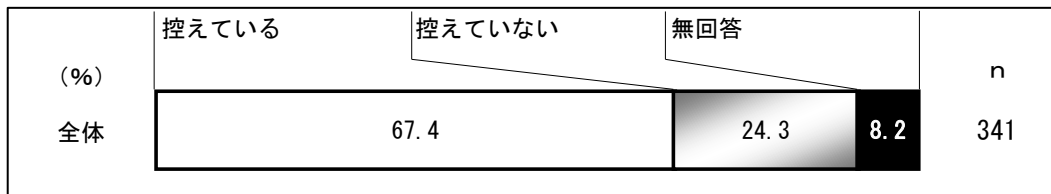
外出を控えているかたずねたところ、一般高齢者では「控えていない」が64.9%、「控えている」が31.4%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「控えている」が67.4%、「控えていない」が24.3%となっている。

一般高齢者【問16】／居宅要支援・要介護認定者【問20】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

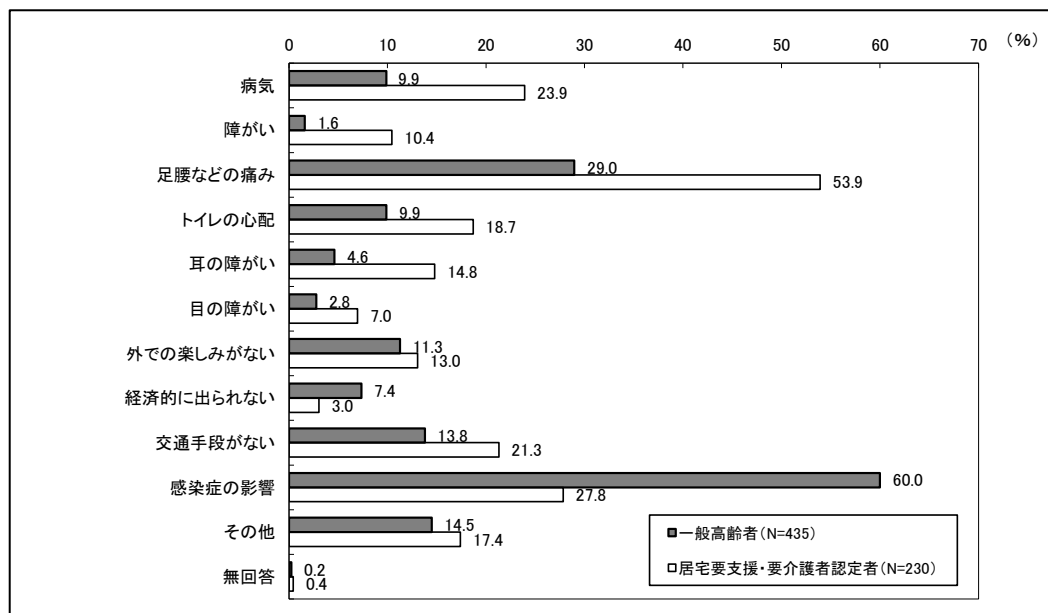


(7) 外出を控えている理由

外出を控えている理由については、一般高齢者では、「感染症の影響」(60.0%)が最も多いのに対し、居宅要支援・要介護認定者では「足腰などの痛み」(53.9%)が最も多い。

一般高齢者【問 16-1】／居宅要支援・要介護認定者【問 20-1】(複数回答)

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

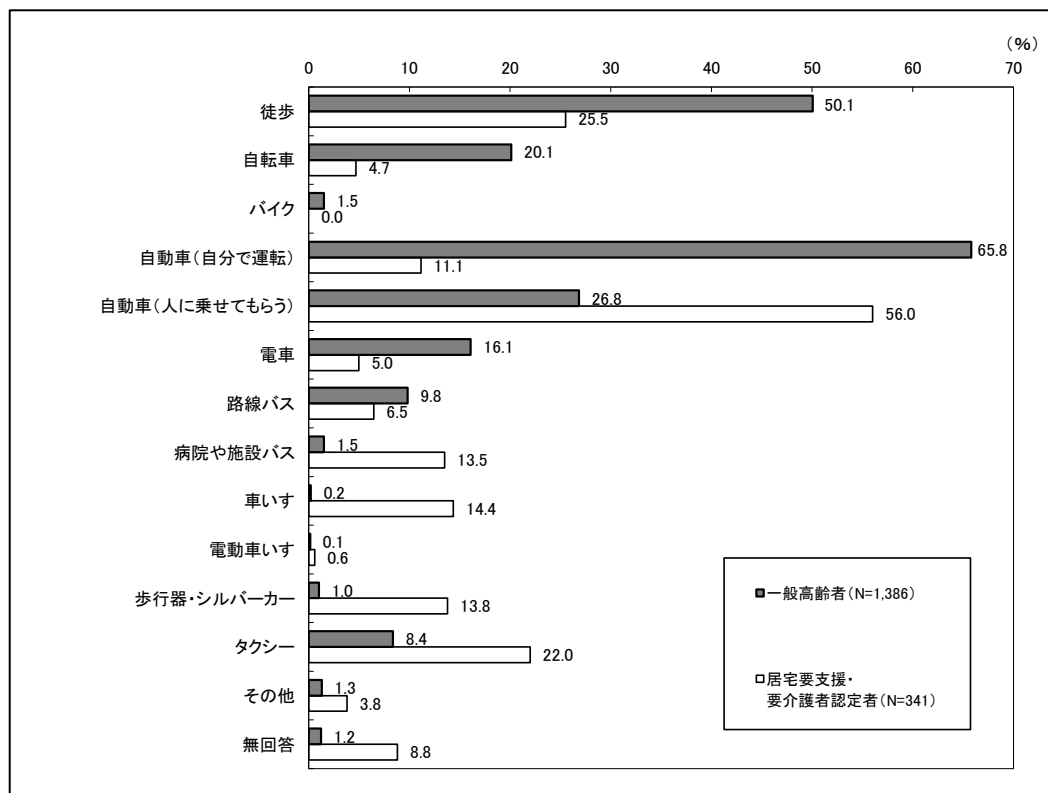


(8) 外出する際の移動手段

外出する際の移動手段については、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」(65.8%)が最も多いのに対し、居宅要支援・要介護認定者では「自動車(人に乗せてもらう)」(56.0%)が最も多くなっている。

一般高齢者【問 17】／居宅要支援・要介護認定者【問 21】(複数回答)

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

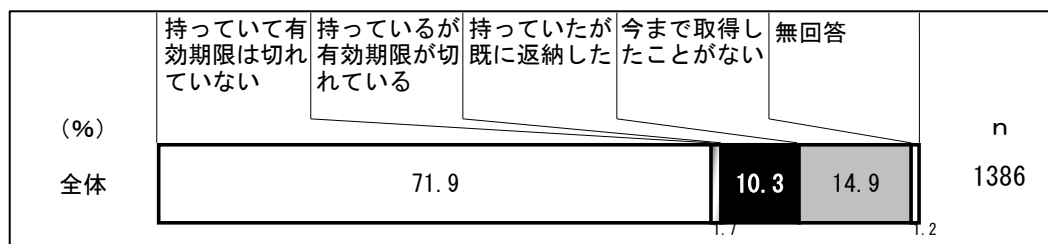


(9) 運転免許証の有無

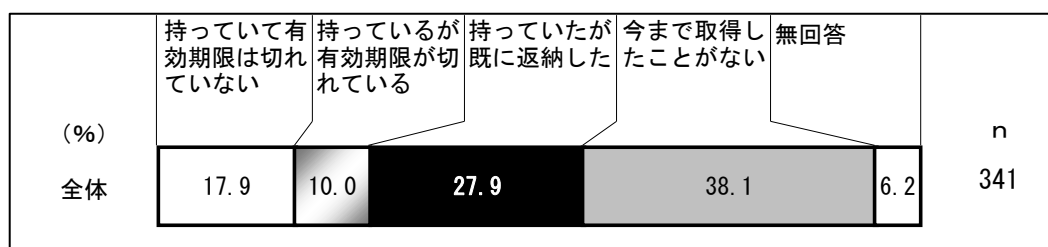
運転免許証の有無については、一般高齢者では「持っている有効期限は切れていない」が71.9%で最も高くなっているのに対し、居宅要支援・要介護認定者では「今まで取得したことがない」が38.1%と最も高くなっている。

一般高齢者【問 18】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 22】 (複数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



5 物忘れについて

(1) 日常生活での物忘れについて

①物忘れが多いと感じるかたずねたところ、一般高齢者では「いいえ」が53.5%、「はい」が42.4%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「はい」が67.2%、「いいえ」が23.5%となっている。

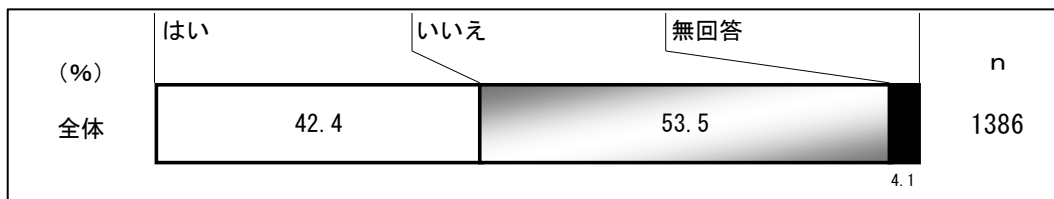
②今日が何月何日かわからない時があるかたずねたところ、一般高齢者では「いいえ」が74.0%、「はい」が21.4%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「はい」が51.9%、「いいえ」が37.8%となっている。

③5分前のことが思い出せるかたずねたところ、居宅要支援・要介護認定者では「はい」が53.7%、「いいえ」が34.6%となっている。

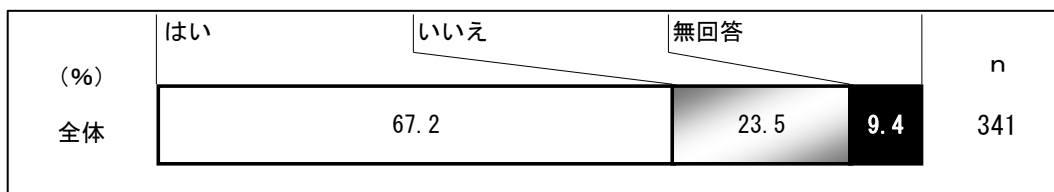
一般高齢者【問 24①～②】／居宅要支援・要介護認定者【問 28①～③】(単数回答)

①物忘れが多いと感じるか

■一般高齢者

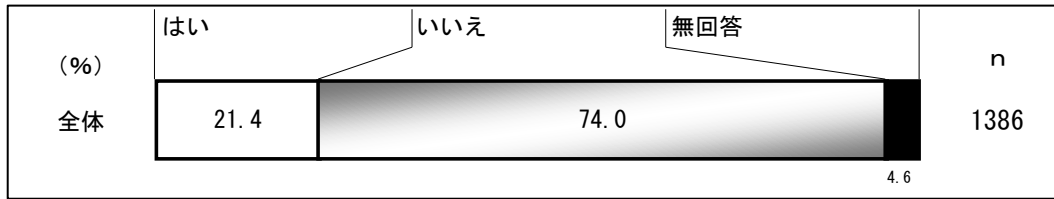


■居宅要支援・要介護認定者

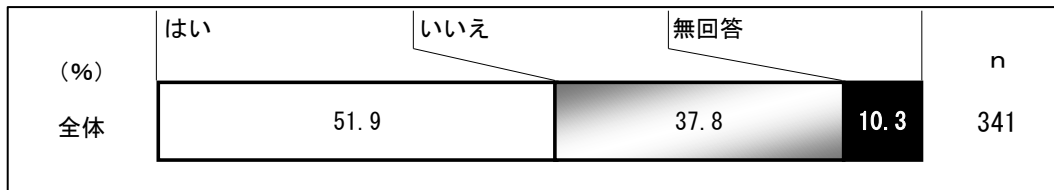


②今日が何月何日かわからないときがあるか

■一般高齢者

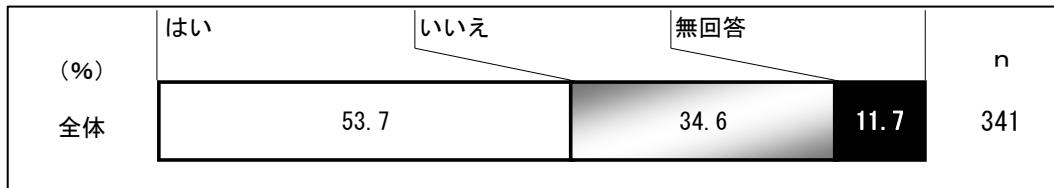


■居宅要支援・要介護認定者



③5分前のことが思い出せるか

■居宅要支援・要介護認定者

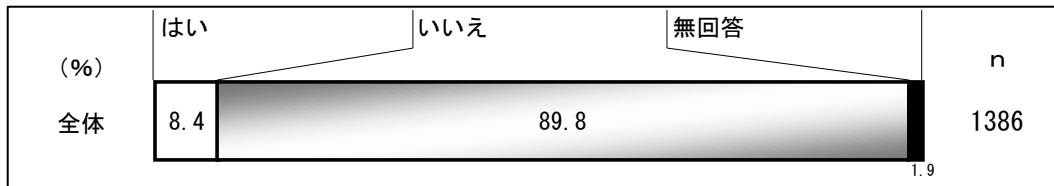


(2) 自分または家族に認知症の症状があるか

自分または家族に認知症の症状があるかたずねたところ、「いいえ」が89.8%、「はい」が8.4%となっている。

■一般高齢者【問 53】(単数回答)

■一般高齢者

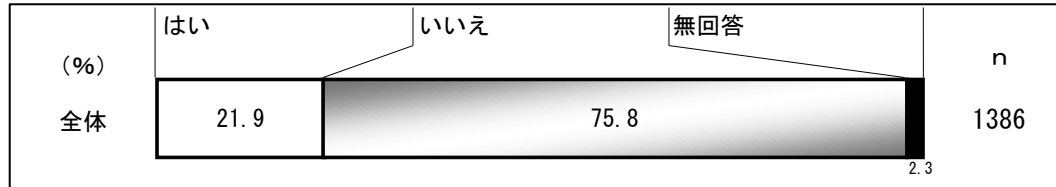


(3) 認知症に関する相談窓口を知っているか

認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「いいえ」が75.8%、「はい」が21.9%となっている。

■一般高齢者【問 54】(単数回答)

■一般高齢者

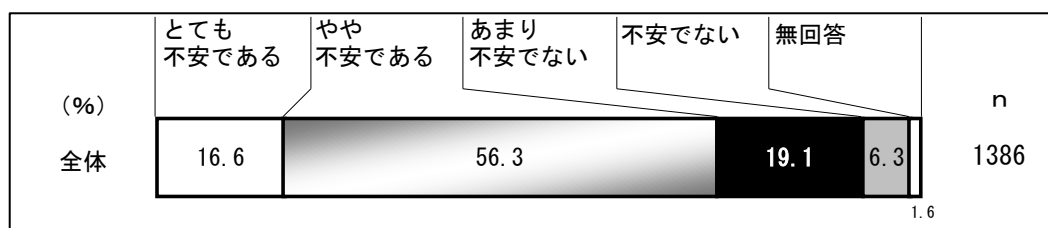


(4) 認知症に対する不安

認知症に対する不安があるかたずねたところ、「とても不安である」(16.6%)と「やや不安である」(56.3%)を合わせた“不安である”が72.9%、「あまり不安でない」(19.1%)と「不安でない」(6.3%)を合わせた“不安でない”が25.4%となっている。

一般高齢者【問 55】(単数回答)

■一般高齢者

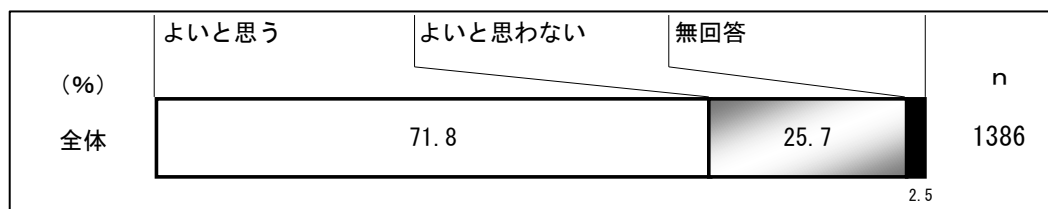


(5) 自分や家族が認知症になった際に周囲に知られること

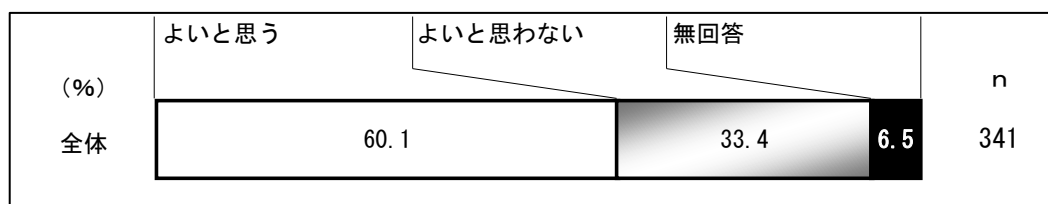
自分や家族が認知症になった際に周囲に知られることについてたずねたところ、一般高齢者では「よいと思う」が71.8%、居宅要支援・要介護認定者では60.1%となっている。

一般高齢者【問 56】／居宅要支援・要介護認定者【問 50】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

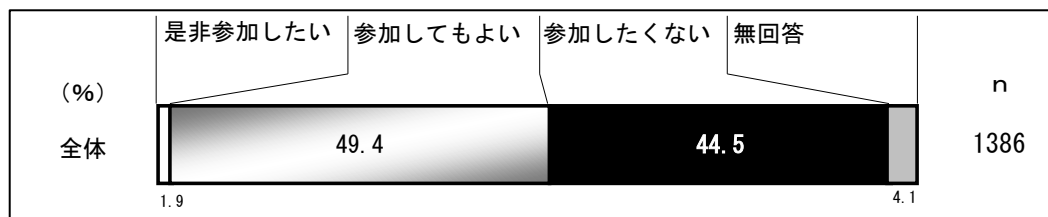


(6) 認知症カフェへの参加意向

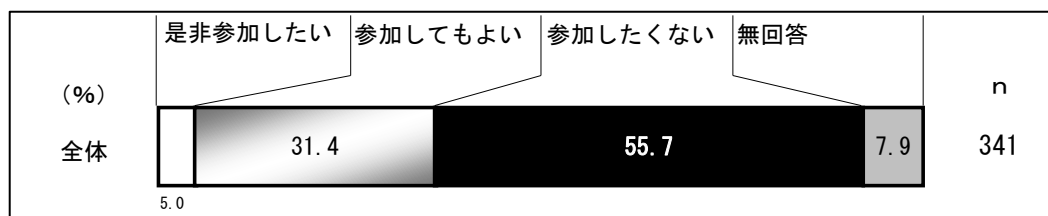
認知症カフェへの参加意向についてたずねたところ、一般高齢者では「参加してもよい」が49.4%、「参加したくない」が44.5%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「参加したくない」が55.7%、「参加してもよい」が31.4%となっている。

一般高齢者【問 57】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 51】 (単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



6 日常生活について

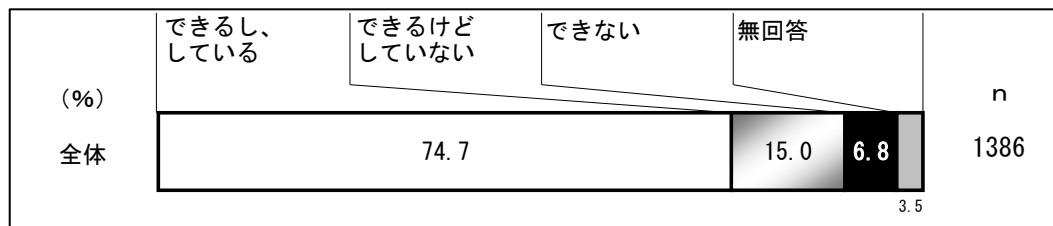
(1) 日常生活での活動について

一般高齢者ではいずれも「できるし、している」が半数以上を占めている。居宅要支援・要介護認定者では、①バスや電車を使って1人で外出しているか、②自分で食品・日用品の買い物をしているかなどで「できない」が半数以上を占めている。

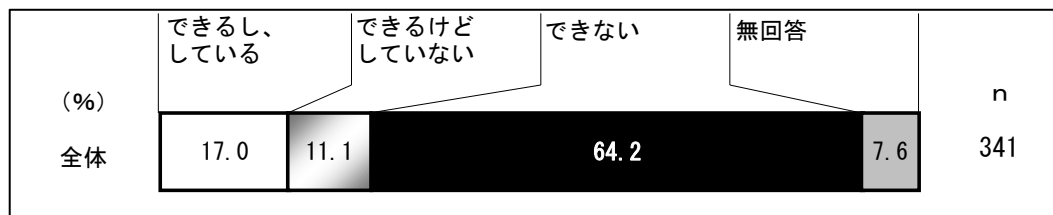
一般高齢者【問 25①～⑤】／居宅要支援・要介護認定者【問 29①～⑤】(単数回答)

①バスや電車を使って1人で外出しているか

■一般高齢者

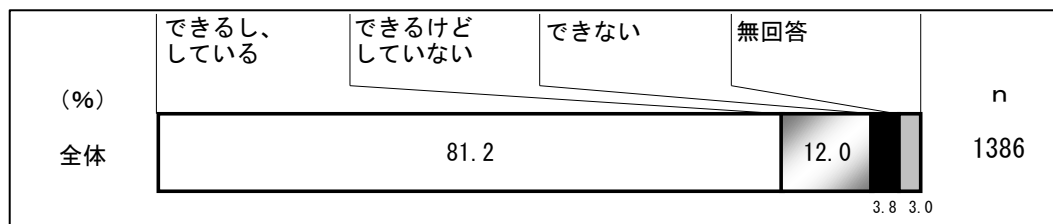


■居宅要支援・要介護認定者

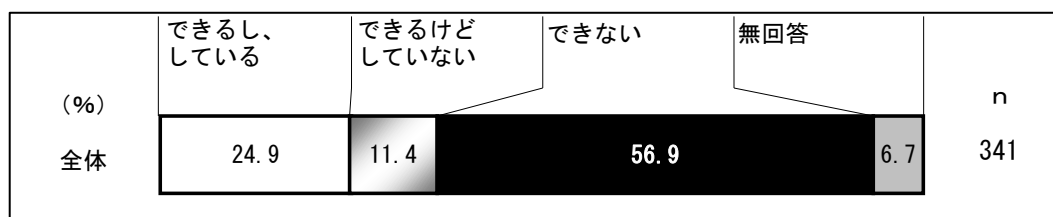


②自分で食品・日用品の買い物をしているか

■一般高齢者

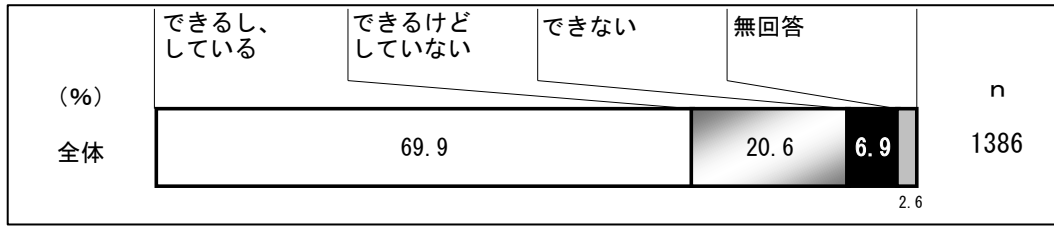


■居宅要支援・要介護認定者

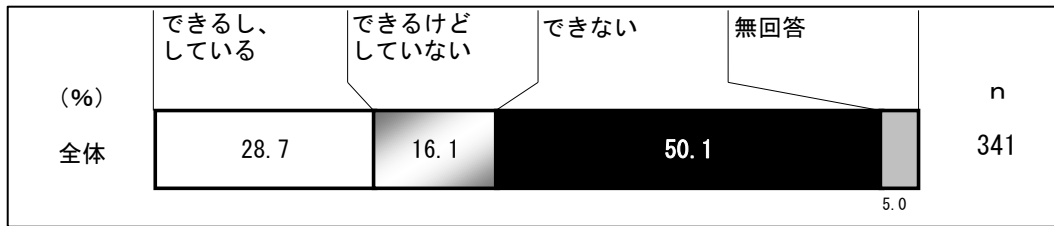


③自分で食事の用意をしているか

■一般高齢者

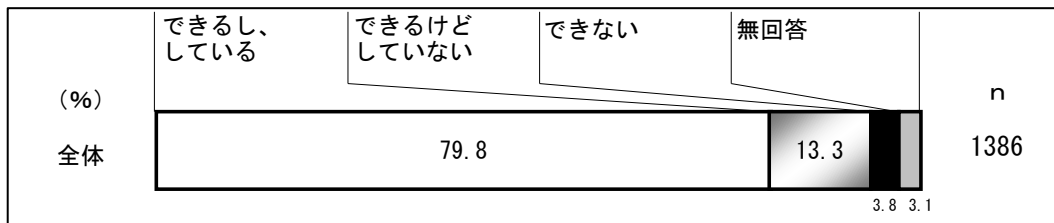


■居宅要支援・要介護認定者

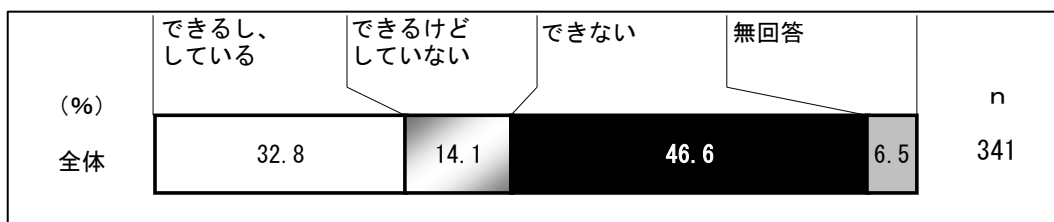


④自分で請求書の支払いをしているか

■一般高齢者

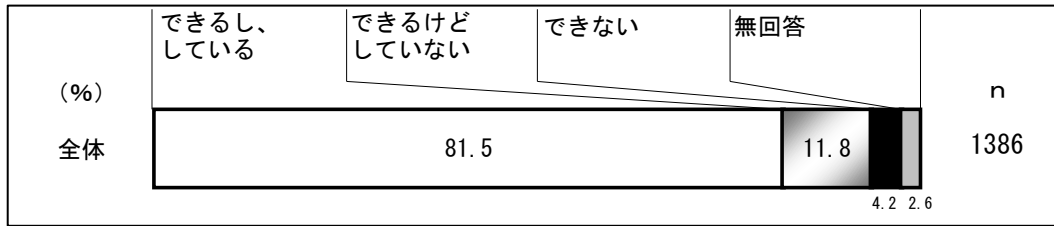


■居宅要支援・要介護認定者

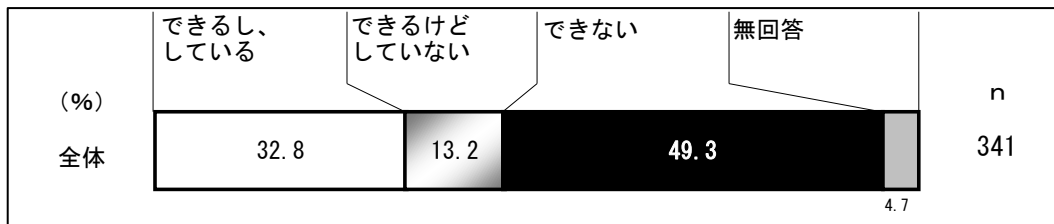


⑤自分で預貯金の出し入れをしているか

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

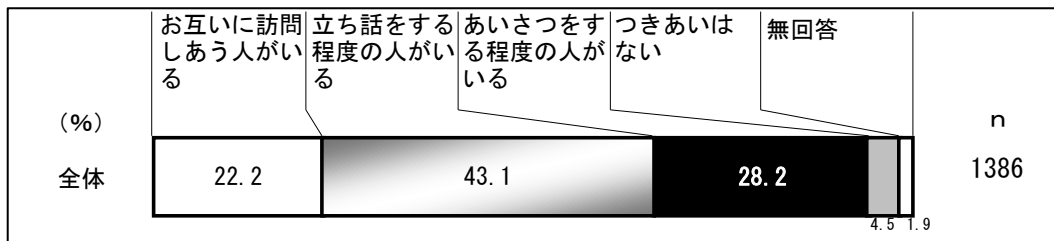


(2) 近所づきあいの程度

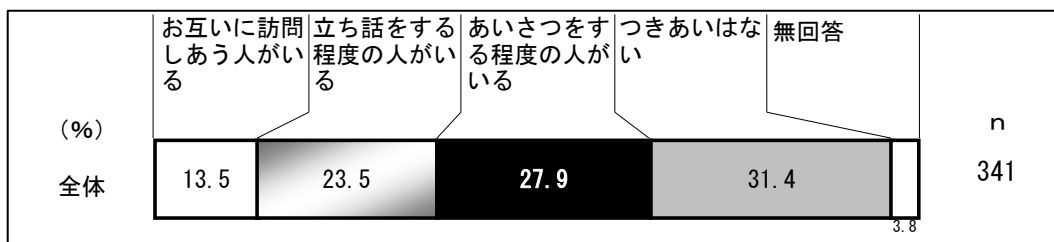
近所づきあいの程度をたずねたところ、一般高齢者では「立ち話をする程度の人がいる」が43.1%、「あいさつをする程度の人がいる」が28.2%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「つきあいはない」が31.4%となっている。

一般高齢者【問28】／居宅要支援・要介護認定者【問32】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

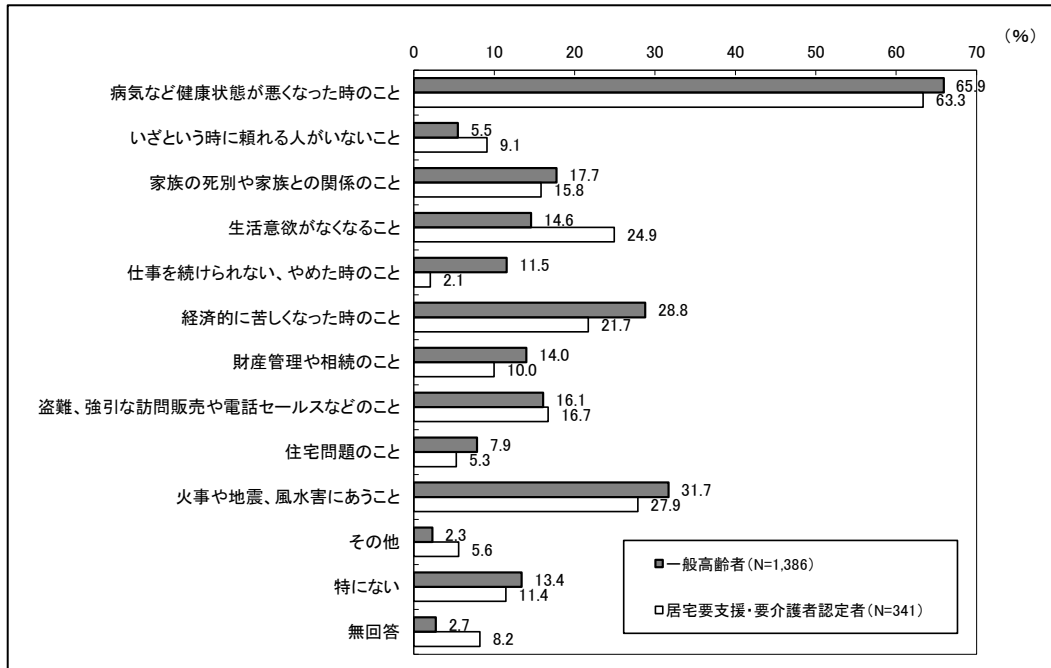


(3) 日頃の生活で不安に思っていること

日頃の生活で不安に思っていることについてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「病気など健康状態が悪くなった時のこと」が最も高く、それぞれ65.9%、63.3%となっている。

一般高齢者【問 29】／居宅要支援・要介護認定者【問 33】（複数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

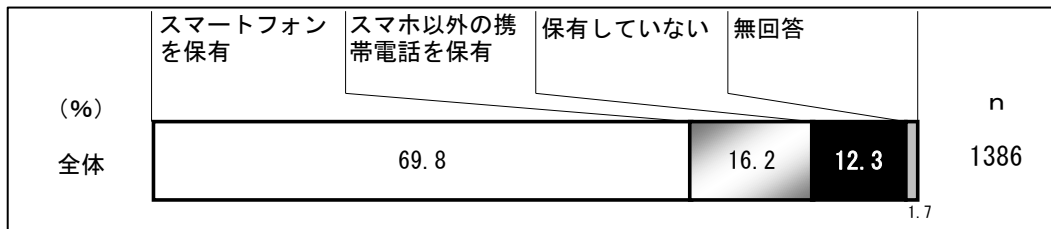


(4) 携帯電話・スマートフォンの保有状況

一般高齢者に対して携帯電話・スマートフォンを保有しているかたずねたところ、「スマートフォンを保有」が69.8%、「スマホ以外の携帯電話を保有」が16.2%、「保有していない」が12.3%となっている。

一般高齢者【問 31】（単数回答）

■一般高齢者

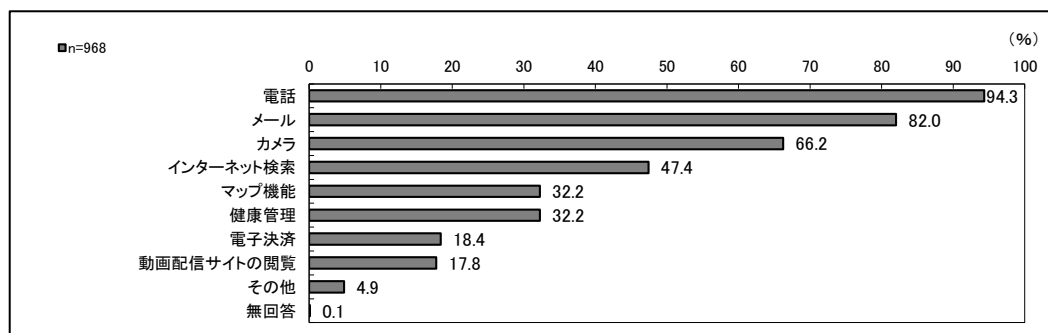


(5) スマートフォンを利用する目的

「スマートフォンを保有」と回答した一般高齢者に対して、その利用目的をたずねたところ、「電話」(94.3%)が最も多く、次いで「メール」(82.0%)、「カメラ」(66.2%)、「インターネット検索」(47.4%)などとなっている。

一般高齢者【問 31-1】(複数回答)

■一般高齢者

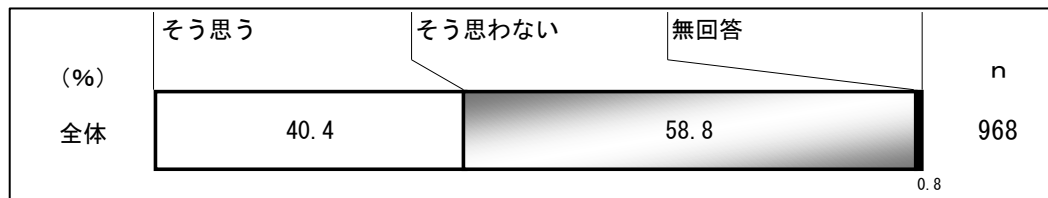


(6) 今以上にスマートフォンを活用したいか

「スマートフォンを保有」と回答した一般高齢者に対して、今以上に活用したいかたずねたところ、「そう思わない」が58.8%、「そう思う」が40.4%となっている。

一般高齢者【問 31-2】(単数回答)

■一般高齢者



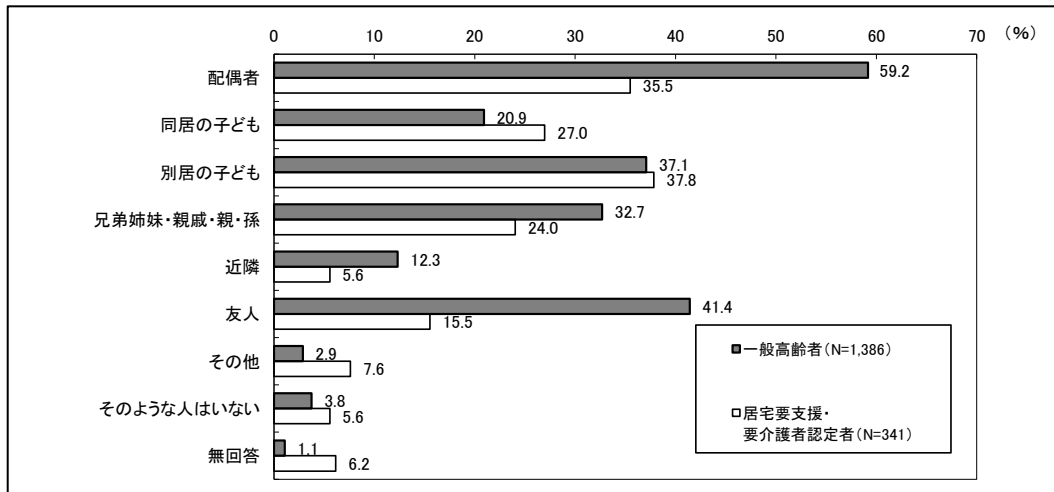
7 相談対応について

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人についてたずねたところ、一般高齢者では「配偶者」が最も高く、59.2%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「別居の子ども」が37.8%となっている。なお、「そのような人はいない」は、一般高齢者では3.8%、居宅要支援・要介護認定者では5.6%となっている。

一般高齢者【問 37】／居宅要支援・要介護認定者【問 38】（複数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

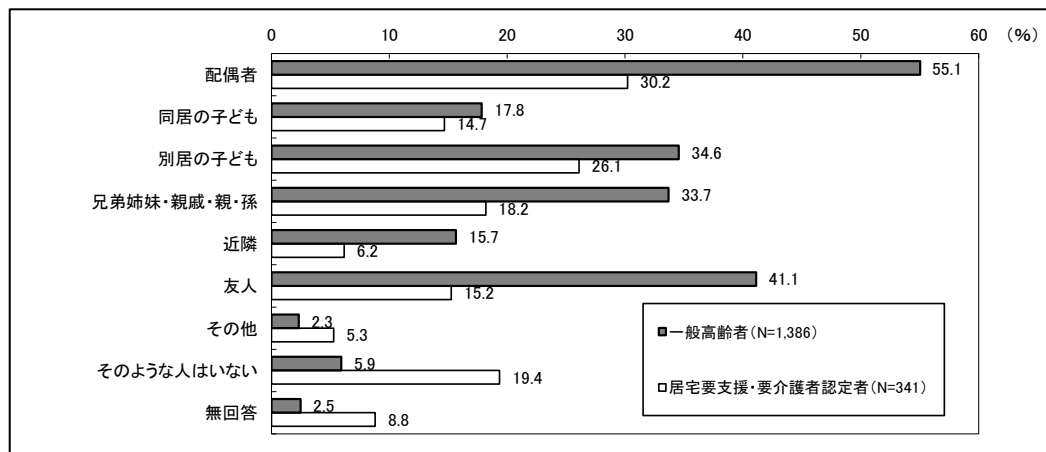


(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

心配事や愚痴を聞いてあげる人についてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「配偶者」が最も高く、それぞれ55.1%、30.2%となっている。なお「そのような人はいない」は、一般高齢者では5.9%、居宅要支援・要介護認定者では19.4%となっている。

一般高齢者【問 38】／居宅要支援・要介護認定者【問 39】（複数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

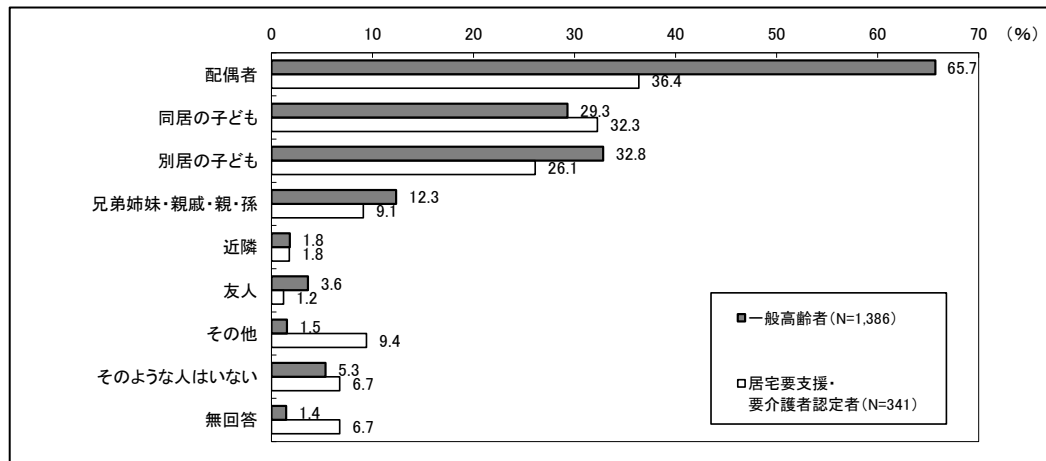


(3) 病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人

看病や世話をしてくれる人についてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「配偶者」が最も高く、それぞれ65.7%、36.4%となっている。なお「そのような人はいない」は、一般高齢者では5.3%、居宅要支援・要介護認定者では6.7%となっている。

一般高齢者【問 39】／居宅要支援・要介護認定者【問 40】（複数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

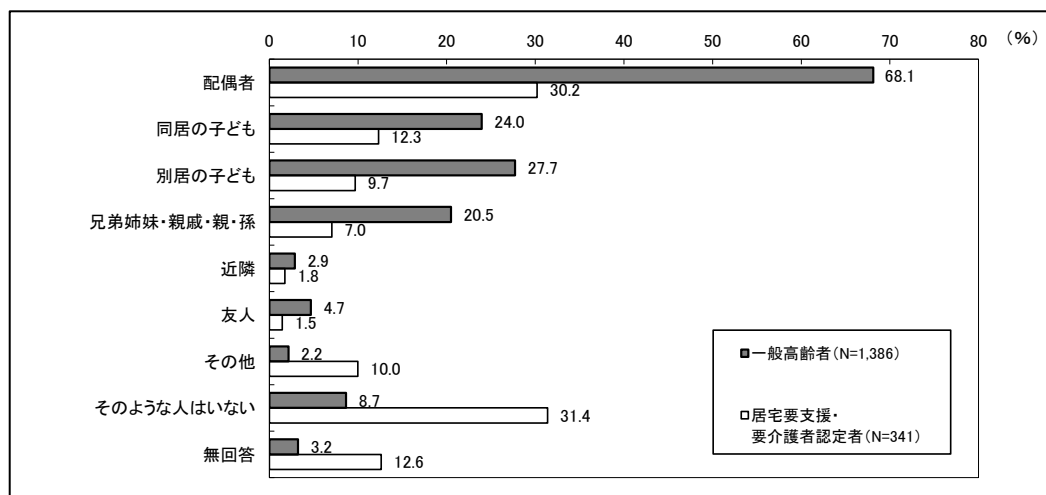


(4) 看病や世話をしあける人

看病や世話をしあける人についてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「配偶者」が最も高く、それぞれ68.1%、30.2%となっている。なお「そのような人はいない」は、一般高齢者では8.7%、居宅要支援・要介護認定者では31.4%となっている。

一般高齢者【問40】／居宅要支援・要介護認定者【問41】（複数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



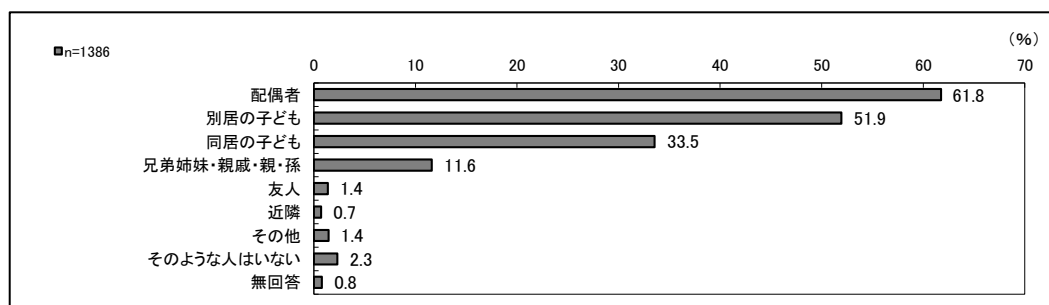
(5) 認知症になったら財産管理等の手続きの支援を頼める人

一般高齢者に対し、認知症になったら財産管理等の手続きの支援を頼める人についてたずねたところ、「配偶者」(61.8%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(51.9%)、「同居の子ども」(33.5%)などとなっている。

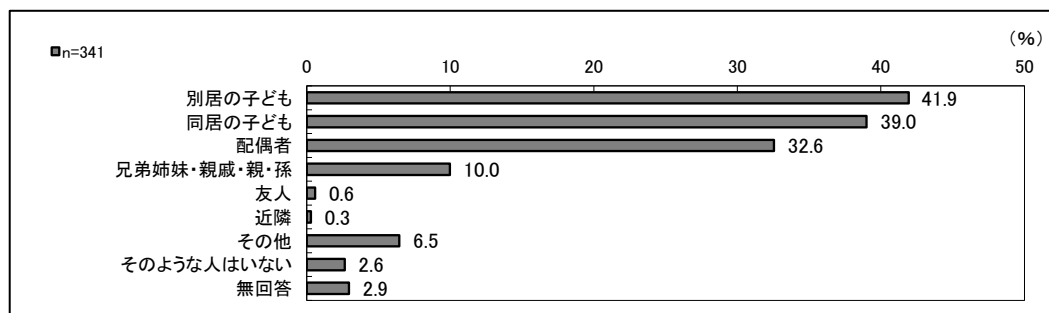
居宅要支援・要介護認定者では「別居の子ども」(41.9%)が最も多く、次いで「同居の子ども」(39.0%)、「配偶者」(32.6%)などとなっている。

一般高齢者【問 41】／居宅要支援・要介護認定者【問 42】(複数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

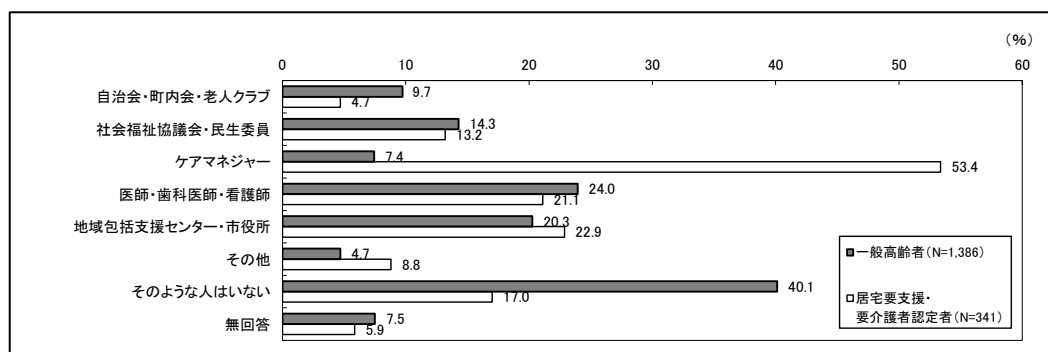


(6) 家族や友人、知人以外の相談相手

家族や友人、知人以外の相談相手についてたずねたところ、一般高齢者では「そのような人はいない」が40.1%と最も高く、居宅要支援・要介護認定者では「ケアマネジャー」が53.4%と最も高くなっている。

一般高齢者【問 42】／居宅要支援・要介護認定者【問 43】（複数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

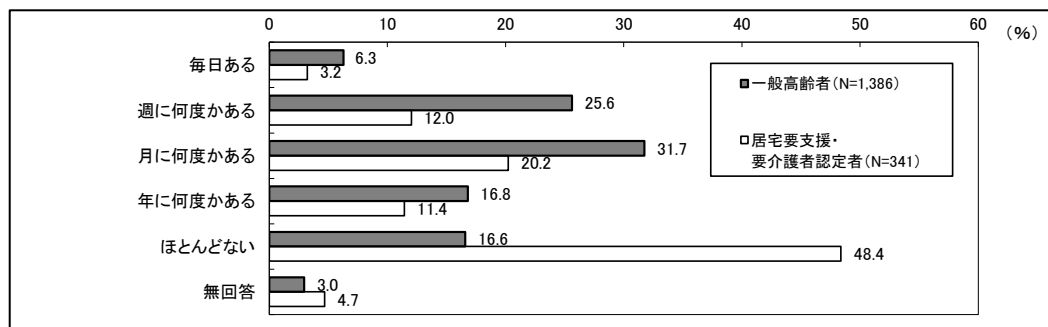


(7) 友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、一般高齢者では「月に何度かある」が31.7%で最も高く、次いで「週に何度かある」が25.6%などとなっている。なお、「ほとんどない」は16.6%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「ほとんどない」が48.4%で最も高く、次いで「月に何度かある」が20.2%などとなっている。

一般高齢者【問 43】／居宅要支援・要介護認定者【問 44】（単数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

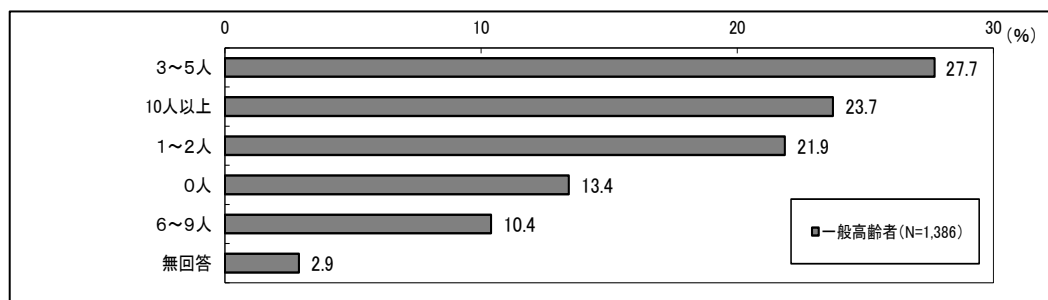


(8) 1か月間に会った友人・知人の人数

一般高齢者に対し1か月に会った友人・知人の人数についてたずねたところ、「3～5人」が27.7%、「10人以上」が23.7%などとなっている。「0人」が13.4%となっている。

一般高齢者【問 44】（単数回答）

■一般高齢者



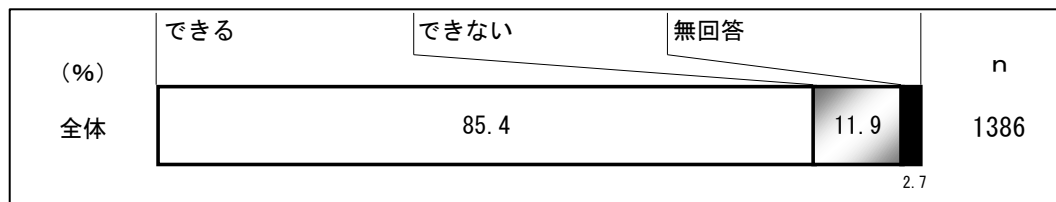
8 災害対策について

(1) 災害時に自力で避難できるか

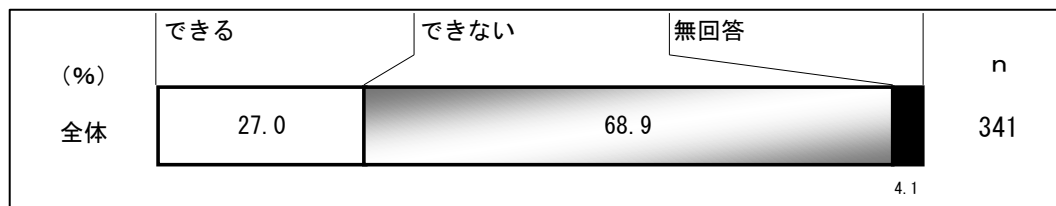
災害時に自力で避難できるかたずねたところ、一般高齢者では「できる」が85.4%、「できない」は11.9%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「できない」が68.9%、「できる」は27.0%となっている。

一般高齢者【問 58】／居宅要支援・要介護認定者【問 52】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



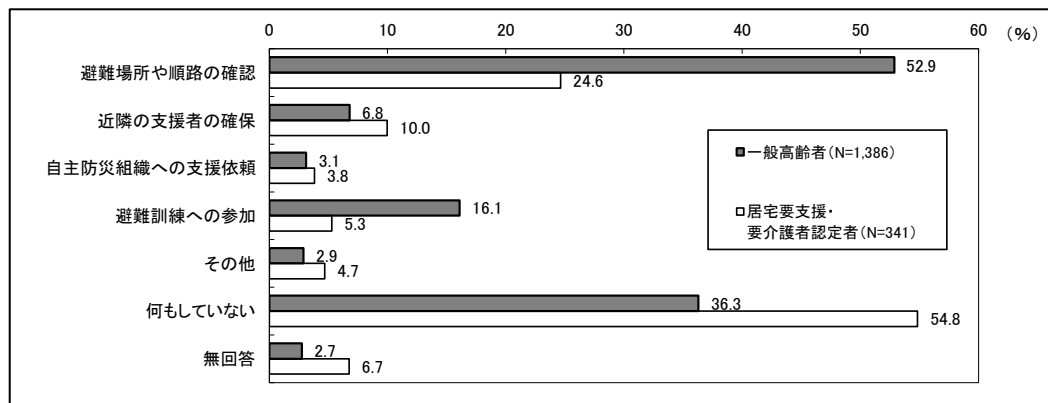
(2) 災害時の避難対策について

災害時の避難対策についてたずねたところ、一般高齢者では「避難場所や順路の確認」(52.9%)が最も高く、次いで「何もしていない」(36.3%)などとなっている。

居宅要支援・要介護認定者では「何もしていない」(54.8%)が最も高く、次いで「避難場所や順路の確認」(24.6%)などとなっている。

一般高齢者【問 59】／居宅要支援・要介護認定者【問 53】(複数回答)

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

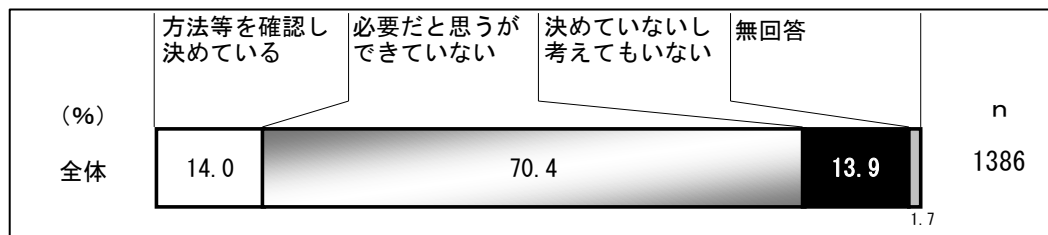


(3) 避難方法等についての家族との決めごと

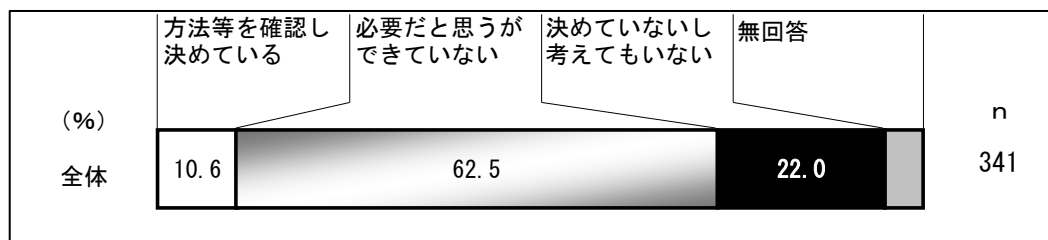
避難方法等についての家族との決めごとについてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「必要だと思うができていない」が最も高く、それぞれ70.4%、62.5%となっている。

一般高齢者【問 60】／居宅要支援・要介護認定者【問 54】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



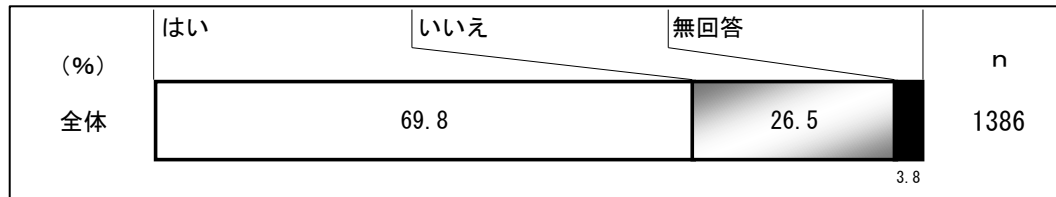
9 社会参加について

(1) 趣味の有無

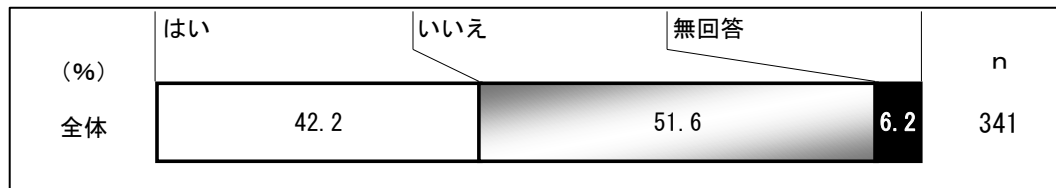
趣味の有無についてたずねたところ、一般高齢者では「はい」が69.8%、「いいえ」が26.5%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「いいえ」が51.6%、「はい」が42.2%となっている。

一般高齢者【問 26】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 30】 (単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

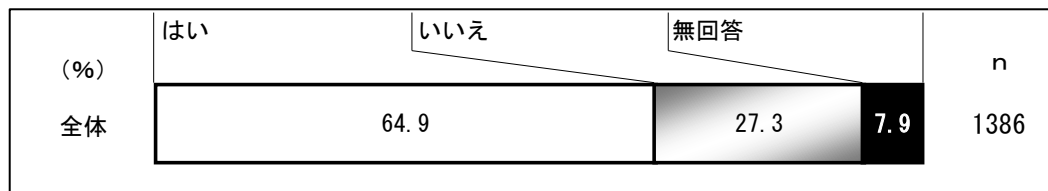


(2) 生きがいの有無

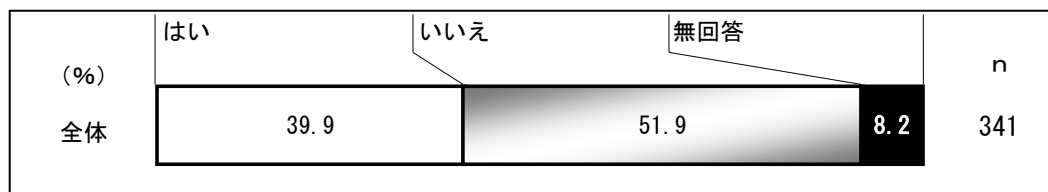
生きがいの有無についてたずねたところ、一般高齢者では「はい」が64.9%、「いいえ」が27.3%となっている。居宅要支援・要介護認定者では「いいえ」が51.9%、「はい」が39.9%となっている。

一般高齢者【問 27】／居宅要支援・要介護認定者【問 31】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



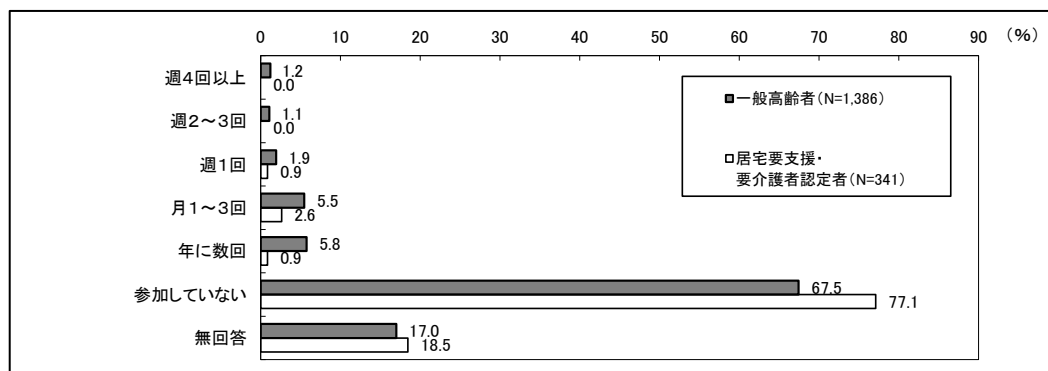
(3) 会・グループ等への参加状況

会・グループ等への参加状況については、いずれの対象者・項目も「参加していない」の割合が高くなっている。「参加していない」を除くと、「⑦町内会・自治会」に「年に数回」参加していると回答した割合が一般高齢者で35.1%、居宅要支援・要介護認定者で4.7%となっており、他の項目と比べ高くなっている。

一般高齢者【問 32①～⑧】／居宅要支援・要介護認定者【問 34①～⑦】（単数回答）

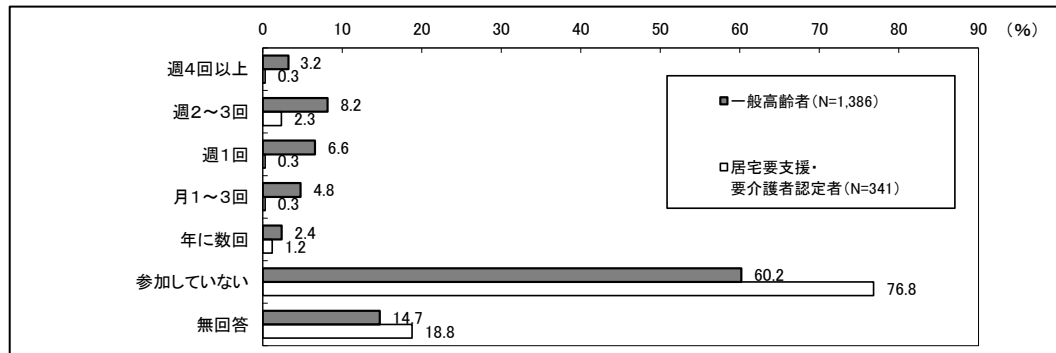
①ボランティアのグループ

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



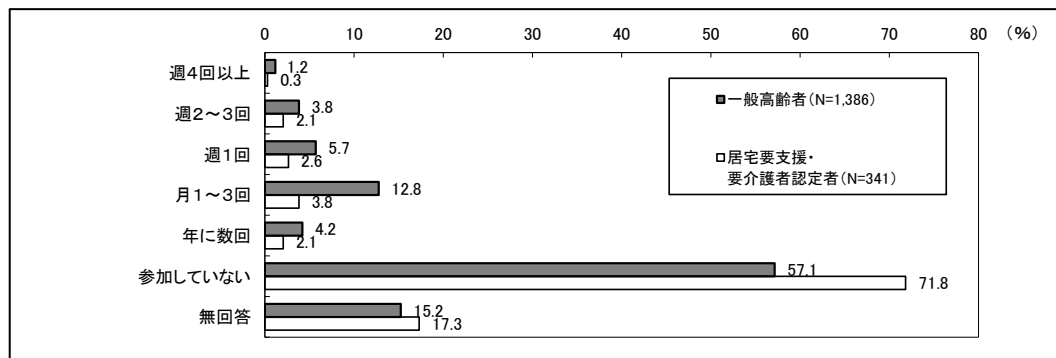
②スポーツ関係のグループやクラブ

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



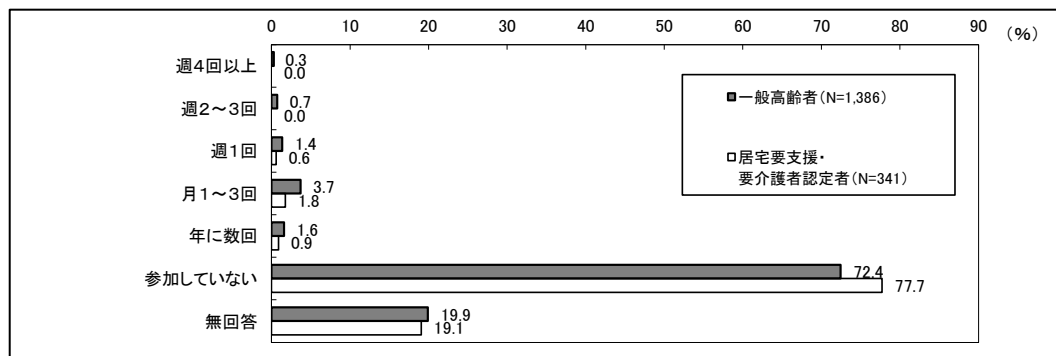
③趣味関係のグループ

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



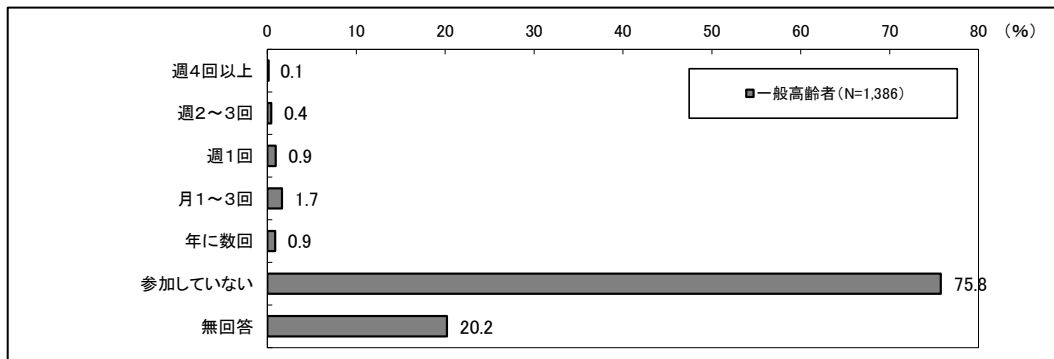
④学習・教養サークル

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



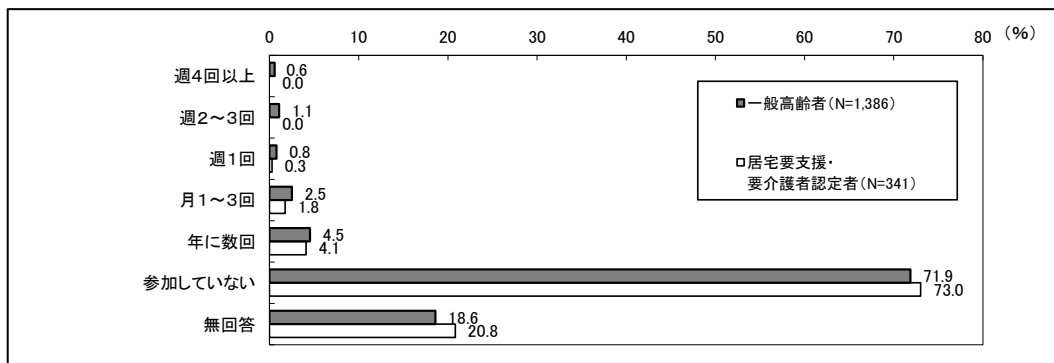
⑤らくらく体操ひろば

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



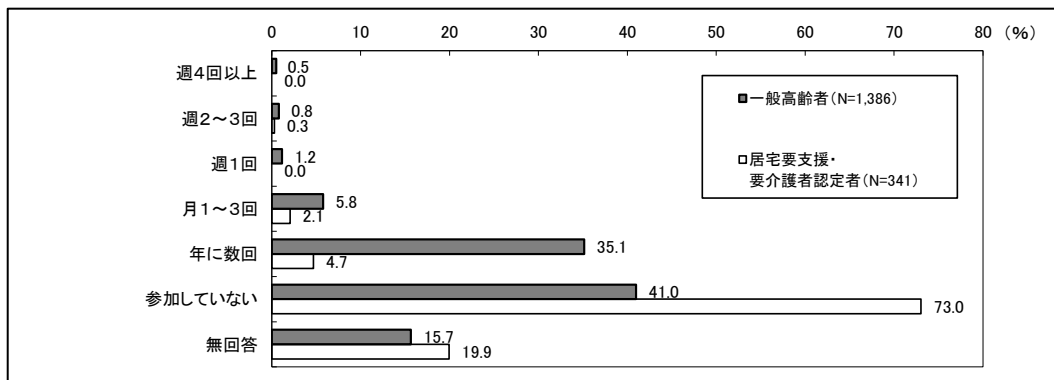
⑥老人クラブ

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



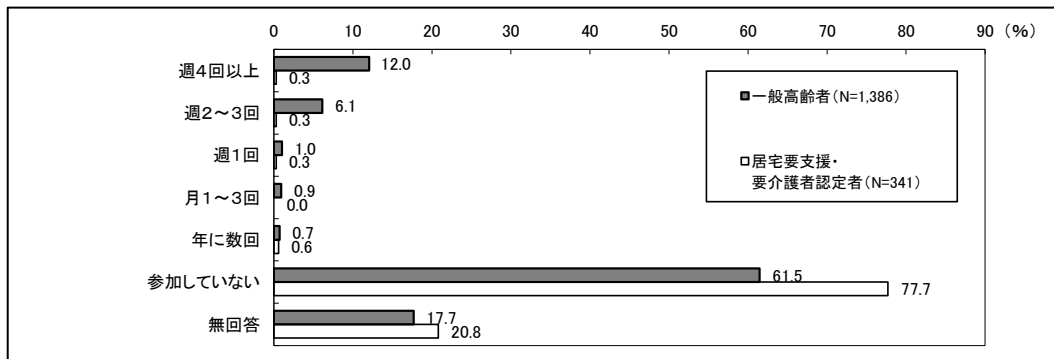
⑦町内会・自治会

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者



⑧収入のある仕事

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

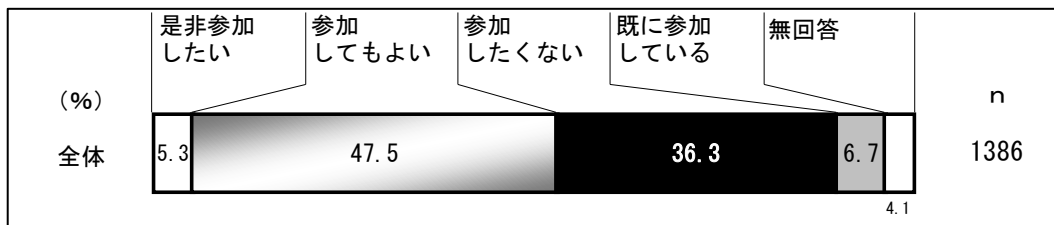


(4) 地域活動への参加者としての参加意向

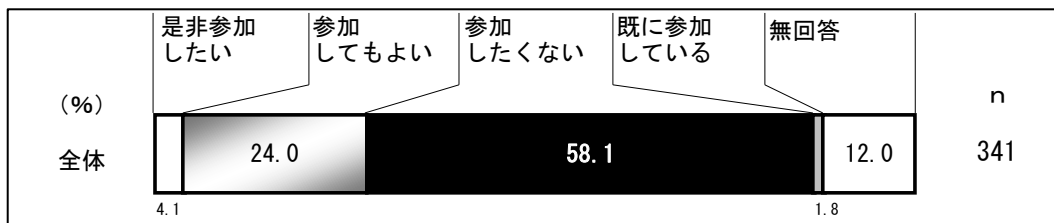
地域活動に参加者として参加したいかたずねたところ、「参加してもよい」と「是非参加したい」を合わせた“参加したい”が一般高齢者では52.8%、居宅要支援・要介護認定者では28.1%となっている。なお、居宅要支援・要介護認定者の「参加したくない」は58.1%となっている。

一般高齢者【問33】／居宅要支援・要介護認定者【問35】(単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

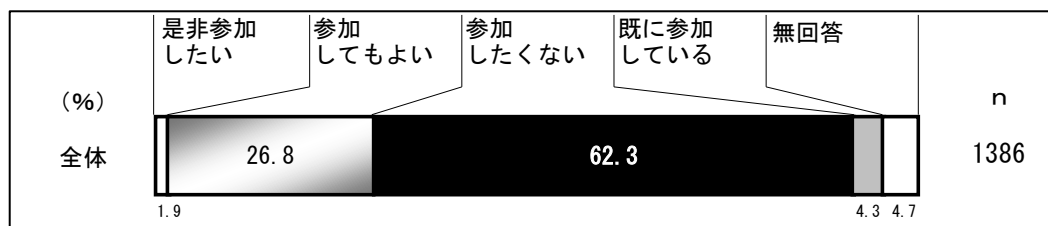


(5) 地域活動への企画・運営としての参加意向

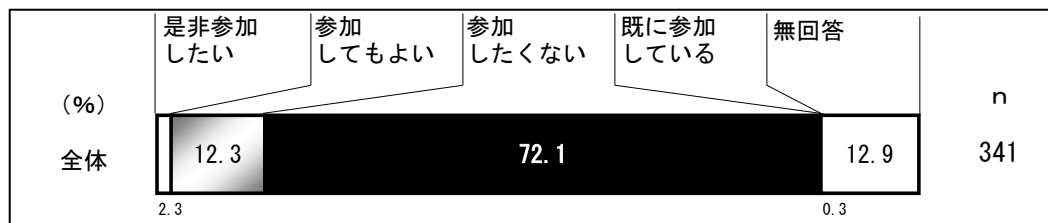
地域活動への企画・運営としての参加意向についてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「参加したくない」がそれぞれ62.3%、72.1%と回答の割合が高くなっている。

一般高齢者【問 34】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 36】 (単数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



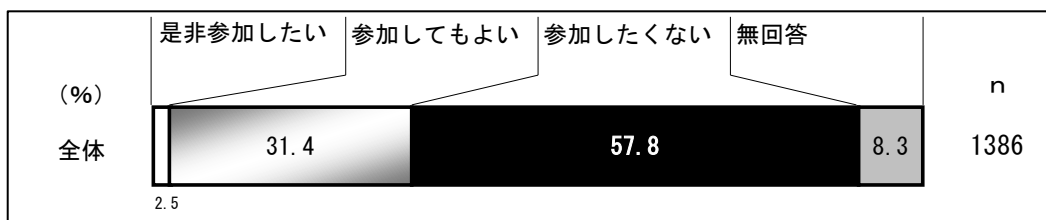
(6) 地域住民主体の活動への参加意向

地域住民主体の活動への参加意向については、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに各種活動に「参加したくない」が5割を超える中、「①地域内の集会所や地域の方の自宅で開かれるサロン活動（介護予防活動などを含む）」への参加希望は比較的高くなっている。

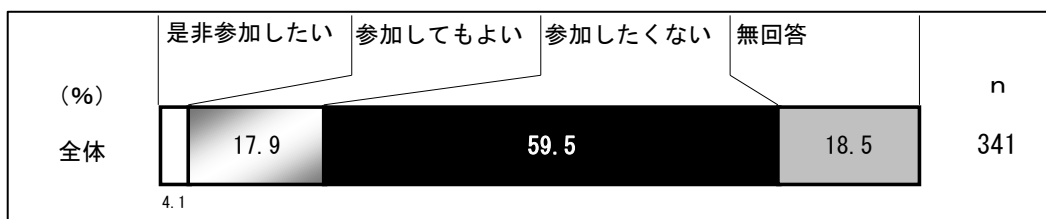
■一般高齢者【問 35①～⑤】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 37①～⑤】 (単数回答)

①地域内の集会所や地域の方の自宅で開かれるサロン活動（介護予防活動などを含む）

■一般高齢者

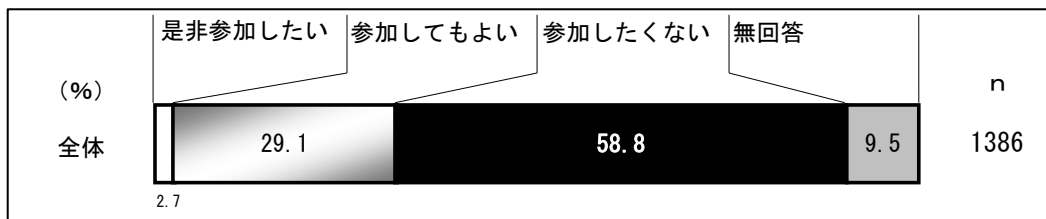


■居宅要支援・要介護認定者

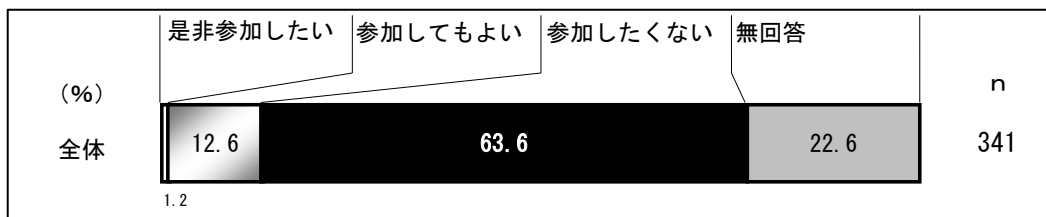


②地域の方による見守り活動（定期的な訪問、声かけ）

■一般高齢者

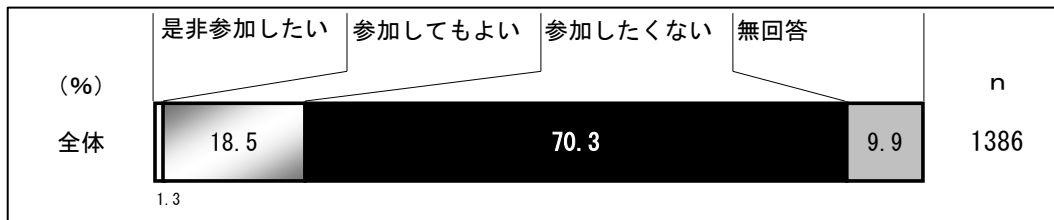


■居宅要支援・要介護認定者

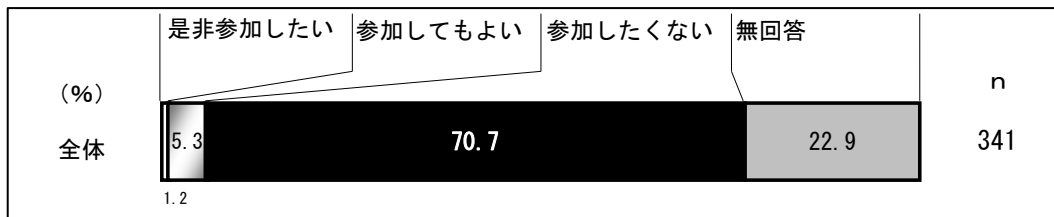


③地域の方によるお弁当の調理、配達活動

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

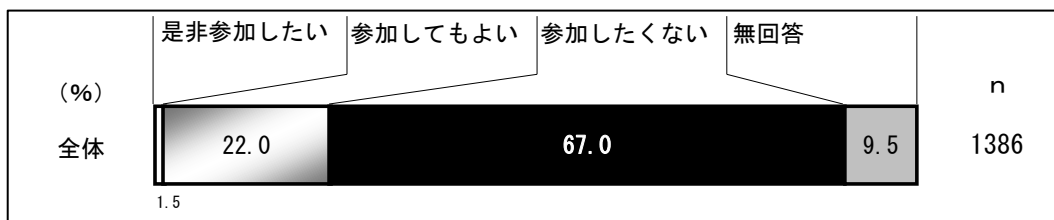


■居宅要支援・要介護認定者

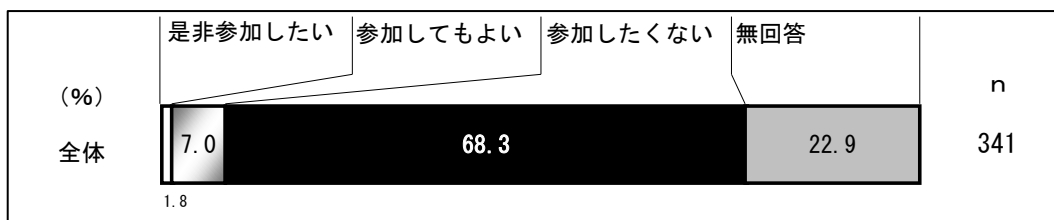


④調理／掃除／買い物／ごみゴミ出し等の生活支援

■一般高齢者

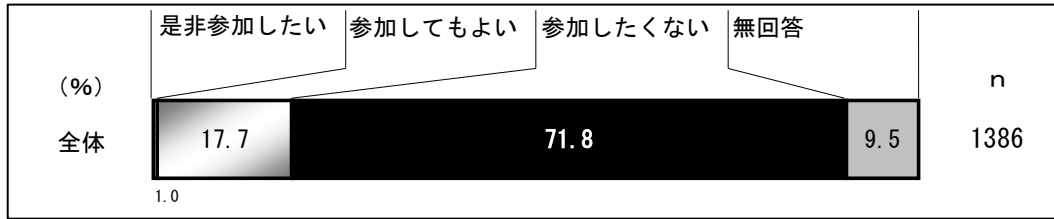


■居宅要支援・要介護認定者

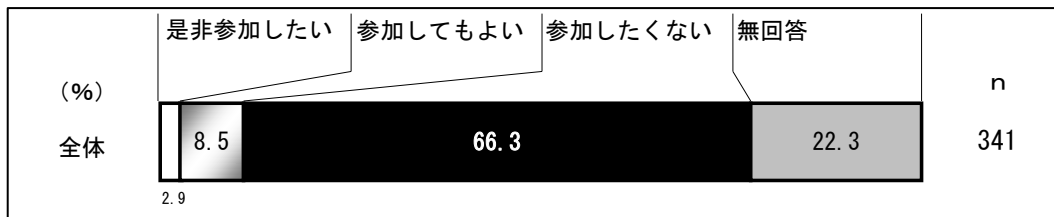


⑤地域の方による通院、買い物時等の送迎サービス

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者



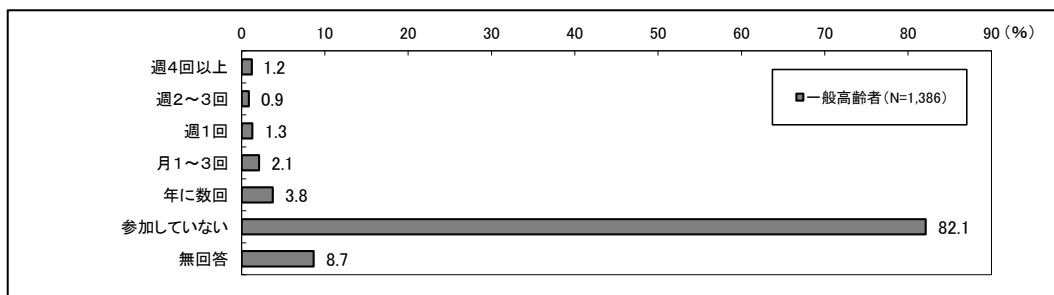
(7) 社会参加活動や仕事への参加頻度

一般高齢者の社会参加活動や仕事への参加頻度については、いずれの活動も「参加していない」が多数を占める。「地域の生活環境の改善（安全安心・美化）」は参加している人の割合がやや高い。

一般高齢者【問 36①～④】（単数回答）

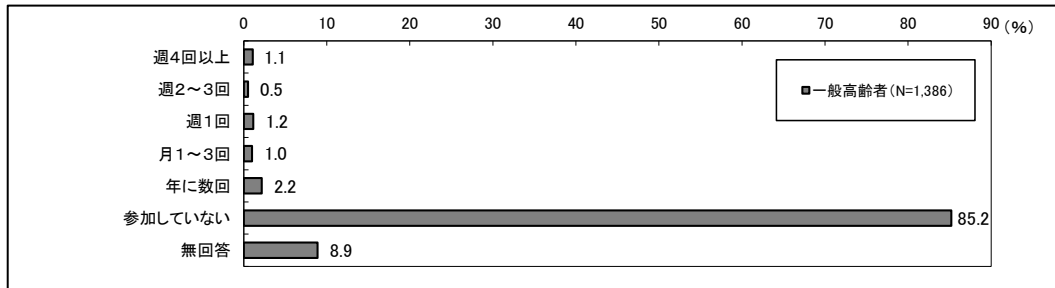
①参加頻度（見守りが必要な高齢者への支援）

■一般高齢者



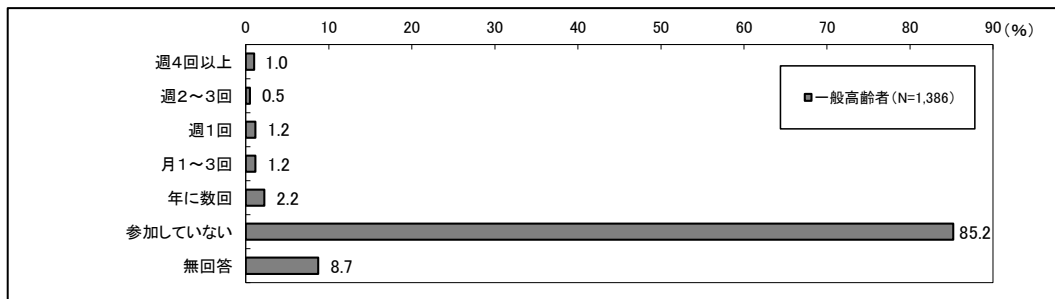
②参加頻度（介護が必要な高齢者への支援）

■一般高齢者



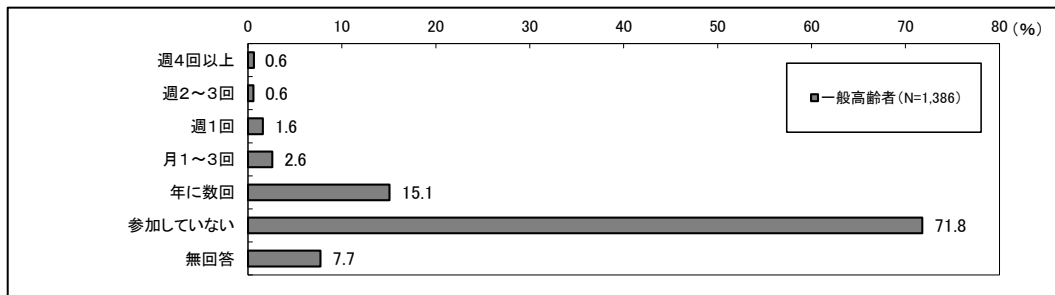
③参加頻度（子育てしている親への支援）

■一般高齢者



④参加頻度（地域の生活環境の改善（安全安心・美化））

■一般高齢者



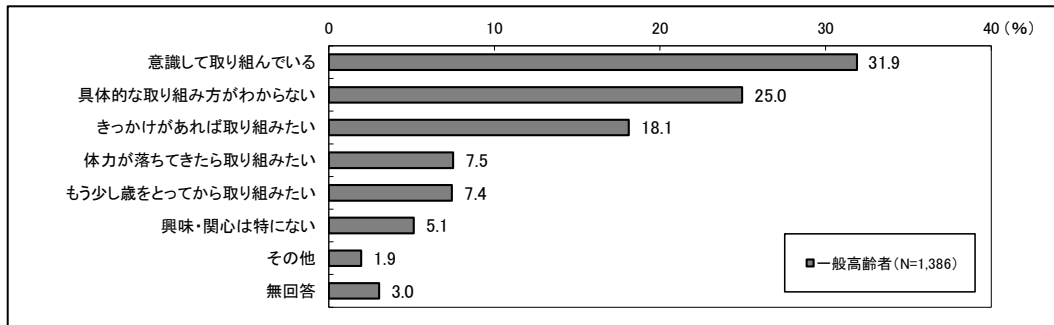
10 介護予防について

(1) 介護予防への取り組み状況

一般高齢者の介護予防への取り組み状況についてたずねたところ、「意識して取り組んでいる」(31.9%)が最も多く、次いで「具体的な取り組み方がわからない」(25.0%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(18.1%)などとなっている。

一般高齢者【問 61】(単数回答)

■一般高齢者

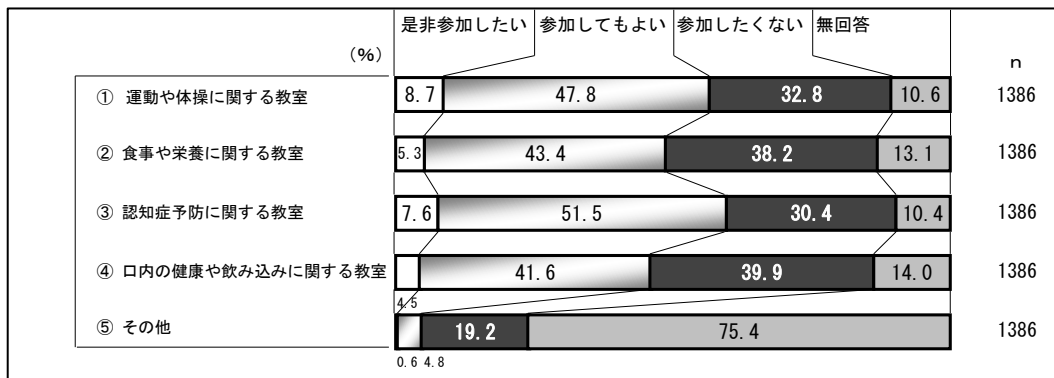


(2) 介護予防教室への参加意向

①運動や体操に関する教室、③認知症予防に関する教室は比較的参加意向が高い。

一般高齢者【問 62①～⑤】(単数回答)

■一般高齢者

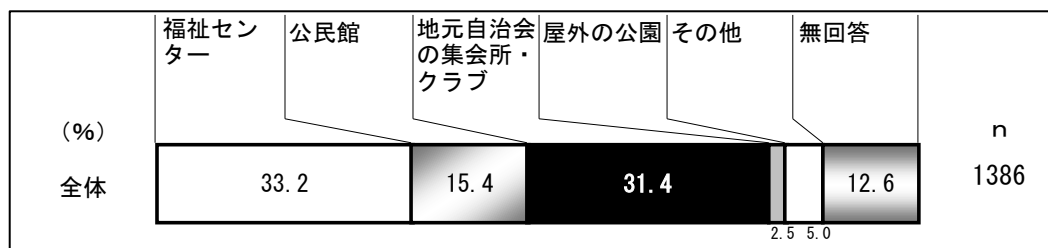


(3) 教室の開催場所

一般高齢者に希望する教室の開催場所についてたずねたところ、「福祉センター」が33.2%、「地元自治会の集会所・クラブ」が31.4%、「公民館」が15.4%などとなっている。

一般高齢者【問 63】(単数回答)

■一般高齢者

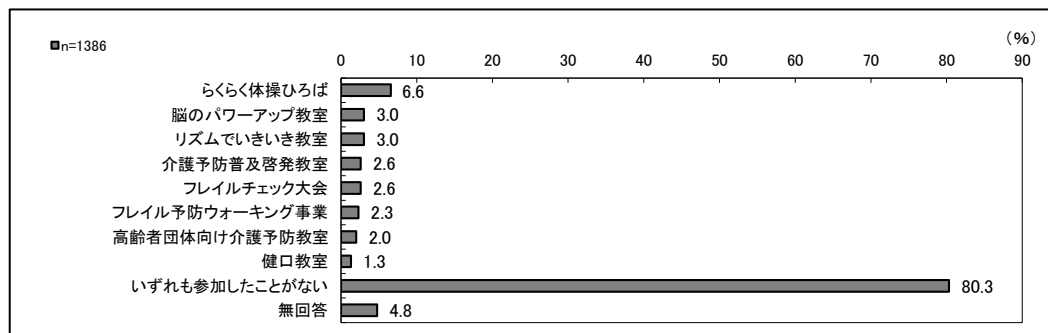


(4) 参加したことがある介護予防事業

一般高齢者に参加したことがある介護予防事業についてたずねたところ、「いずれも参加したことがない」が80.3%と最も高くなっている。

一般高齢者【問 64】(複数回答)

■一般高齢者

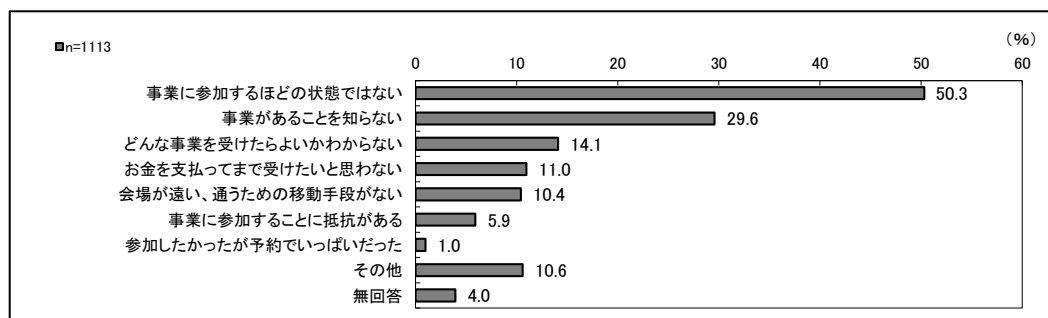


(5) 介護予防事業に参加しない理由

一般高齢者に介護予防事業に参加しない理由についてたずねたところ、「事業に参加するほどの状態ではない」(50.3%)が最も高く、次いで「事業があることを知らない」(29.6%)、「どんな事業を受けたらよいかわからない」(14.1%)などとなっている。

一般高齢者【問 64-1】(複数回答)

■一般高齢者

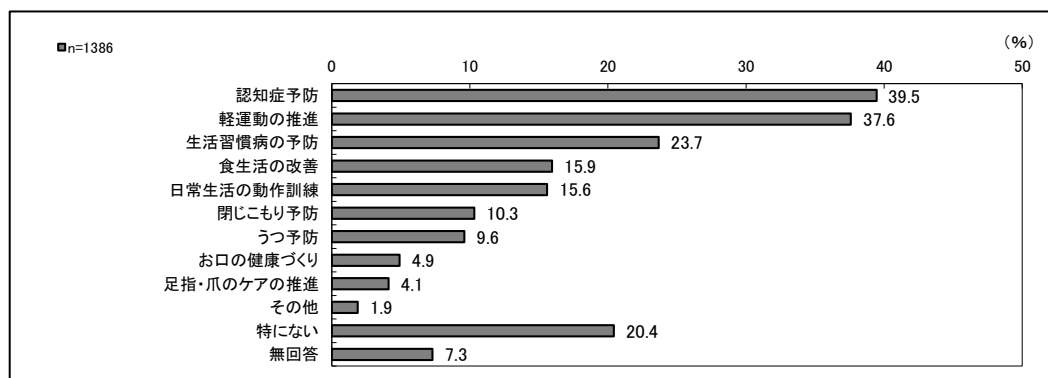


(6) 介護予防に関して市に力を入れてほしいこと

介護予防に関して市に力を入れてほしいことについて、一般高齢者にたずねたところ、「認知症予防」(39.5%)が最も多く、次いで「軽運動の推進」(37.6%)、「生活習慣病の予防」(23.7%)などとなっている。「特にない」は20.4%となっている。

一般高齢者【問 65】(複数回答)

■一般高齢者



11 介護保険及び高齢者福祉全般について

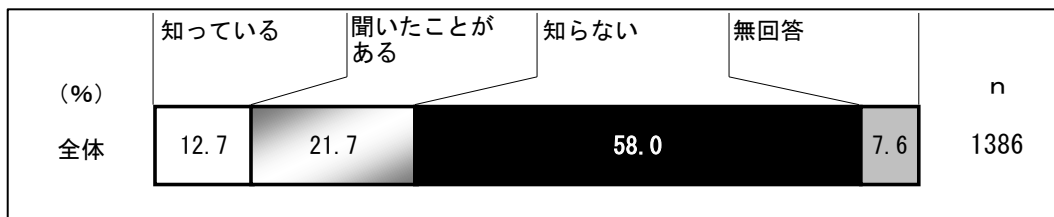
(1) 高齢者福祉サービスについての認知状況

高齢者福祉サービス・制度の認知度が比較的高いのは、~~については、~~一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに~~では~~④「近隣ケアグループ」、⑫「地域包括支援センター」などとなっている。

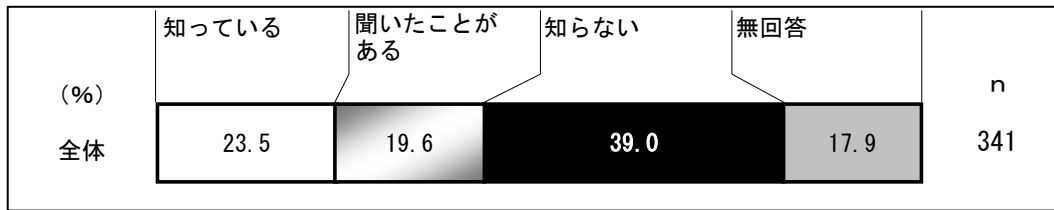
一般高齢者【問 66①～②】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 58①～⑧】（複数回答）

認知状況 ① 食の自立支援（配食サービス）事業

■一般高齢者

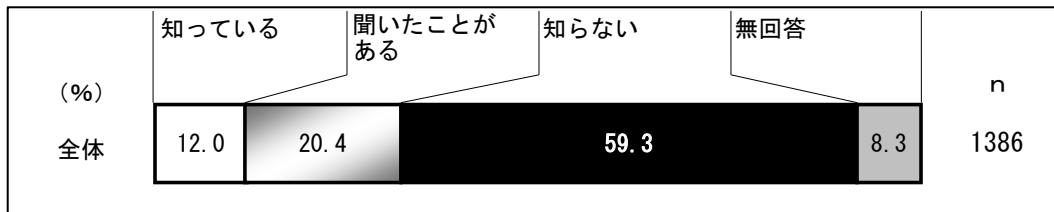


■居宅要支援・要介護認定者

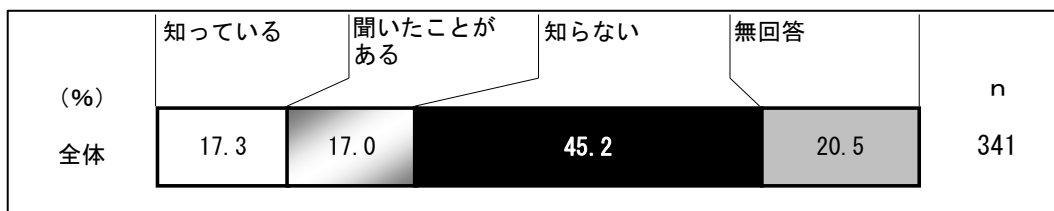


認知状況 ② 緊急通報システム設置事業

■一般高齢者

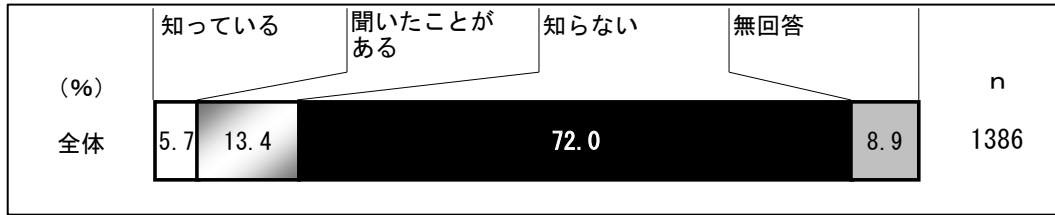


■居宅要支援・要介護認定者



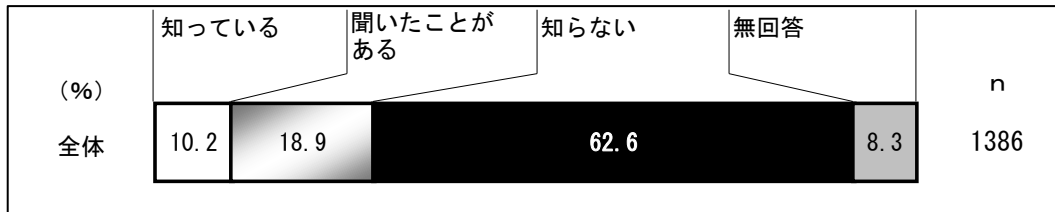
認知状況 ③ 高齢者いきいき生活サポート事業（ワンコインサービス）

■一般高齢者



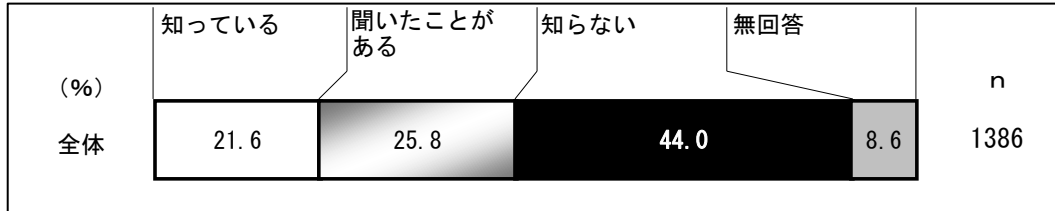
認知状況 ④ 高齢者等ごみ出し支援事業

■一般高齢者



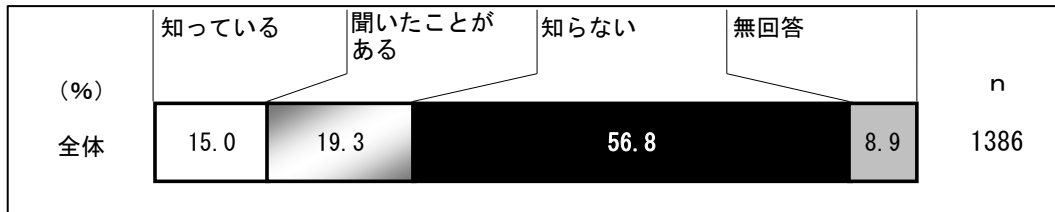
認知状況 ⑤ 養護老人ホーム入所

■一般高齢者



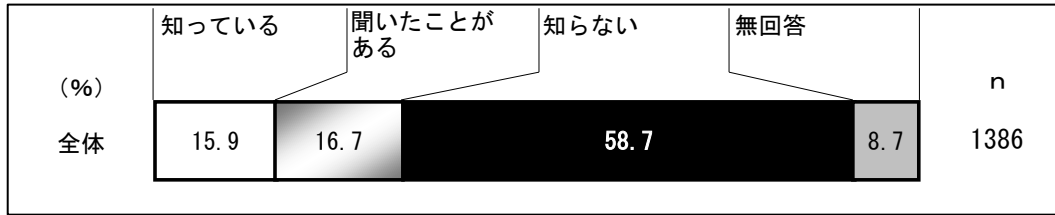
認知状況 ⑥ 高齢者住宅改善助成

■一般高齢者

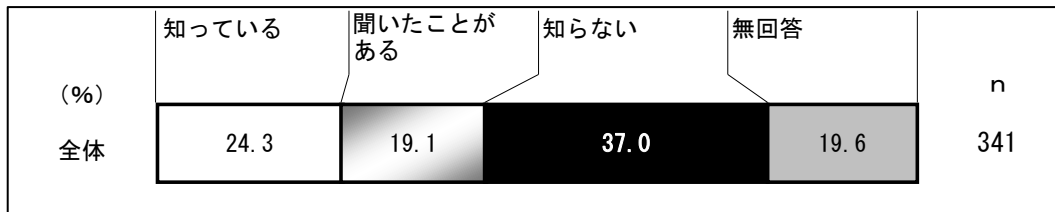


認知状況 ⑦ ③ 紙おむつ購入助成券支給事業

■一般高齢者

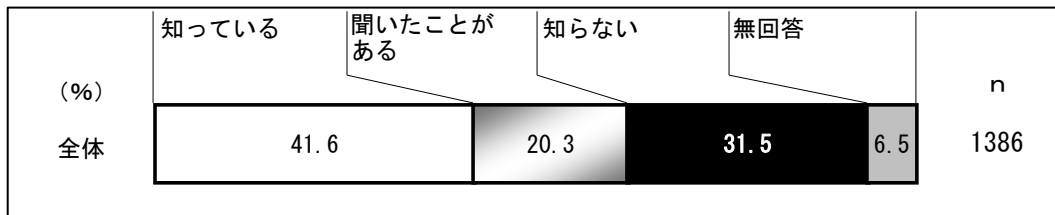


■居宅要支援・要介護認定者

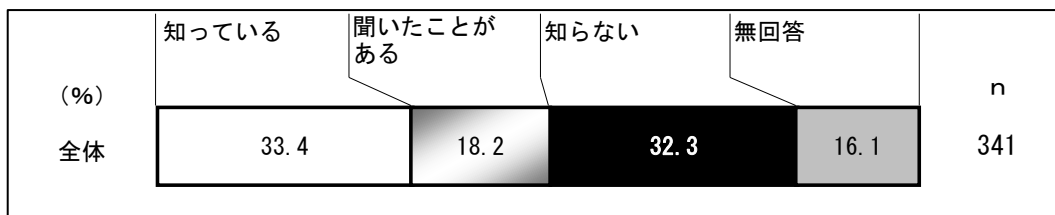


認知状況 ⑧ ④ 近隣ケアグループ

■一般高齢者

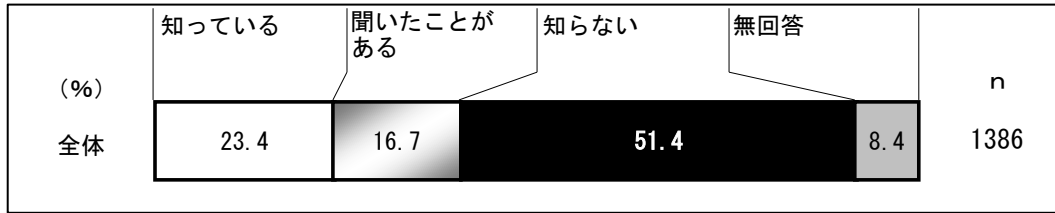


■居宅要支援・要介護認定者

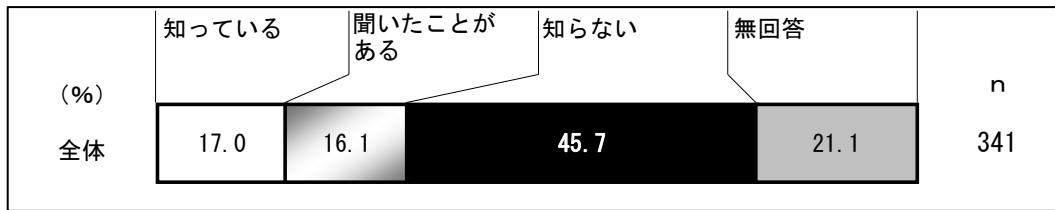


認知状況 ⑨ ⑤ ボランティアハウス

■一般高齢者

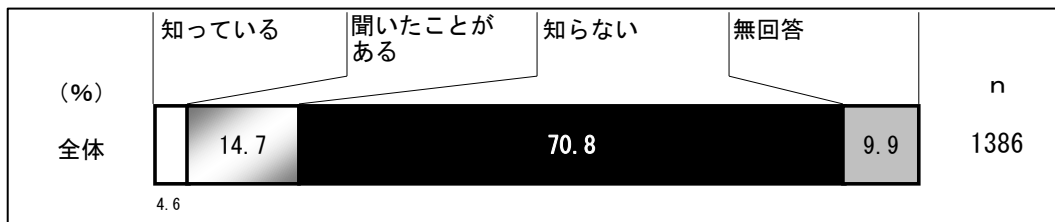


■居宅要支援・要介護認定者

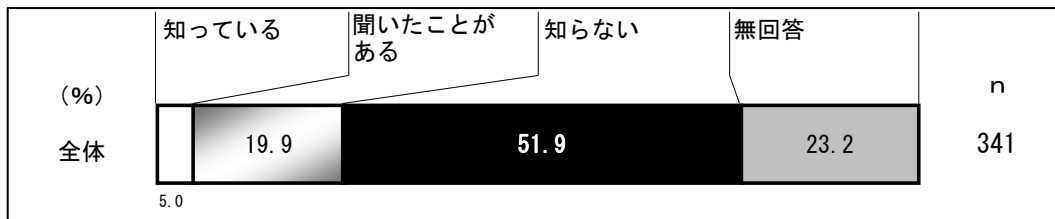


認知状況 ⑩ ⑥ 地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）

■一般高齢者

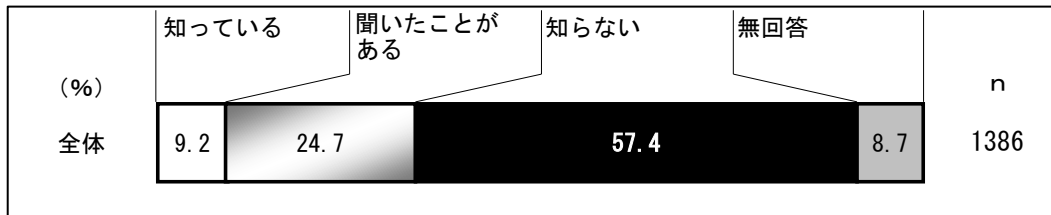


■居宅要支援・要介護認定者

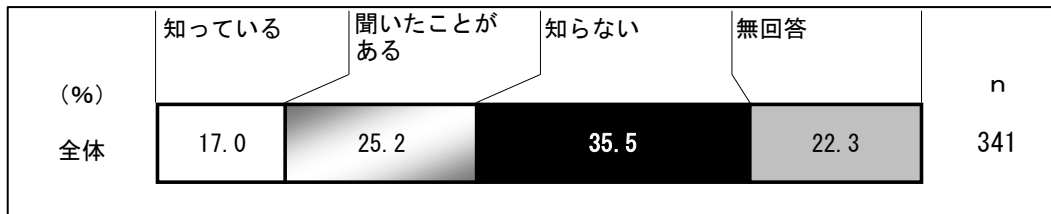


認知状況 ⑪ ⑦ 成年後見支援センター（成年後見制度）

■一般高齢者

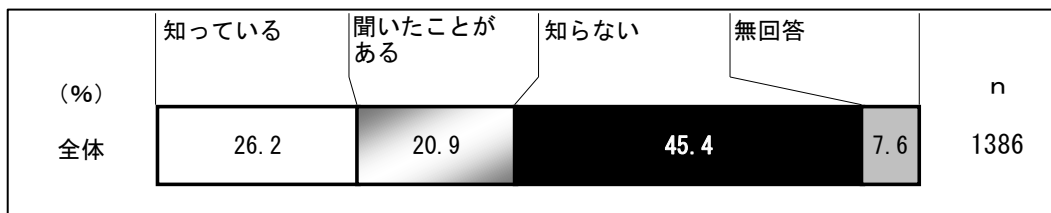


■居宅要支援・要介護認定者

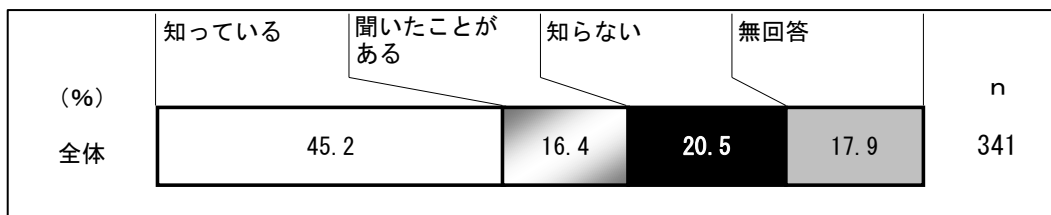


認知状況 ⑫ ⑧ 地域包括支援センター

■一般高齢者

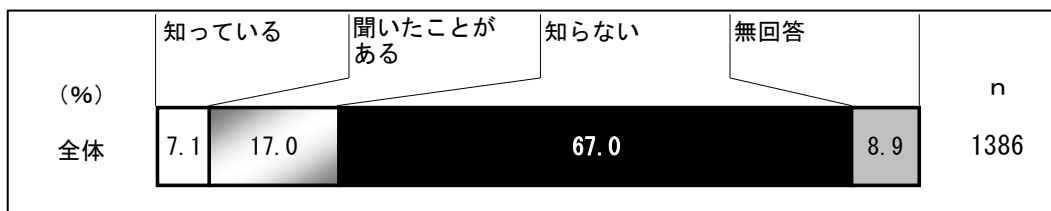


■居宅要支援・要介護認定者



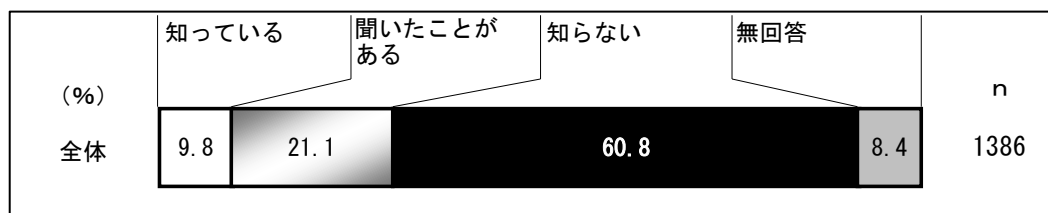
認知状況 ⑬ 脳のパワーアップ教室（認知症予防）

■一般高齢者



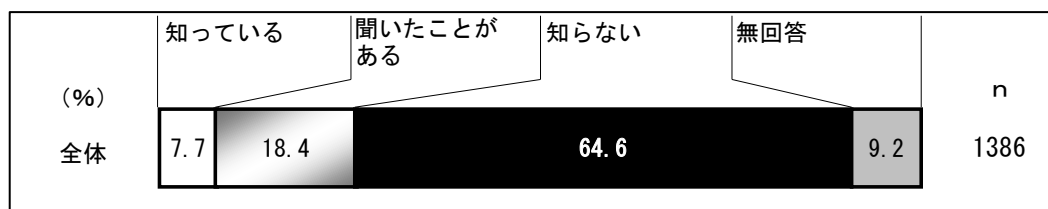
認知状況 ⑭ らくらく体操ひろば（運動）

■一般高齢者



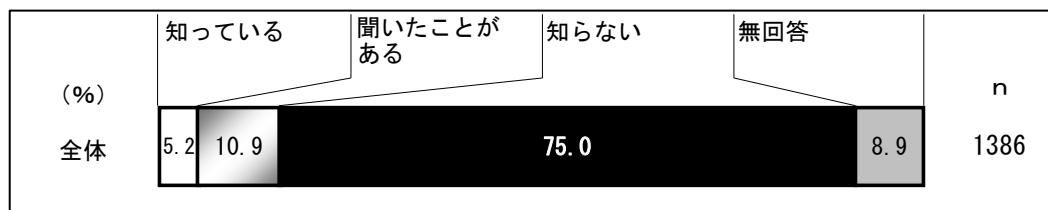
認知状況 ⑮ リズムでいきいき教室（運動）

■一般高齢者



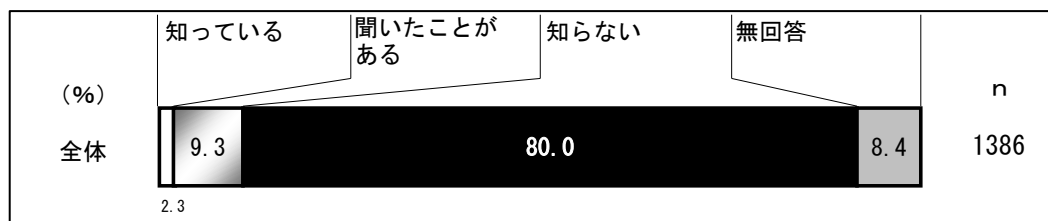
認知状況 ⑯ 住民主体のささえあい活動支援事業

■一般高齢者



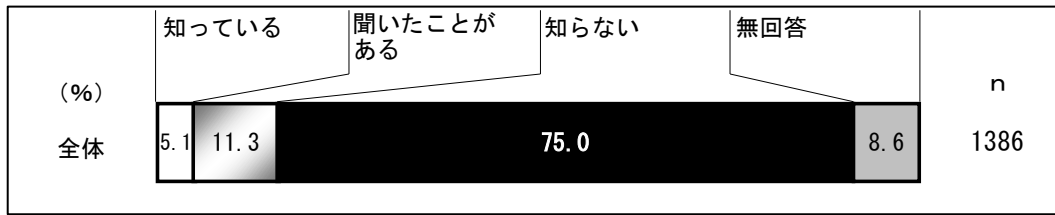
認知状況 ⑰ 移動支援事業補助金

■一般高齢者



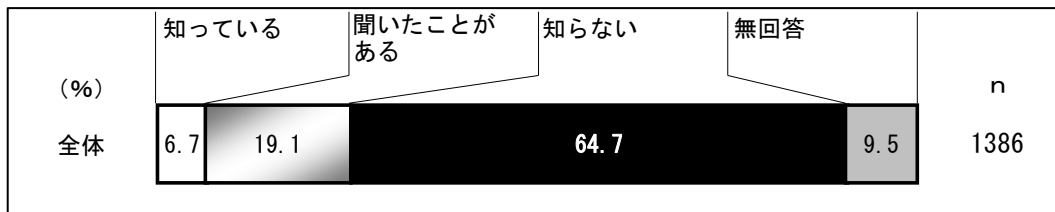
認知状況 ⑱ わがまち茶話会

■一般高齢者



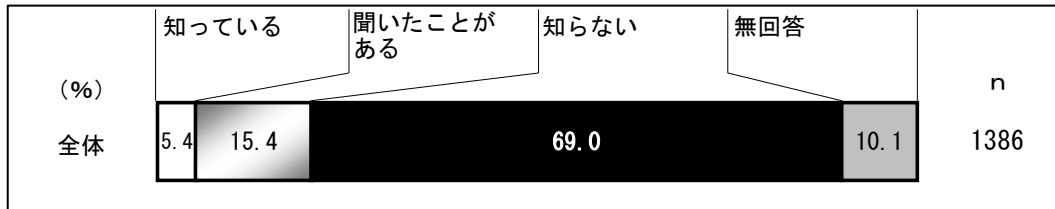
認知状況 ⑲ 健口教室 (口腔)

■一般高齢者



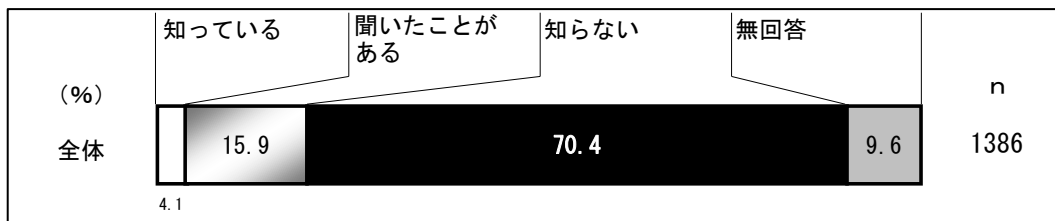
認知状況 ⑳ 介護予防普及啓発教室 (地域包括支援センター主催)

■一般高齢者



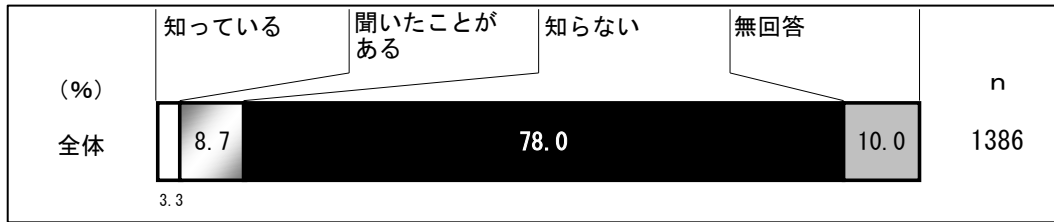
認知状況 ㉑ 高齢者団体向け介護予防教室 (運動・口腔・栄養・リハビリ)

■一般高齢者



認知状況 ② 通いの場におけるフレイルチェック事業

■一般高齢者

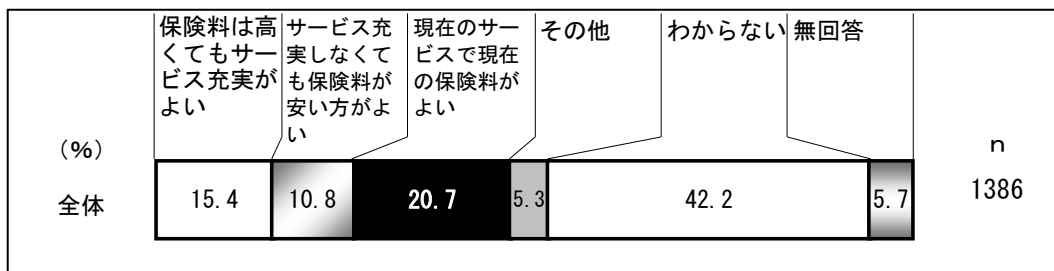


(2) 介護サービスの充実と保険料との考え方

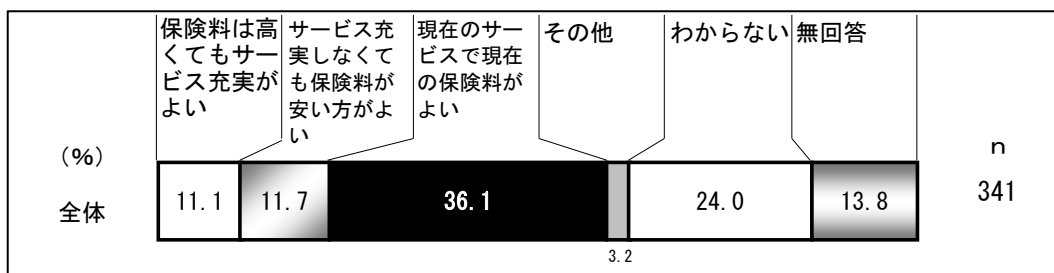
介護サービスの充実と保険料との考え方についてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「現在のサービスで現在の保険料がよい」が最も高く、それぞれ20.7%、36.1%となっている。

一般高齢者【問 67】／居宅要支援・要介護認定者【問 65】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

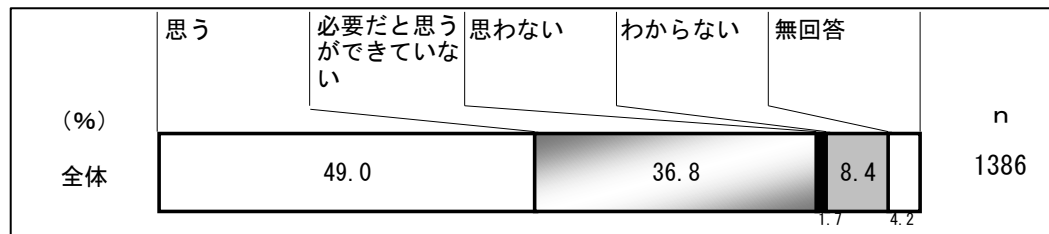


(3) 地域のつながりや助け合いは必要だと思うか

一般高齢者に地域のつながりや助け合いは必要だと思うかたずねたところ、「思う」が49.0%、「必要だと思うができていない」が36.8%、「思わない」が1.7%となっている。

一般高齢者【問 68】(単数回答)

■一般高齢者

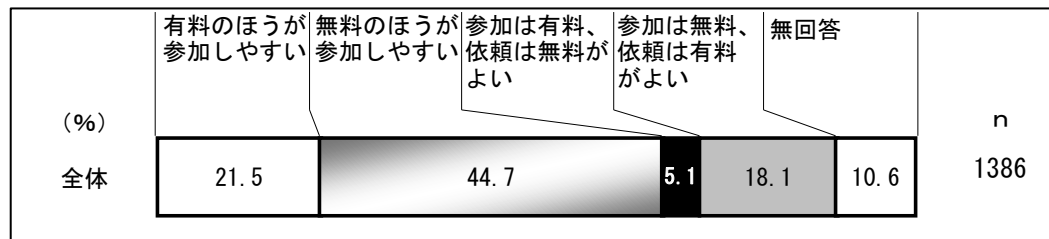


(4) 助け合い活動へ参加する際の考え方

一般高齢者に助け合い活動へ参加する際の考え方についてたずねたところ、「無料のほうが参加しやすい」が44.7%、「有料のほうが参加しやすい」が21.5%、「参加は無料、依頼は有料がよい」が5.1%、「参加は有料、依頼は無料がよい」が18.1%となっている。

一般高齢者【問 69】(単数回答)

■一般高齢者



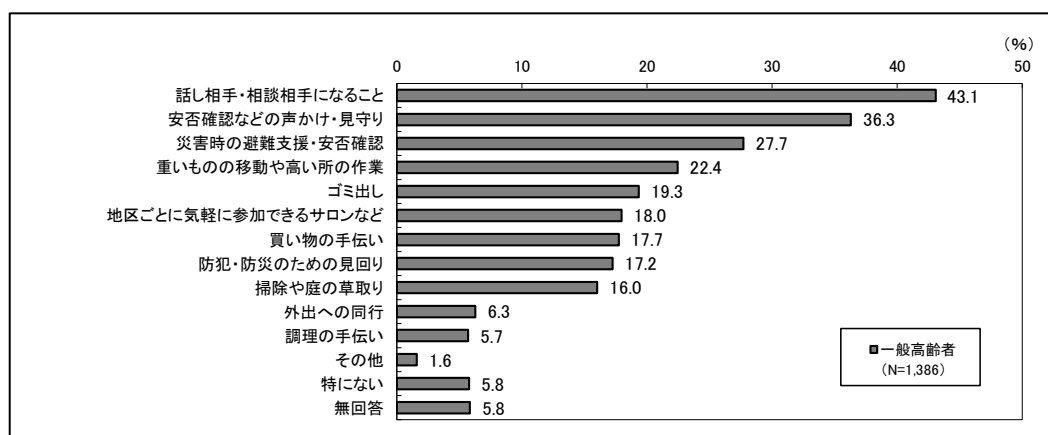
(5)一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯を地域で支えるためにあるとよいと思う生活支援

一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯を地域で支えるためにあるとよいと思う生活支援についてたずねたところ、一般高齢者では「話し相手・相談相手になること」(43.1%)が最も多く、次いで「安否確認などの声かけ・見守り」(36.3%)、「災害時の避難支援・安否確認」(27.7%) などとなっている。

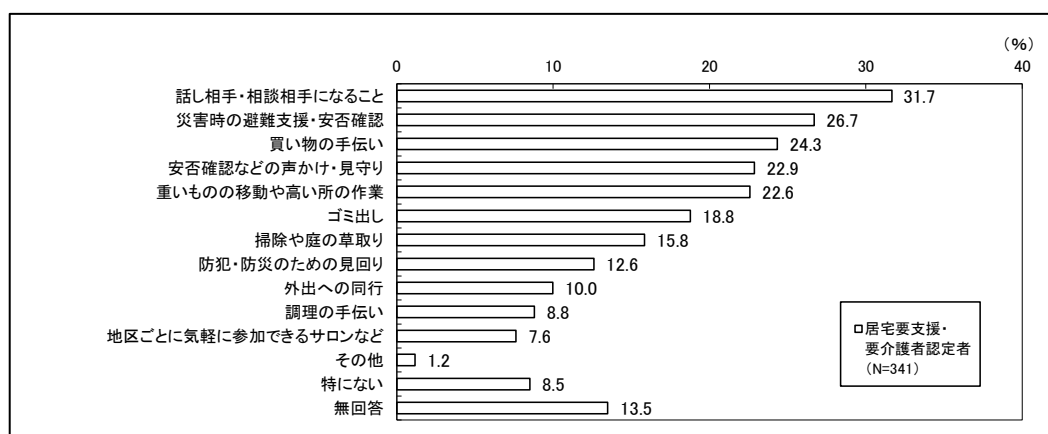
居宅要支援・要介護認定者では「話し相手・相談相手になること」(31.7%)が最も高く、次いで「災害時の避難支援・安否確認」(26.7%)、「買い物の手伝い」(24.3%) などとなっている。

一般高齢者【問 70】 / 居宅要支援・要介護認定者【問 64】 (複数回答)

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

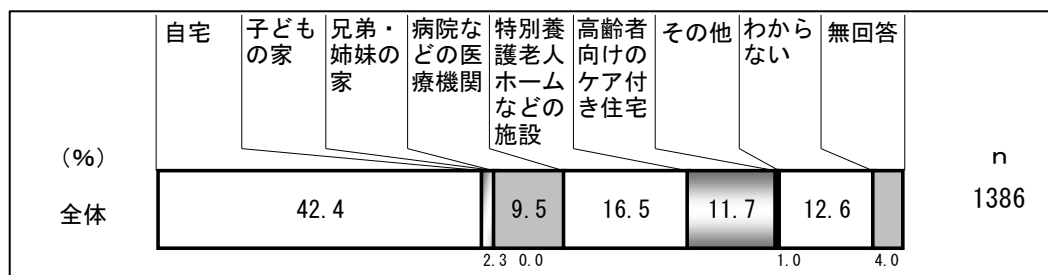


(6) 介護を受けたい場所

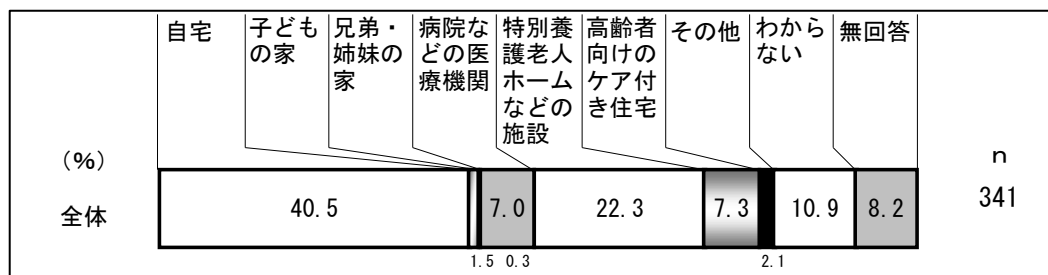
介護を受けたい場所についてたずねたところ、一般高齢者、居宅要支援・要介護認定者ともに「自宅」が最も高く、それぞれ42.4%、40.5%となっている。次いで「特別養護老人ホームなどの施設」がそれぞれ16.5%、22.3%となっている。

一般高齢者【問 71】／居宅要支援・要介護認定者【問 59】（単数回答）

■一般高齢者



■居宅要支援・要介護認定者

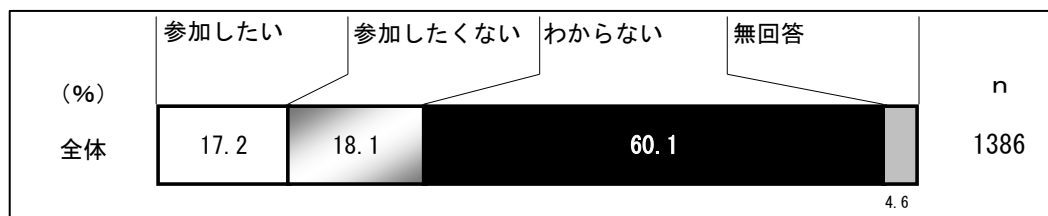


(7) わがまち茶話会への参加意向

一般高齢者にわがまち茶話会への参加意向についてたずねたところ、「参加したくない」が18.1%、「参加したい」が17.2%となっている。なお、「わからない」は60.1%となっている。

一般高齢者【問 72】（単数回答）

■一般高齢者



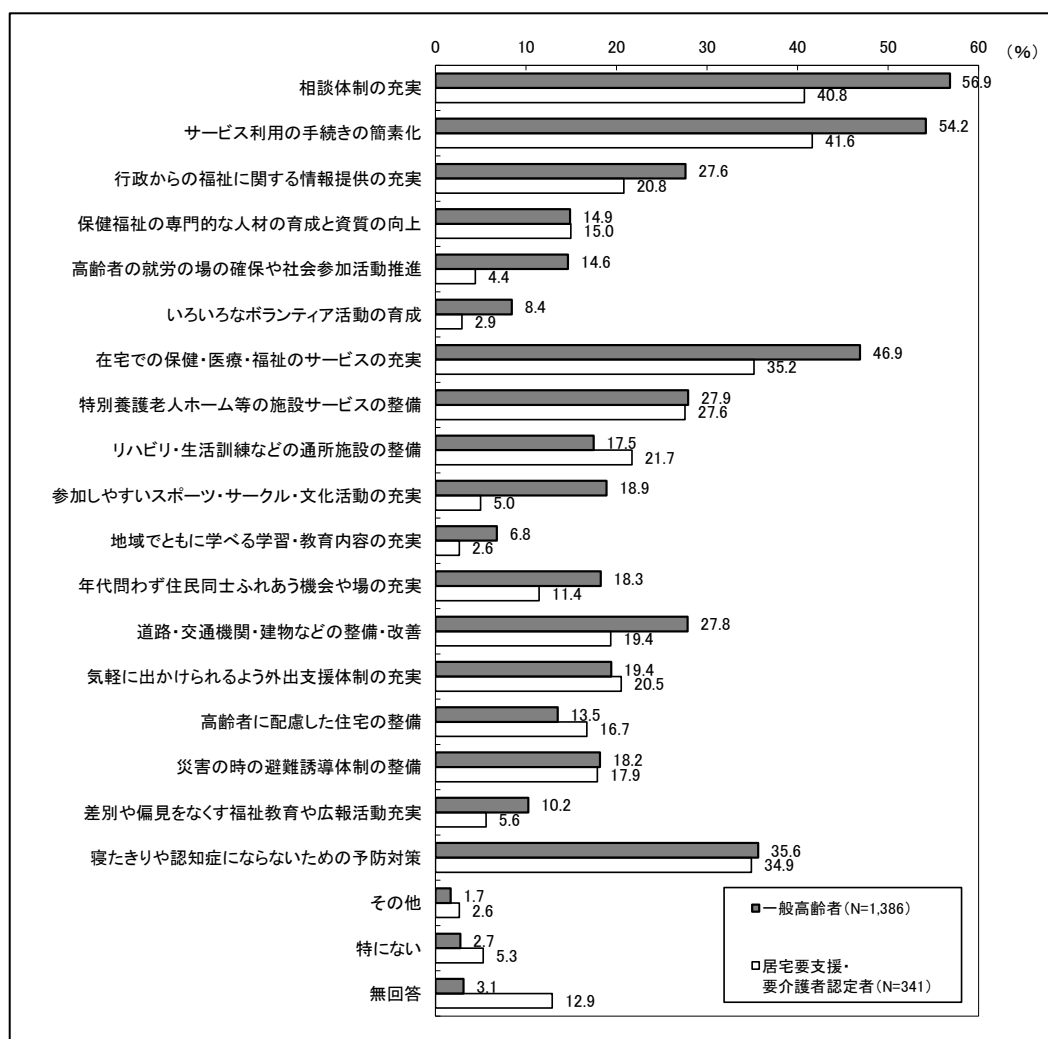
(8) 高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点をおくべきこと

高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点をおくべきことについてたずねたところ、一般高齢者では「相談体制の充実」が最も多く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」、「在宅での保健・医療・福祉のサービスの充実」などとなっている。

居宅要支援・要介護認定者では「サービス利用の手続きの簡素化」が最も多く、次いで「相談体制の充実」、「在宅での保健・医療・福祉のサービスの充実」などとなっている。

一般高齢者【問 73】／居宅要支援・要介護認定者【問 67】（複数回答）

■一般高齢者／居宅要支援・要介護認定者

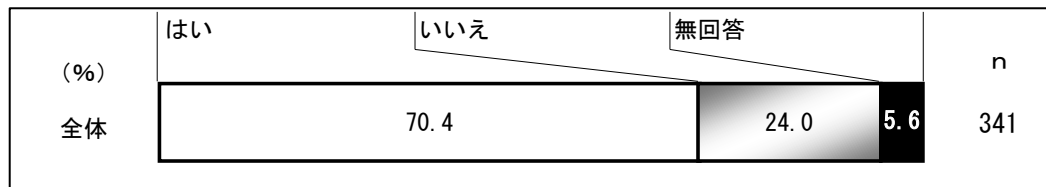


(9) 介護保険サービスの利用状況

居宅要支援・要介護認定者に現在、介護保険サービスの利用をしているかたずねたところ、「はい」が70.4%、「いいえ」が24.0%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 55】（単数回答）

■居宅要支援・要介護認定者

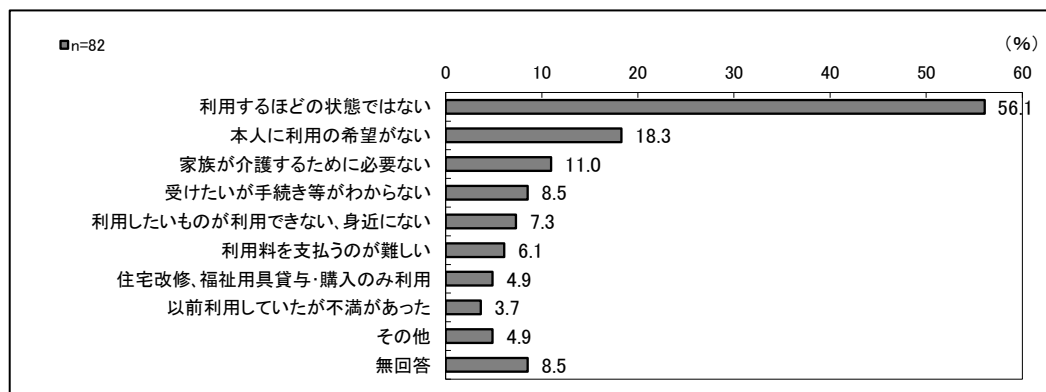


(10) 介護保険サービスを利用していない理由

居宅要支援・要介護認定者に介護保険サービスを利用していない理由についてたずねたところ、「利用するほどの状態ではない」(56.1%)が最も高く、次いで「本人に利用の希望がない」(18.3%)、「家族が介護するために必要ない」(11.0%)などとなっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 55-1】（複数回答）

■居宅要支援・要介護認定者

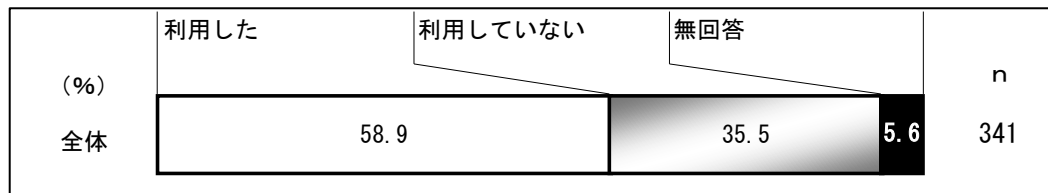


(11) 令和4年12月の介護保険サービス利用状況

居宅要支援・要介護認定者に令和4年12月の介護保険サービス利用状況についてたずねたところ、「利用した」が58.9%、「利用していない」が35.5%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問56】（単数回答）

■居宅要支援・要介護認定者



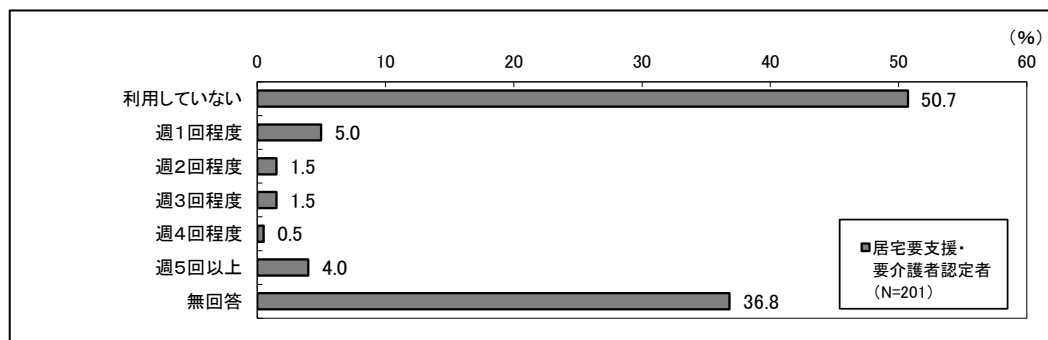
(12) 介護保険サービスの利用状況

居宅要支援・要介護認定者が利用した介護保険サービスは、「⑤通所介護」の利用割合及び回数が最も高くなっている。次いで「⑥通所リハビリテーション」の利用割合及び回数が高くなっている。

居宅要支援・要介護認定者【問56-1①～⑭】（単数回答）

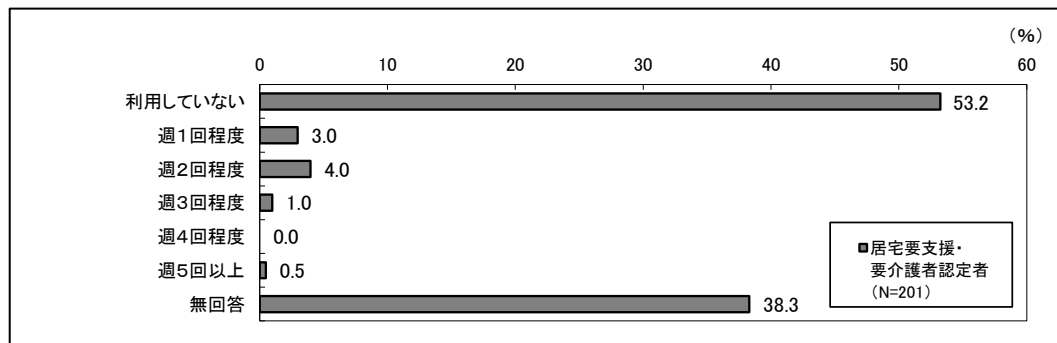
①訪問介護（ホームヘルプサービス）

■居宅要支援・要介護認定者



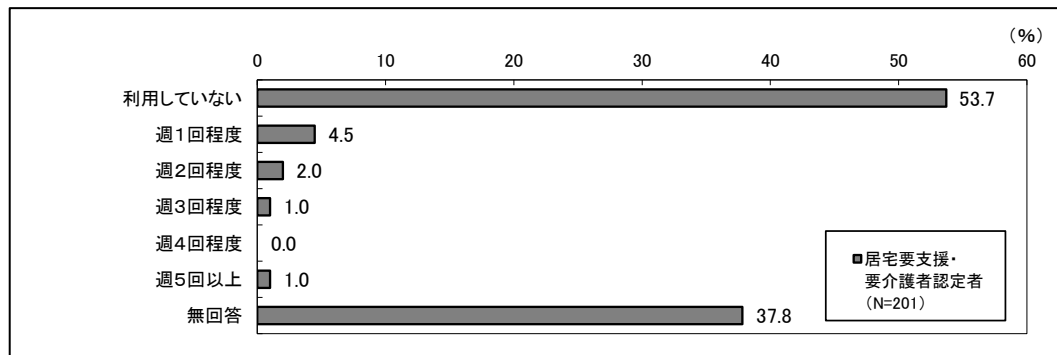
②訪問入浴介護

■居宅要支援・要介護認定者



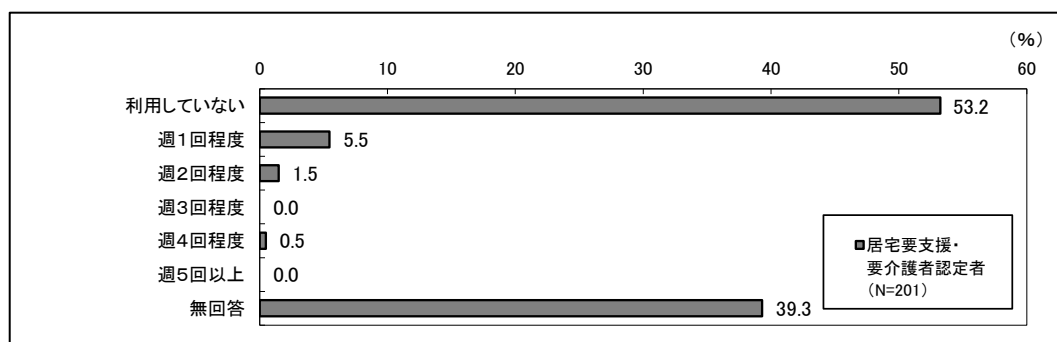
③訪問看護

■居宅要支援・要介護認定者



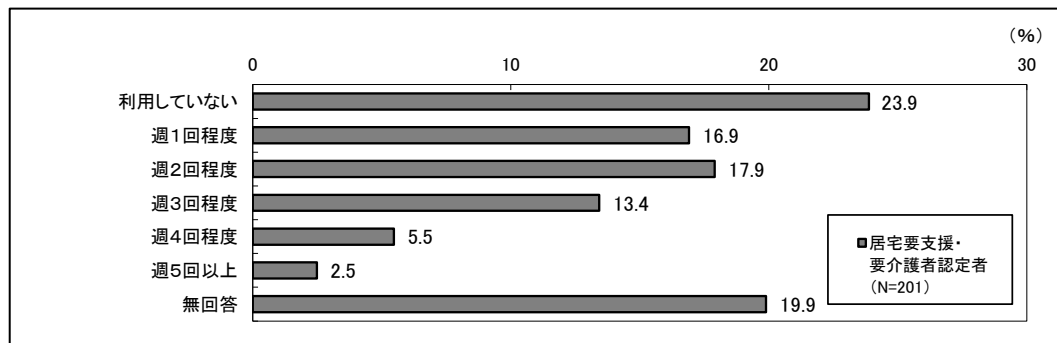
④訪問リハビリテーション

■居宅要支援・要介護認定者



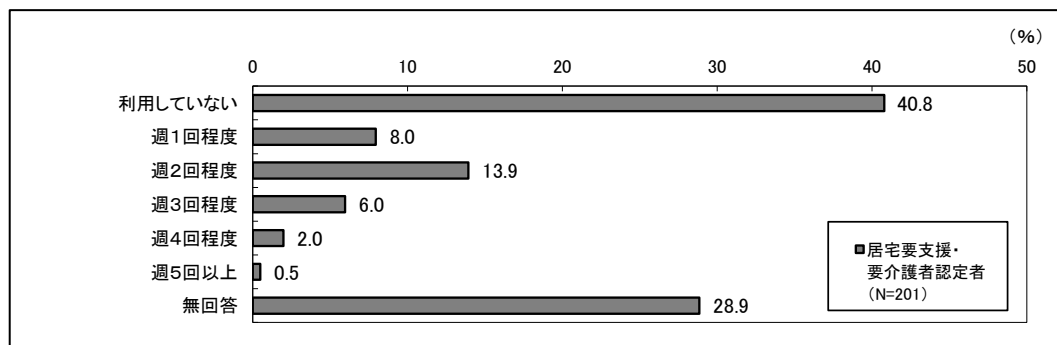
⑤通所介護（デイサービス）

■居宅要支援・要介護認定者



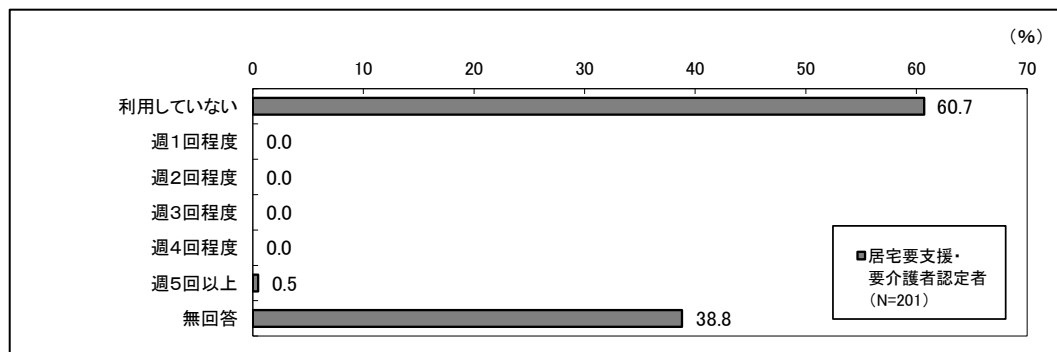
⑥通所リハビリテーション（デイケア）

■居宅要支援・要介護認定者



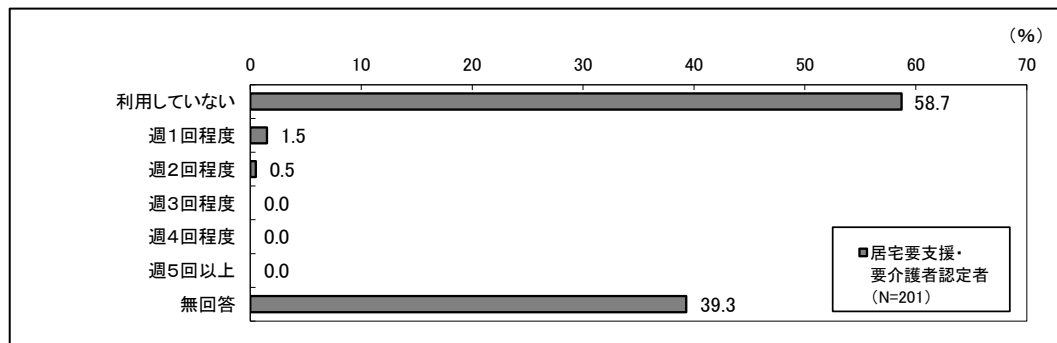
⑦夜間対応型訪問介護

■居宅要支援・要介護認定者



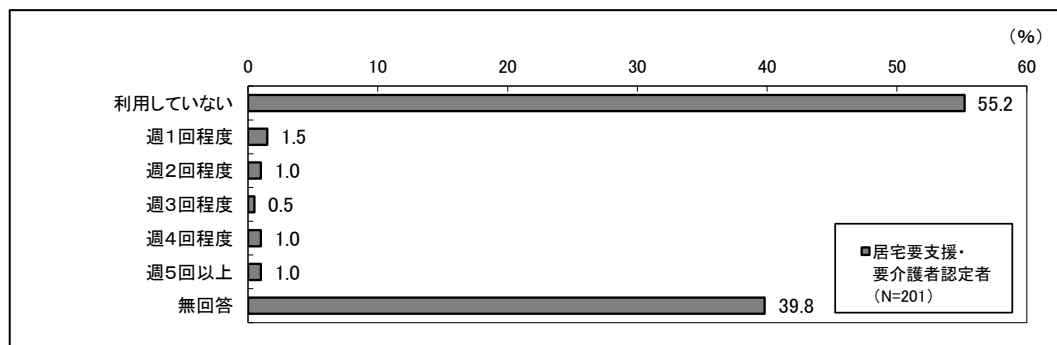
⑧総合事業（訪問型サービス）

■居宅要支援・要介護認定者



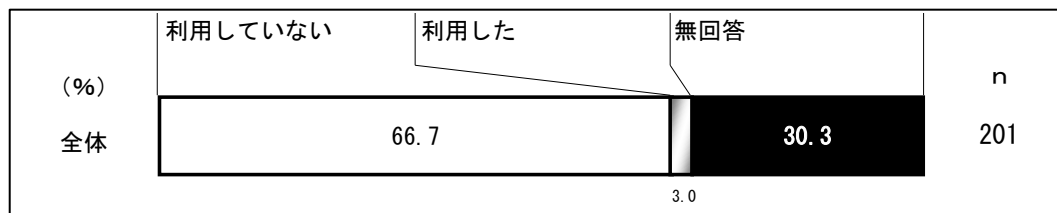
⑨総合事業（通所型サービス）

■居宅要支援・要介護認定者



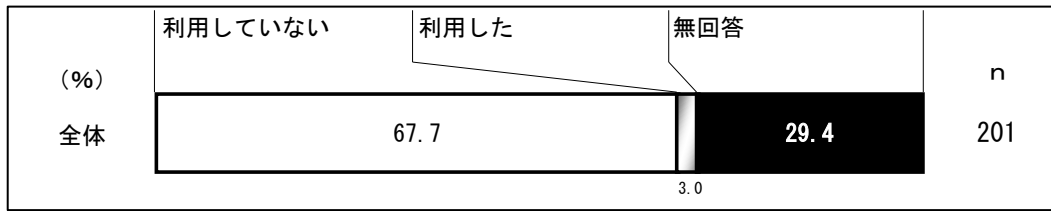
⑩定期巡回・随時対応型訪問介護看護

■居宅要支援・要介護認定者



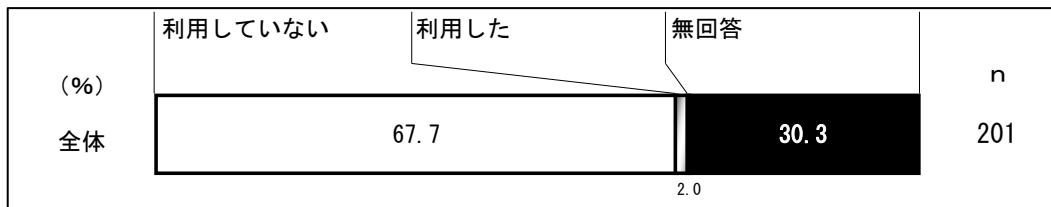
⑪小規模多機能型居宅介護

■居宅要支援・要介護認定者



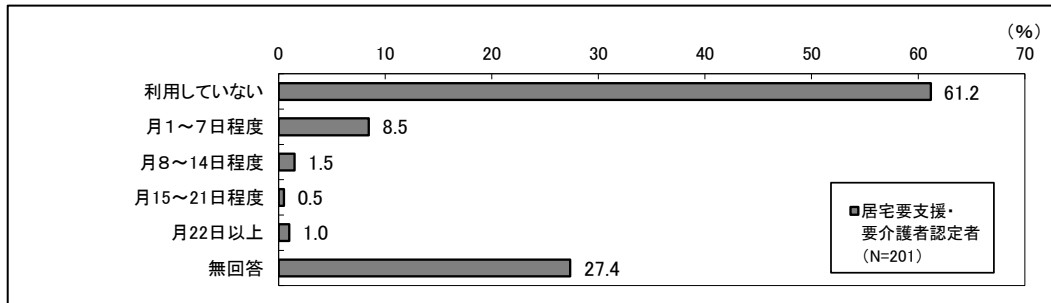
⑫看護小規模多機能型居宅介護

■居宅要支援・要介護認定者



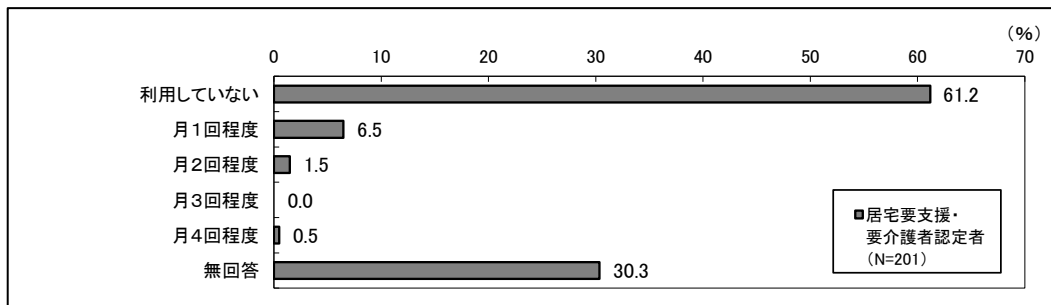
⑬短期入所（ショートステイ）

■居宅要支援・要介護認定者



⑭居宅療養管理指導

■居宅要支援・要介護認定者

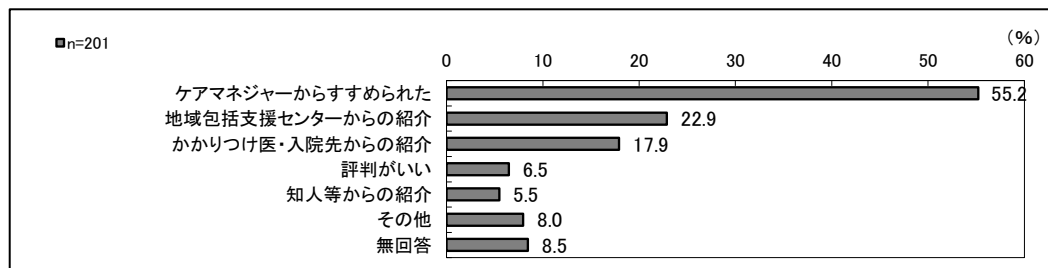


(13) 現在のサービス事業者を選んだ理由

居宅要支援・要介護認定者が現在のサービス事業者を選んだ理由についてたずねたところ、「ケアマネジャーからすすめられた」(55.2%)が最も高く、次いで「地域包括支援センターからの紹介」(22.9%)、「かかりつけ医・入院先からの紹介」(17.9%)などとなっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 56-2】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

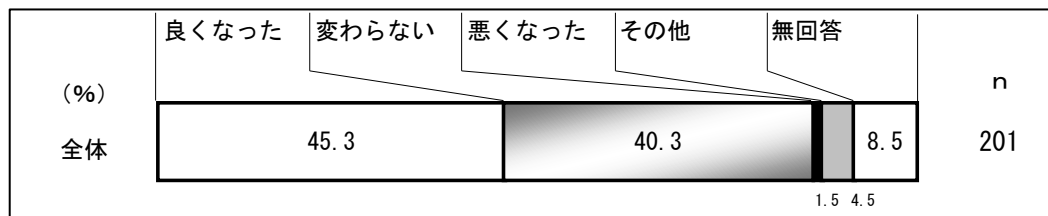


(14) サービスを受けた際の変化

居宅要支援・要介護認定者に対し、サービスを受けた際の変化についてたずねたところ、「良くなった」が45.3%、「変わらない」が40.3%、「悪くなった」が1.5%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 56-3】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

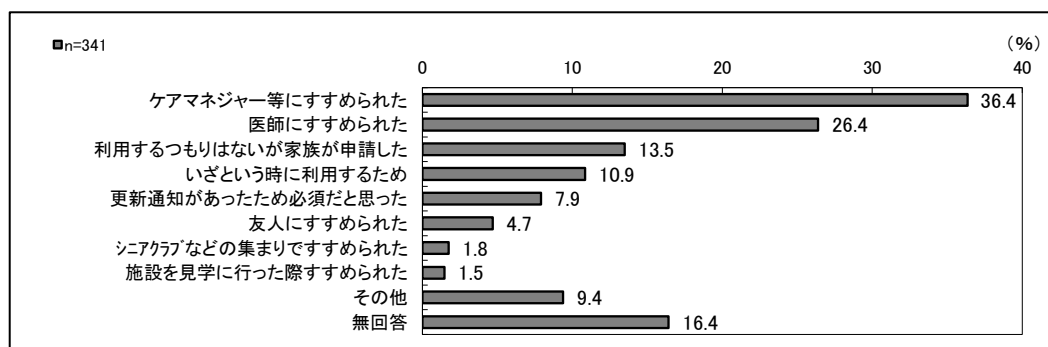


(15) 要介護認定を申請した理由

居宅要支援・要介護認定者が要介護認定を申請した理由をたずねたところ、「ケアマネジャー等にすすめられた」(36.4%)が最も高く、次いで「医師にすすめられた」(26.4%)、「利用するつもりはないが家族が申請した」(13.5%)などとなっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 57】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者



(16) 長期療養が必要な場合の在宅介護への意向

居宅要支援・要介護認定者に長期療養が必要な場合の在宅介護への意向についてたずねたところ、「安心できる体制があれば自宅療養を望む」が45.2%、「家族に負担がかかるので自宅療養は望まない」が37.8%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 60】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

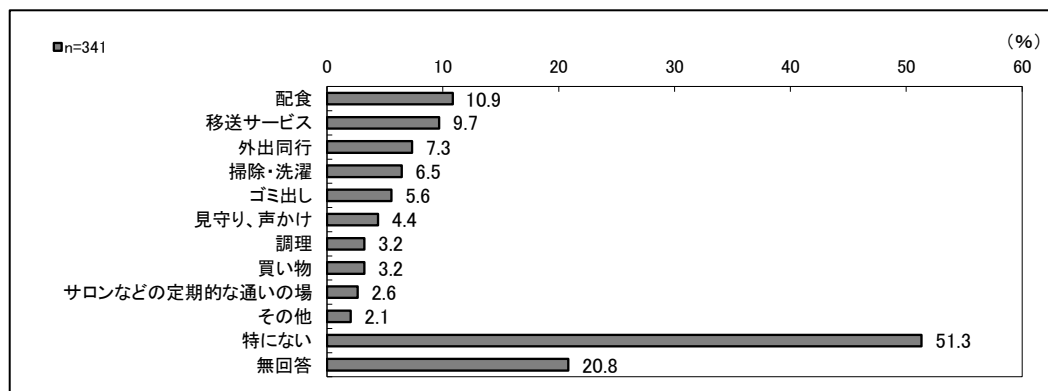
	安心できる体制があれば自宅療養を望む	家族に負担がかかるので自宅療養は望まない	無回答	n
(%)	45.2	37.8	17.0	341
全体				

(17) 利用中の介護保険サービス以外の支援・サービス利用状況

居宅要支援・要介護認定者が利用中の介護保険サービス以外の支援・サービス利用状況についてたずねたところ、「配食」(10.9%)が最も高く、次いで「移送サービス」(9.7%)、「外出同行」(7.3%)などとなっている。なお、「特にない」は51.3%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 61】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

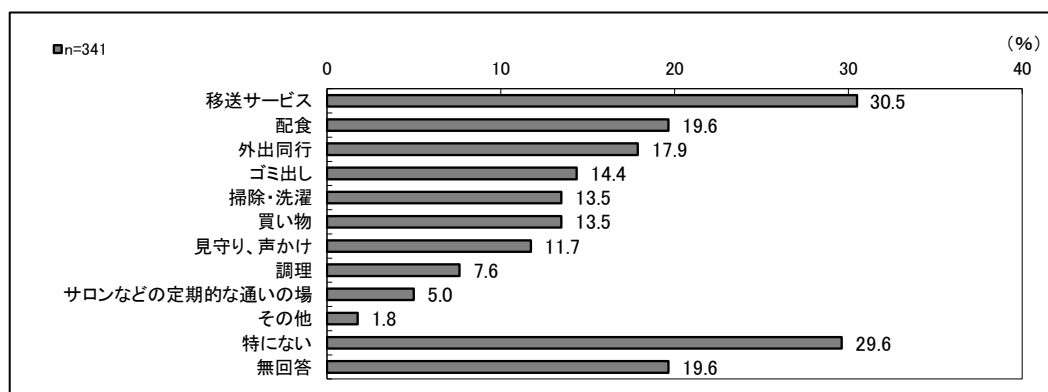


(18) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

居宅要支援・要介護認定者に在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてたずねたところ、「移送サービス」(30.5%)が最も高く、次いで「配食」(19.6%)、「外出同行」(17.9%)などとなっている。なお、「特になし」は29.6%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 62】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

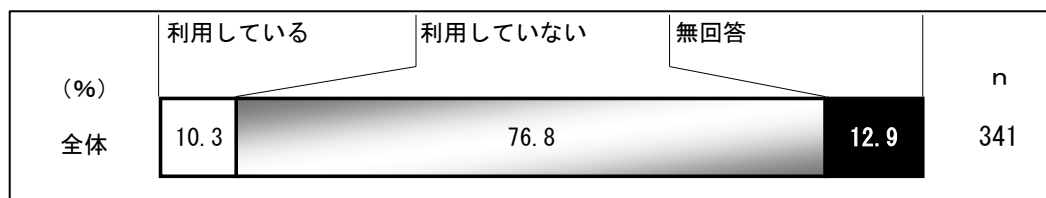


(19) 訪問診療の利用状況

居宅要支援・要介護認定者に訪問診療の利用状況についてたずねたところ、「利用していない」が76.8%、「利用している」が10.3%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 63】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

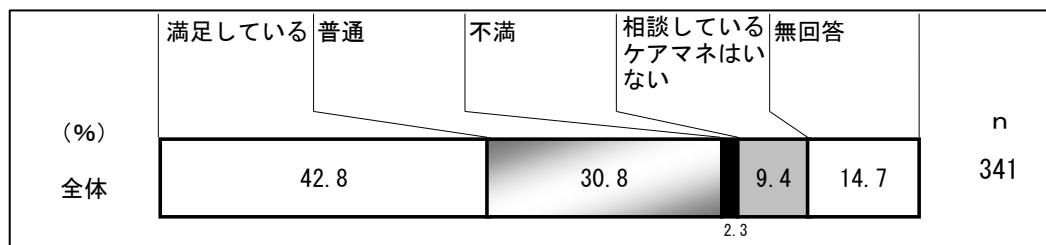


(20) 現在のケアマネジャーへの満足度

居宅要支援・要介護認定者に現在のケアマネジャーへの満足度についてたずねたところ、「満足している」が42.8%、「普通」が30.8%、「不満」が2.3%、「相談しているケアマネジャーはいない」が9.4%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 66】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者



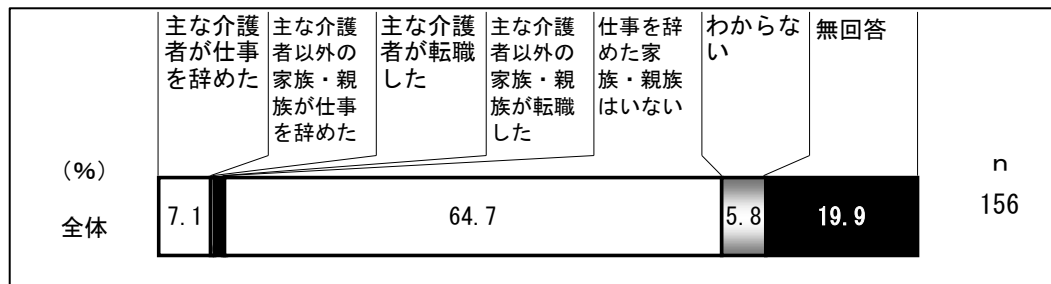
12 本人を介護している人について 【介護をしている人のみ】

(1) 介護を理由に1年以内に仕事を辞めた人がいるか

居宅要支援・要介護認定者の家族・親族に介護を理由に1年以内に仕事を辞めた人がいるかたずねたところ、「仕事を辞めた家族・親族はいない」が64.7%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 68】（複数回答）

■居宅要支援・要介護認定者

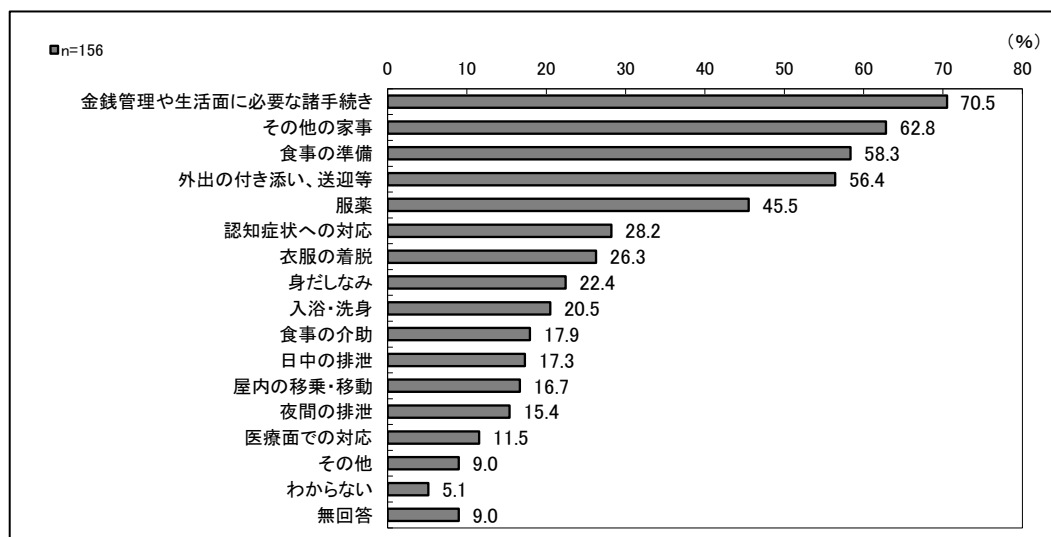


(2) 主な介護者が行っている介護等について

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者が行っている介護等についてたずねたところ、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(70.5%)が最も高く、次いで「その他の家事」(62.8%)、「食事の準備」(58.3%)などとなっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 69】（複数回答）

■居宅要支援・要介護認定者

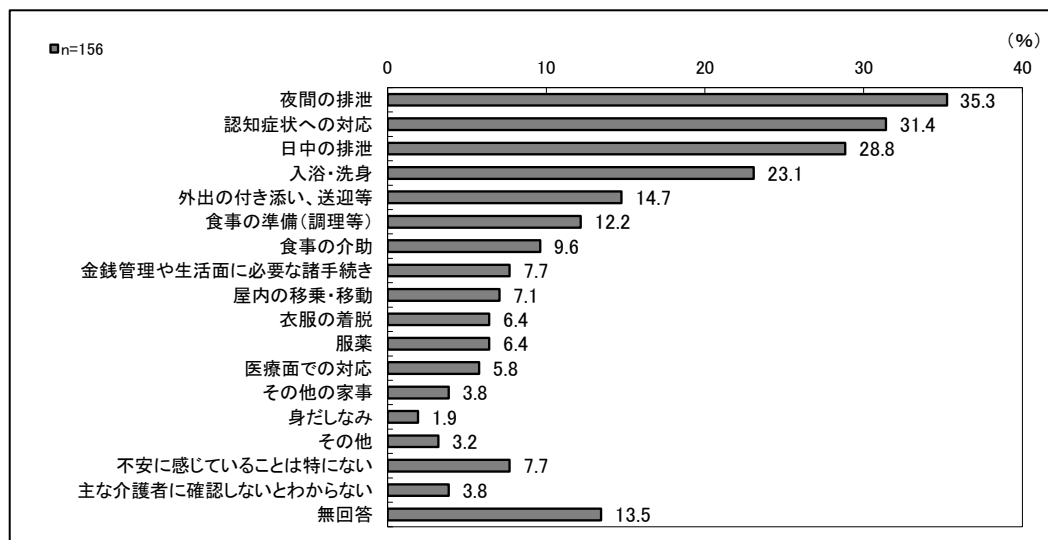


(3) 不安を感じる介護等について

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者が不安を感じる介護等についてたずねたところ、「夜間の排泄」(35.3%)が最も多く、次いで「認知症状への対応」(31.4%)、「日中の排泄」(28.8%)などとなっている。また、「不安を感じていることは特にない」は7.7%、「主な介護者に確認しないとわからない」は3.8%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問70】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

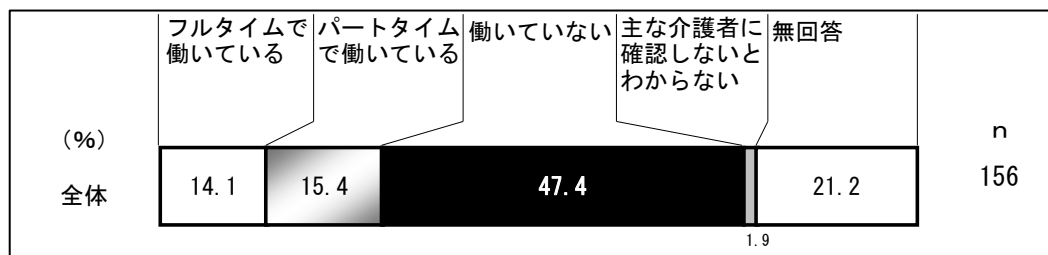


(4) 主な介護者の現在の勤務形態

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者の現在の勤務形態についてたずねたところ、「働いていない」が47.4%、「パートタイムで働いている」が15.4%、「フルタイムで働いている」が14.1%、「主な介護者に確認しないとわからない」が1.9%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問71】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

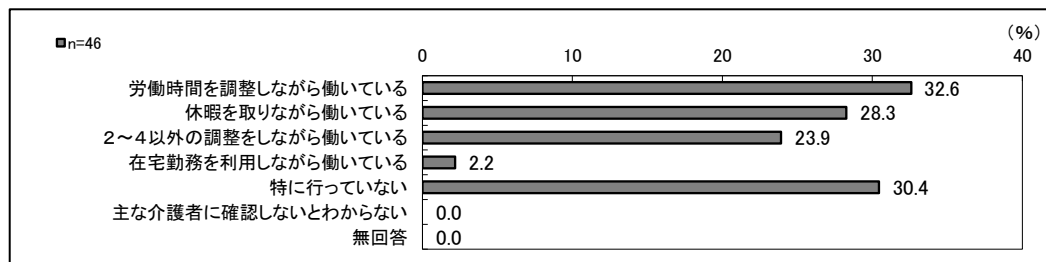


(5) 主な介護者の働き方についての調整等

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者の働き方についての調整等についてたずねたところ、「労働時間を調整しながら働いている」(32.6%)が最も高く、次いで「休暇を取りながら働いている」(28.3%)、「2～4以外の調整をしながら働いている」(23.9%)などとなっている。なお、「特に行っていない」は30.4%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 71-1】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者



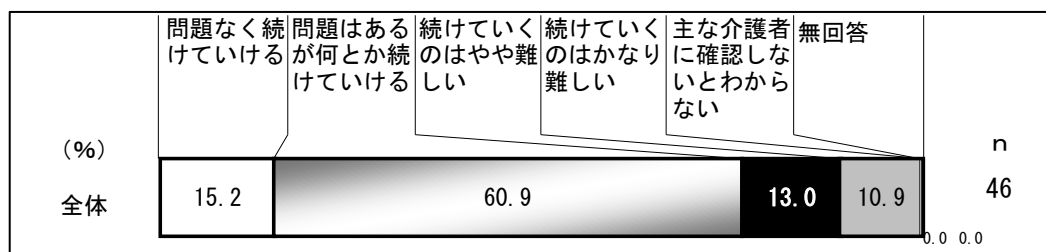
※選択肢 2. 労働時間を調整しながら働いている、3. 休暇を取りながら働いている、4. 在宅勤務を利用しながら働いている

(6) 今後も働きながら介護を続けていけるか

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者に今後も働きながら介護を続けていけるかについてたずねたところ、「問題はあるが何とか続けていける」が60.9%、「問題なく続けていける」が15.2%、「続けていくのはやや難しい」が13.0%、「続けていくのはかなり難しい」が10.9%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 71-2】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

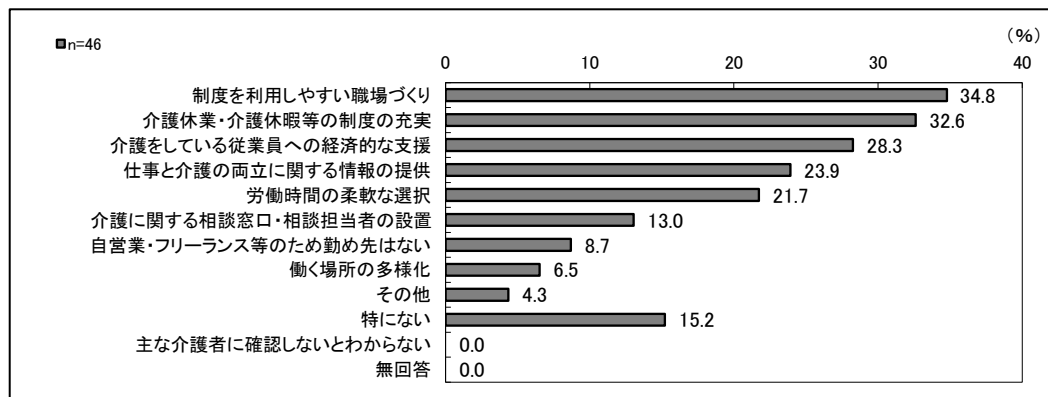


(7) 仕事と介護の両立に効果があると思う支援

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者に仕事と介護の両立に効果があると思う支援についてたずねたところ、「制度を利用しやすい職場づくり」(34.8%)が最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(32.6%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(28.3%) などとなっている。なお、「特にない」は15.2%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 71-3】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

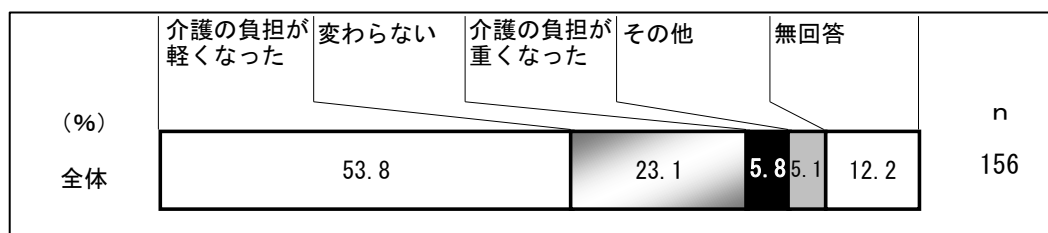


(8) サービスを受けた際の負担の変化 (介護者)

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者にサービスを受けた際の負担の変化(介護者)についてたずねたところ、「介護の負担が軽くなった」が53.8%、「変わらない」が23.1%、「介護の負担が重くなった」が5.8%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 72】(単数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

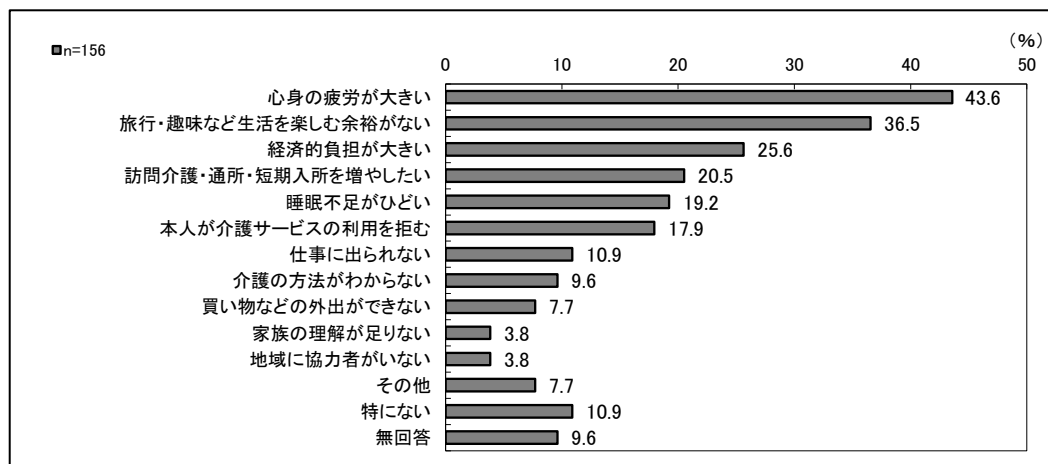


(9) 介護の際に困っていること

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者に介護の際に困っていることについてたずねたところ、「心身の疲労が大きい」(43.6%)が最も多く、次いで「旅行・趣味など生活を楽しむ余裕がない」(36.5%)、「経済的負担が大きい」(25.6%)などとなっている。なお、「特にない」は10.9%となっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 73】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者

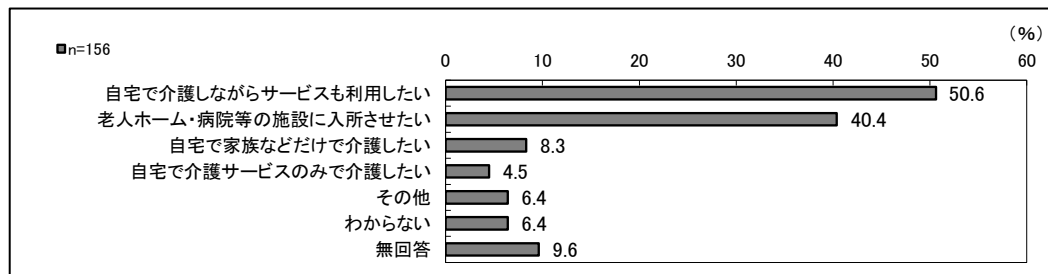


(10) 今後の介護について

居宅要支援・要介護認定者の主な介護者に今後の介護についてたずねたところ、「自宅で介護しながらサービスも利用したい」(50.6%)が最も高く、次いで「老人ホーム・病院等の施設に入所させたい」(40.4%)、「自宅で家族などだけで介護したい」(8.3%)などとなっている。

居宅要支援・要介護認定者【問 74】(複数回答)

■居宅要支援・要介護認定者



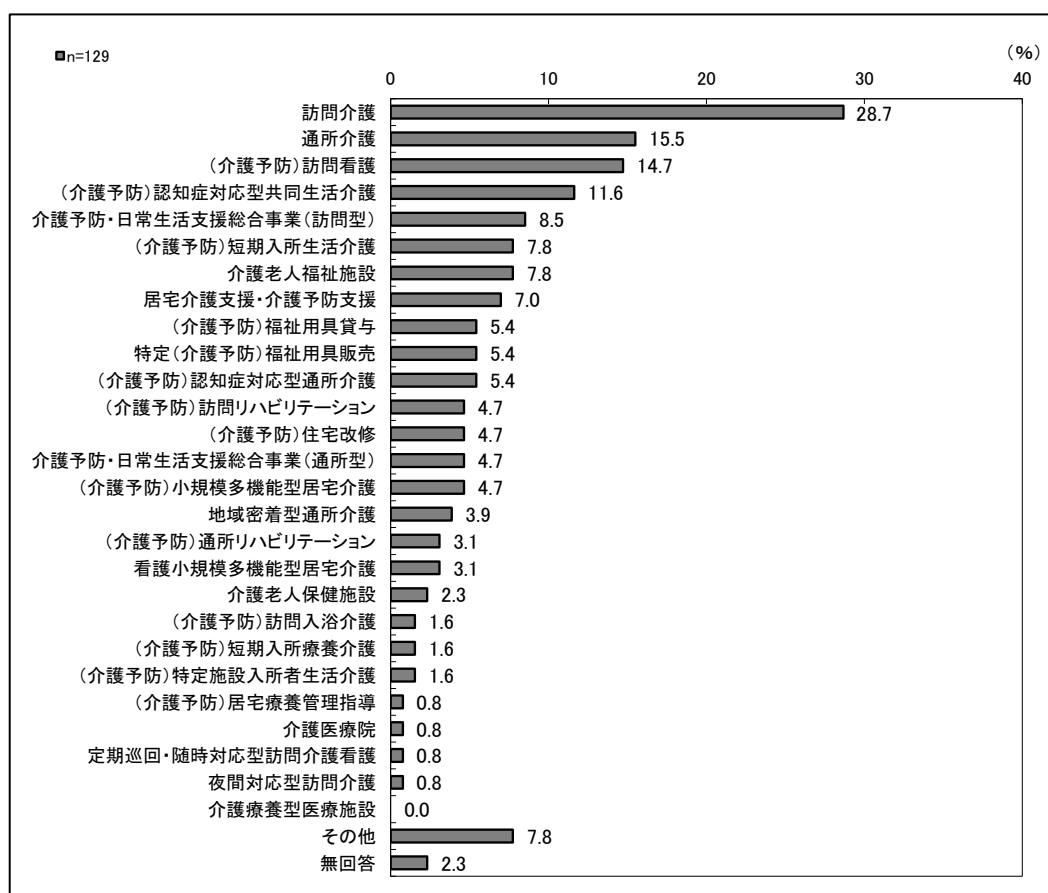
IV 調査結果（事業所）

1 実施しているサービスについて

（1）提供している介護サービス

提供している介護サービスについては、「訪問介護」（28.7%）が最も多く、次いで「通所介護」（15.5%）、「（介護予防）訪問看護」（14.7%）、「（介護予防）認知症対応型共同生活介護」（11.6%）、「介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型）」（8.5%）、「（介護予防）短期入所生活介護」・「介護老人福祉施設」（同率 7.8%）、「居宅介護支援・介護予防支援」（7.0%）、「（介護予防）福祉用具貸与」・「特定（介護予防）福祉用具販売」・「（介護予防）認知症対応型通所介護」（同率 5.4%）、「（介護予防）訪問リハビリテーション」・「（介護予防）住宅改修」・「介護予防・日常生活支援総合事業（通所型）」・「（介護予防）小規模多機能型居宅介護」（同率 4.7%）、「地域密着型通所介護」（3.9%）、「（介護予防）通所リハビリテーション」・「看護小規模多機能型居宅介護」（同率 3.1%）、「介護老人保健施設」（2.3%）、「（介護予防）訪問入浴介護」・「（介護予防）短期入所療養介護」・「（介護予防）特定施設入所者生活介護」（同率 1.6%）、「（介護予防）居宅療養管理指導」・「介護医療院」・「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」・「夜間対応型訪問介護」（同率 0.8%）などとなっている。

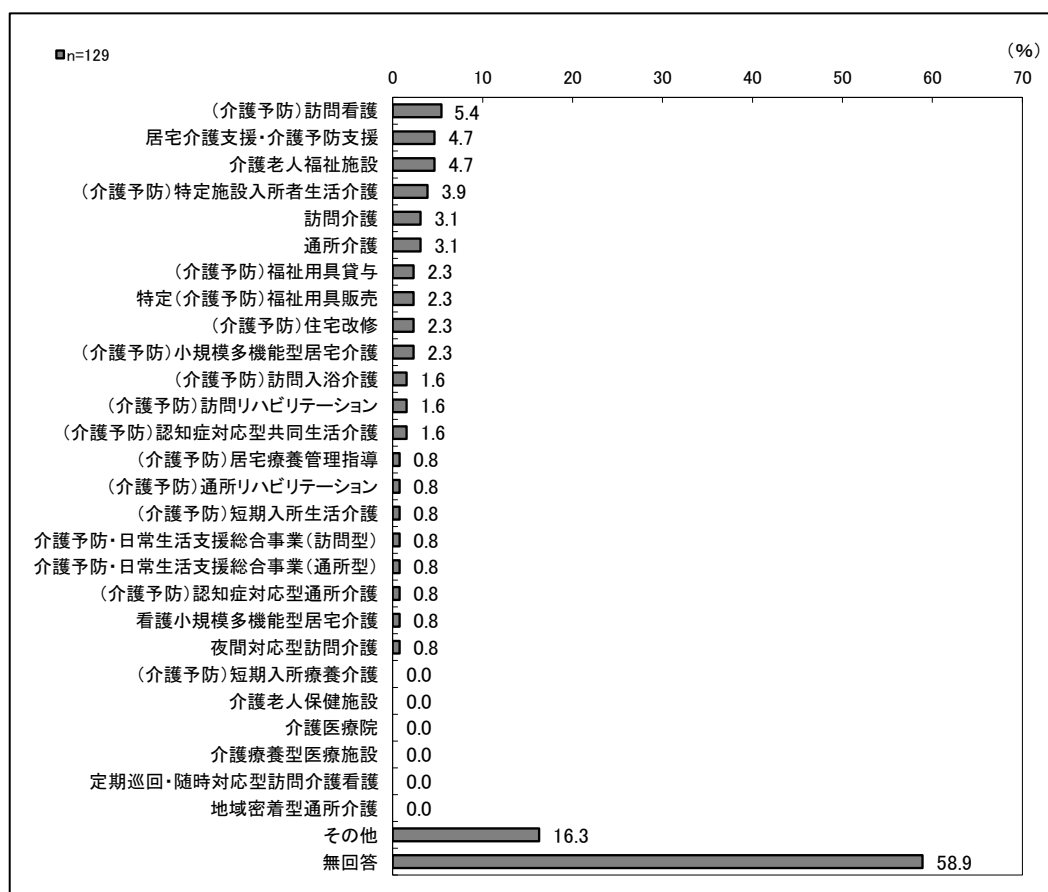
■事業所



(2) 新規参入したい介護サービス

新規参入したい介護サービスについては、「(介護予防)訪問看護」(5.4%)が最も多く、次いで「居宅介護支援・介護予防支援」・「介護老人福祉施設」(同率4.7%)、「(介護予防)特定施設入所者生活介護」(3.9%)、「訪問介護」・「通所介護」(同率3.1%)、「(介護予防)福祉用具貸与」・「特定(介護予防)福祉用具販売」・「(介護予防)住宅改修」・「(介護予防)小規模多機能型居宅介護」(同率2.3%)、「(介護予防)訪問入浴介護」・「(介護予防)訪問リハビリテーション」・「(介護予防)認知症対応型共同生活介護」(同率1.6%)、「(介護予防)居宅療養管理指導」・「(介護予防)通所リハビリテーション」・「(介護予防)短期入所生活介護」・「介護予防・日常生活支援総合事業(訪問型)」・「介護予防・日常生活支援総合事業(通所型)」・「(介護予防)認知症対応型通所介護」・「看護小規模多機能型居宅介護」・「夜間対応型訪問介護」(同率0.8%)などとなっている。

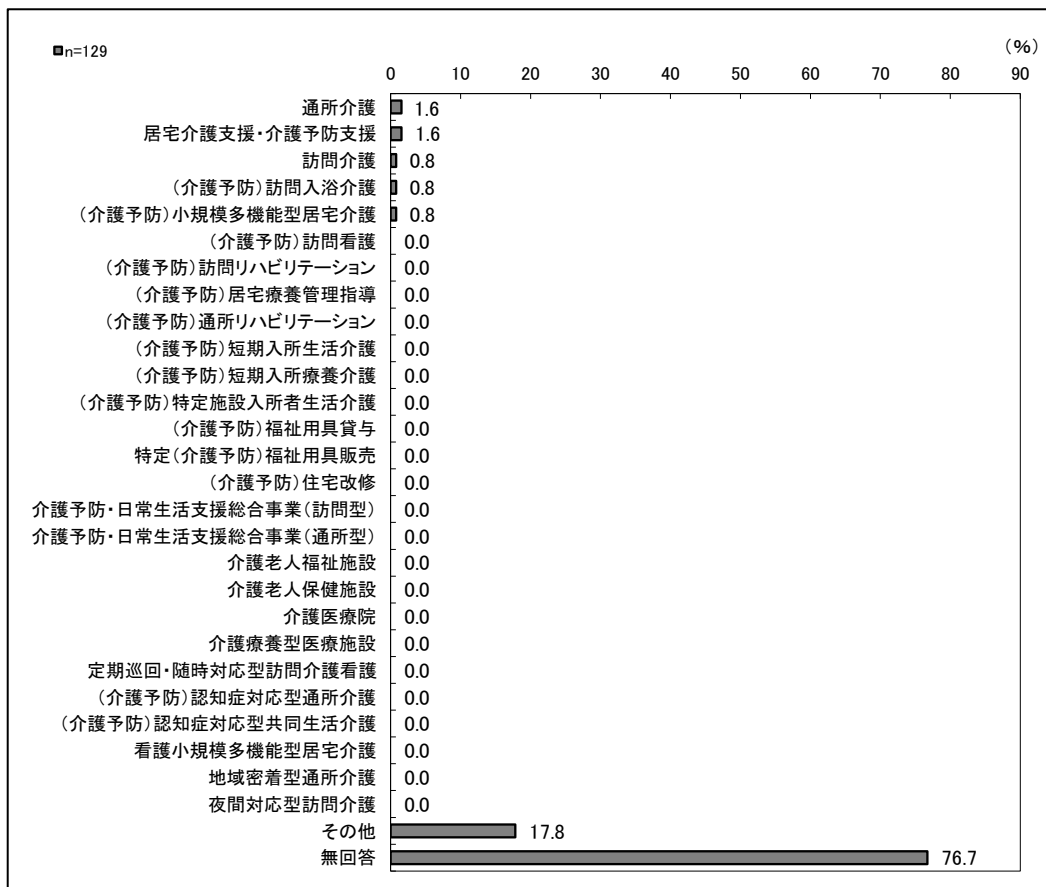
■事業所



(3) 縮小したい介護サービス

縮小したい介護サービスについては、「通所介護」・「居宅介護支援・介護予防支援」（同率 1.6%）が最も多く、次いで「訪問介護」・「（介護予防）訪問入浴介護」・「（介護予防）小規模多機能型居宅介護」（同率 0.8%）となっている。

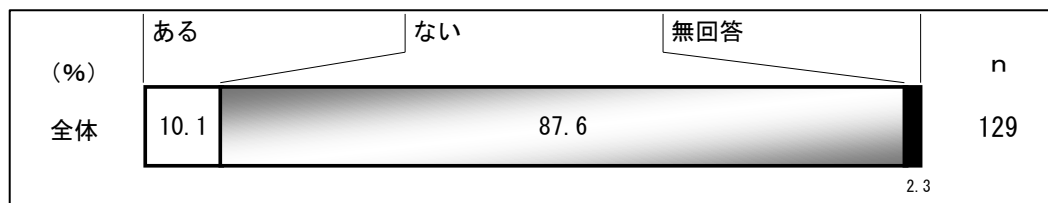
■事業所



(4) 家族からの虐待の事例を経験したこと

家族からの虐待の事例を経験したことについては、「ない」が87.6%、「ある」が10.1%となっている。

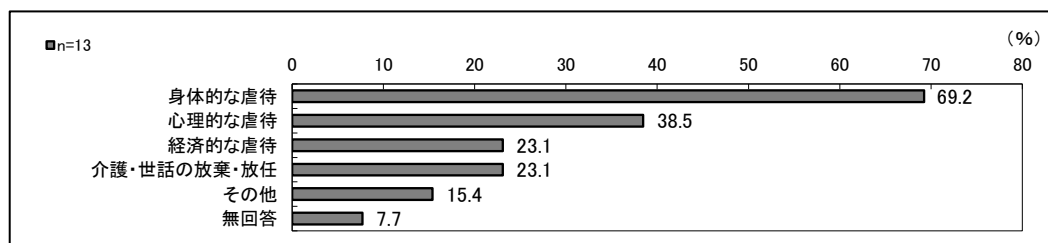
■事業所



(5) 虐待の事例

虐待の事例については、「身体的な虐待」(69.2%)が最も多く、次いで「心理的な虐待」(38.5%)、「経済的な虐待」(23.1%)、「介護・世話の放棄・放任」(23.1%)などとなっている。

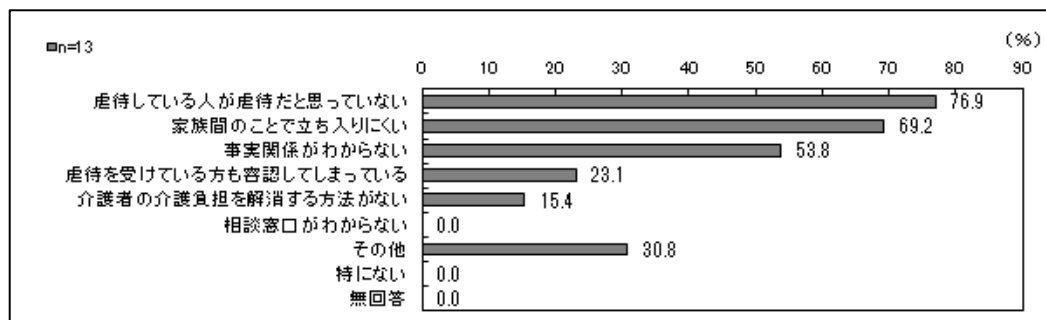
■事業所



(6) 虐待の対応にあたっての問題

虐待の対応にあたっての問題については、「虐待している人が虐待だと思っていない」(76.9%)が最も多く、次いで「家族間のことで立ち入りにくい」(69.2%)、「事実関係がわからない」(53.8%)、「虐待を受けている方も容認してしまっている」(23.1%)、「介護者の介護負担を解消する方法がない」(15.4%)などとなっている。なお、「特にない」は回答なしとなっている。

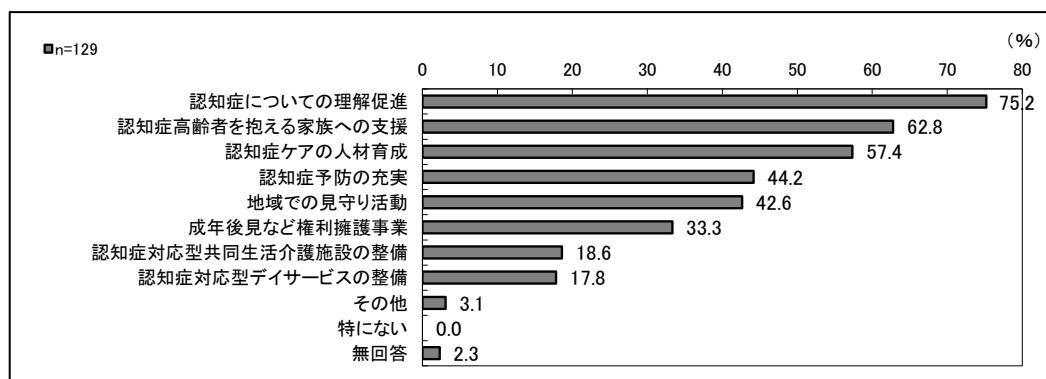
■事業所



(7) 認知症高齢者介護に関して進める必要があること

認知症高齢者介護に関して進める必要があることについては、「認知症についての理解促進」(75.2%)が最も多く、次いで「認知症高齢者を抱える家族への支援」(62.8%)、「認知症ケアの人材育成」(57.4%)、「認知症予防の充実」(44.2%)、「地域での見守り活動」(42.6%)、「成年後見など権利擁護事業」(33.3%)、「認知症対応型共同生活介護施設の整備」(18.6%)、「認知症対応型デイサービスの整備」(17.8%)などとなっている。なお、「特にない」は回答なしとなっている。

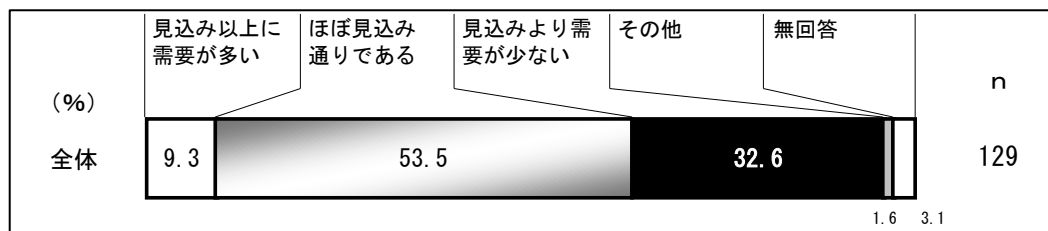
■事業所



(8) サービス開始当初と比較した現在の需要

サービス開始当初と比較した現在の需要については、「ほぼ見込み通りである」が 53.5%、「見込みより需要が少ない」が 32.6%、「見込み以上に需要が多い」が 9.3%となっている。

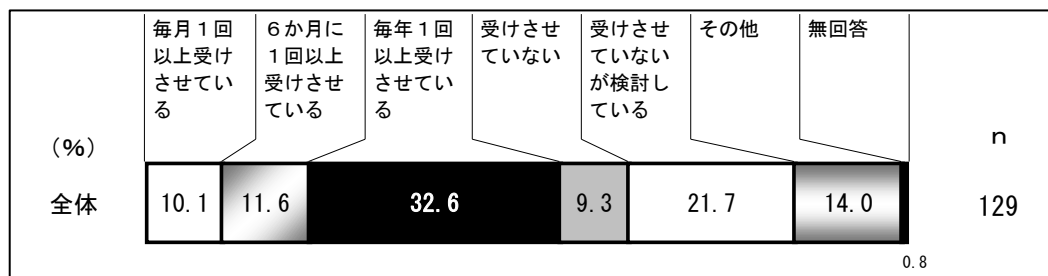
■事業所



(9) 職員の技術・知識向上のための外部研修受講状況

職員の技術・知識向上のための外部研修受講状況については、「毎年1回以上受けさせている」が 32.6%、「受けさせていないが検討している」が 21.7%、「6か月に1回以上受けさせている」が 11.6%、「毎月1回以上受けさせている」が 10.1%、「受けさせていない」が 9.3%となっている。

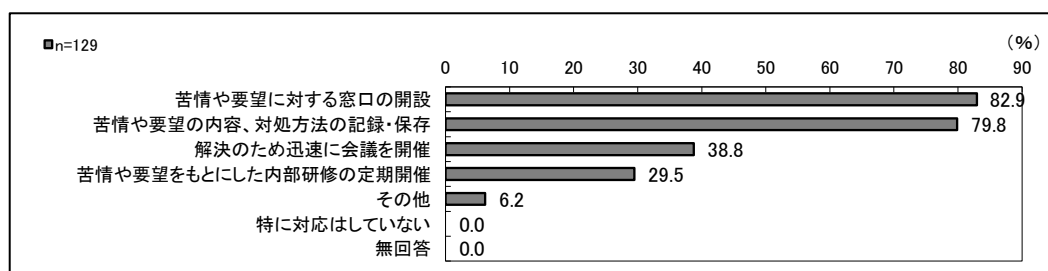
■事業所



(10) 苦情や要望があった際の対応

苦情や要望があった際の対応については、「苦情や要望に対する窓口の開設」(82.9%)が最も多く、次いで「苦情や要望の内容、対処方法の記録・保存」(79.8%)、「解決のため迅速に会議を開催」(38.8%)、「苦情や要望をもとにした内部研修の定期開催」(29.5%)などとなっている。なお、「特に対応はしていない」は回答なしとなっている。

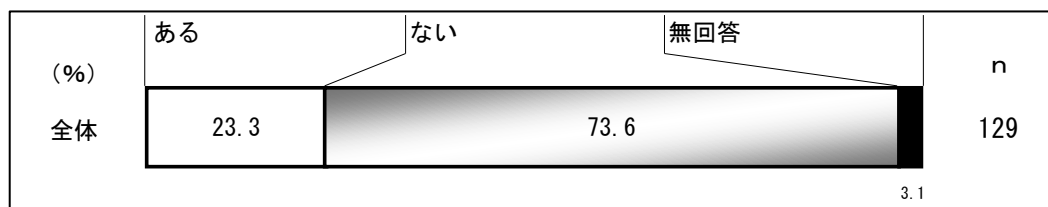
■事業所



(11) 利用者から不当な要求を受けたこと

利用者から不当な要求を受けたことについては、「ない」が73.6%、「ある」が23.3%となっている。

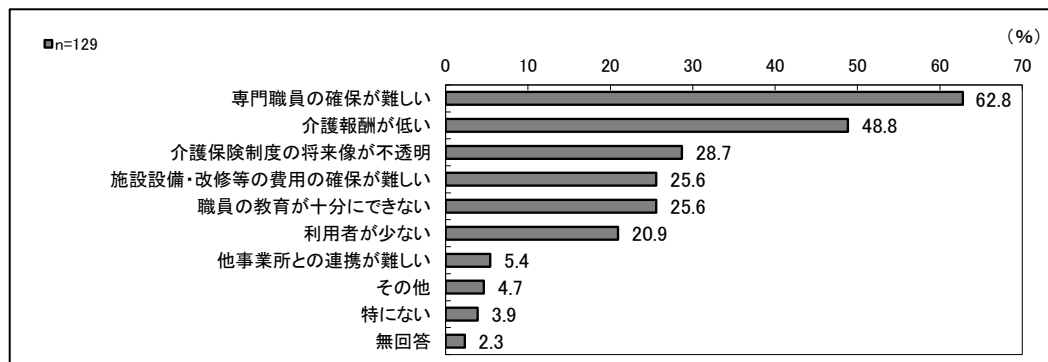
■事業所



(12) 事業所の事業展開上の課題

事業所の事業展開上の課題については、「専門職員の確保が難しい」(62.8%)が最も多く、次いで「介護報酬が低い」(48.8%)、「介護保険制度の将来像が不透明」(28.7%)、「施設設備・改修等の費用の確保が難しい」・「職員の教育が十分にできない」(同率25.6%)、「利用者が少ない」(20.9%)、「他事業所との連携が難しい」(5.4%)などとなっている。なお、「特にない」は3.9%となっている。

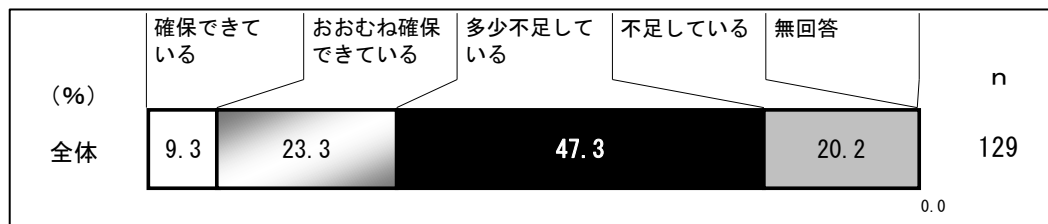
■事業所



(13) この1年間の人材確保状況

この1年間の人材確保状況については、「多少不足している」(47.3%)と「不足している」(20.2%)を合わせた“不足している”が67.5%、「確保できている」(9.3%)と「おおむね確保できている」(23.3%)を合わせた“確保できている”が32.6%となっている。

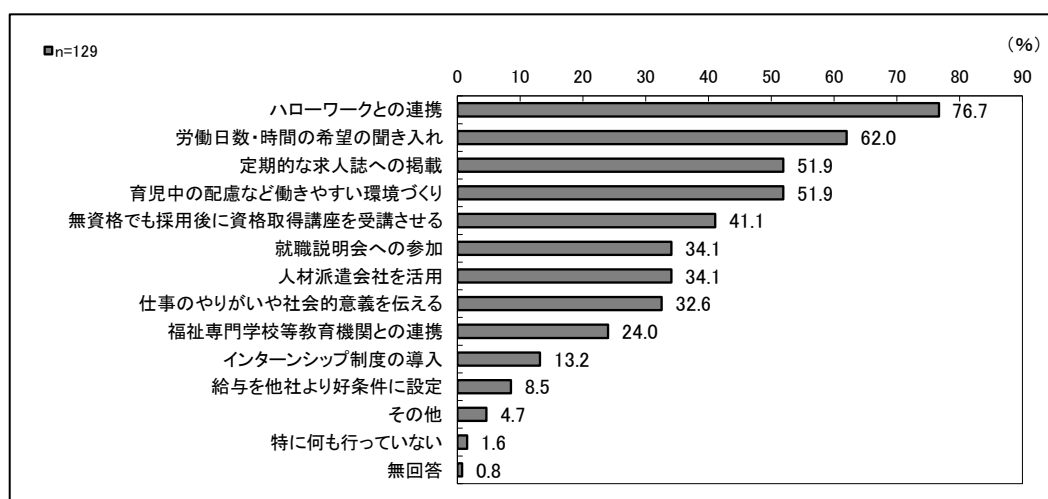
■事業所



(14) 人材の確保のための取り組み

人材の確保のための取り組みについては、「ハローワークとの連携」(76.7%)が最も多く、次いで「労働日数・時間の希望の聞き入れ」(62.0%)、「定期的な求人誌への掲載」・「育児中の配慮など働きやすい環境づくり」(同率 51.9%)、「無資格でも採用後に資格取得講座を受講させる」(41.1%)、「就職説明会への参加」・「人材派遣会社を活用」(同率 34.1%)、「仕事のやりがいや社会的意義を伝える」(32.6%)、「福祉専門学校等教育機関との連携」(24.0%)、「インターンシップ制度の導入」(13.2%)、「給与を他社より好条件に設定」(8.5%) などとなっている。なお、「特に何も行ってない」は1.6%となっている。

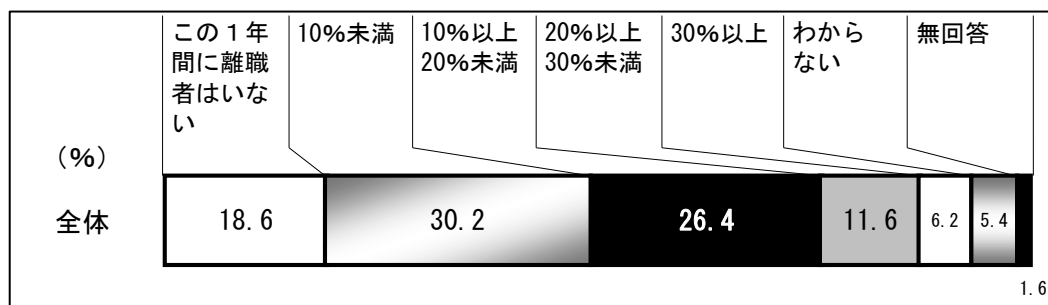
■事業所



(15) この1年間の離職率

この1年間の離職率については、「10%未満」が30.2%、「10%以上 20%未満」が26.4%、「この1年間に離職者はいない」が18.6%、「20%以上 30%未満」が11.6%、「30%以上」が6.2%、「わからない」が5.4%となっている。

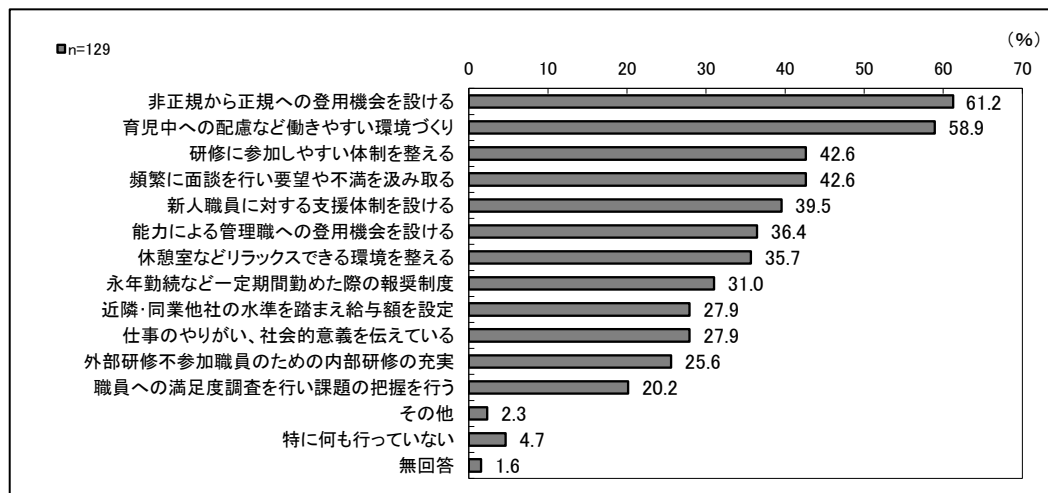
■事業所



(16) 人材の定着・育成のための取り組み

人材の定着・育成のための取り組みについては、「非正規から正規への登用機会を設ける」(61.2%)が最も多く、次いで「育児中への配慮など働きやすい環境づくり」(58.9%)、「研修に参加しやすい体制を整える」・「頻繁に面談を行い要望や不満を汲み取る」(同率42.6%)、「新人職員に対する支援体制を設ける」(39.5%)、「能力による管理職への登用機会を設ける」(36.4%)、「休憩室などリラックスできる環境を整える」(35.7%)、「永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度」(31.0%)、「近隣・同業他社の水準を踏まえ給与額を設定」・「仕事のやりがい、社会的意義を伝えている」(同率27.9%)、「外部研修不参加職員のための内部研修の充実」(25.6%)、「職員への満足度調査を行い課題の把握を行う」(20.2%)などとなっている。なお、「特に何も行ってない」は4.7%となっている。

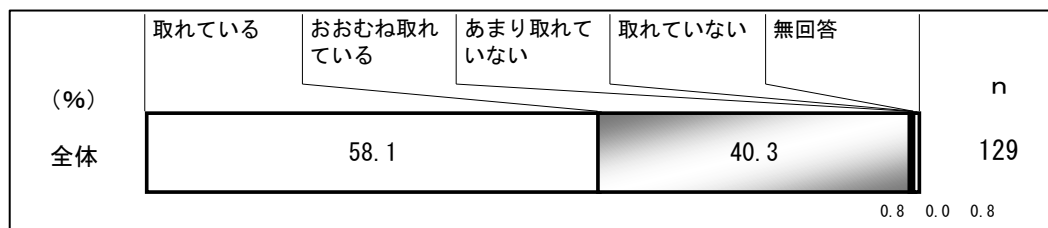
■事業所



(17) ケアマネジャーとの連携は取れているか

ケアマネジャーとの連携は取れているかについては、「取れている」(58.1%)、「おおむね取れている」(40.3%)を合わせた“取れている”が98.4%、「あまり取れていない」(0.8%)と「取れていない」(0.0%)を合わせた“取れていない”が0.8%となっている。

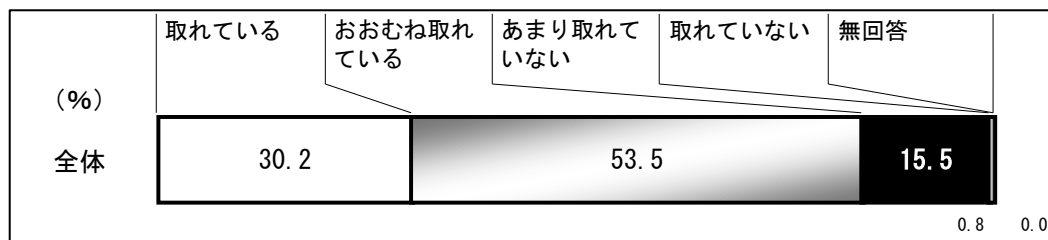
■事業所



(18) 他の事業所との連携は取れているか

他の事業所との連携は取れているかについては、「取れている」(30.2%)と「おおむね取れている」(53.5%)を合わせた“取れている”が83.7%、「あまり取れていない」(15.5%)と「取れていない」(0.8%)を合わせた“取れていない”が16.3%となっている。

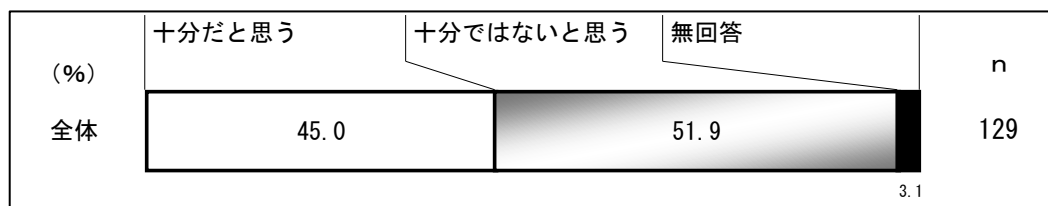
■事業所



(19) 在宅における医療と介護の連携は十分か

在宅における医療と介護の連携は十分かについては、「十分ではないと思う」が51.9%、「十分だと思う」が45.0%となっている。

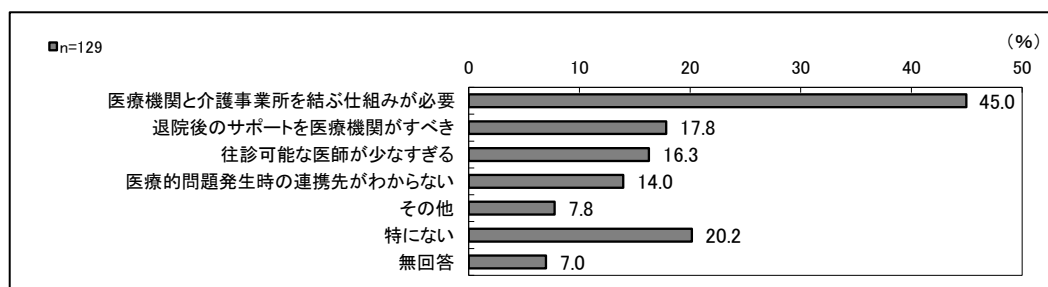
■事業所



(20) 在宅における医療と介護の連携についての課題

在宅における医療と介護の連携についての課題については、「医療機関と介護事業所を結ぶ仕組みが必要」(45.0%)が最も多く、次いで「退院後のサポートを医療機関がすべき」(17.8%)、「往診可能な医師が少なすぎる」(16.3%)、「医療的問題発生時の連携先がわからない」(14.0%)などとなっている。なお、「特にない」は20.2%となっている。

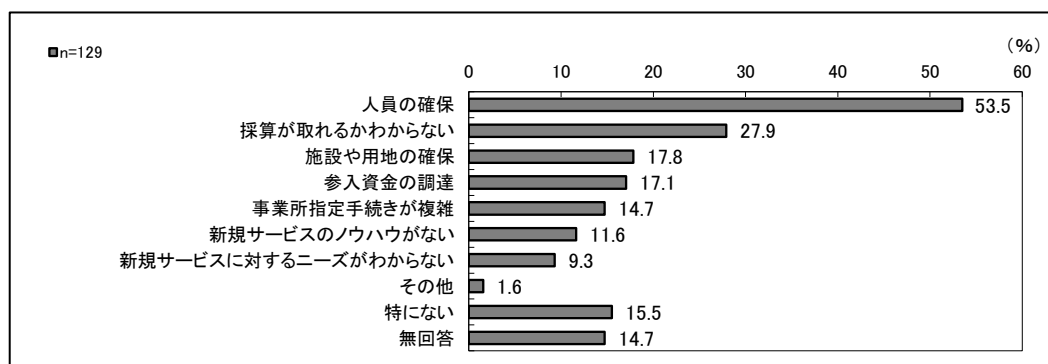
■事業所



(21) 新規事業に参入する際に課題となること

新規事業に参入する際に課題となることについては、「人員の確保」(53.5%)が最も多く、次いで「採算が取れるかわからない」(27.9%)、「施設や用地の確保」(17.8%)、「参入資金の調達」(17.1%)、「事業所指定手続きが複雑」(14.7%)、「新規サービスのノウハウがない」(11.6%)、「新規サービスに対するニーズがわからない」(9.3%)などとなっている。なお、「特にない」は15.5%となっている。

■事業所



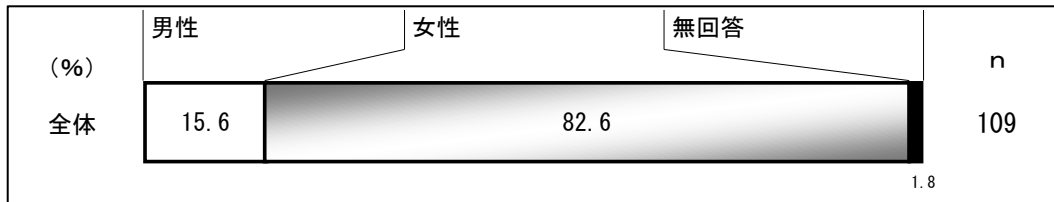
V 調査結果（居宅介護支援専門員（ケアマネジャー））

1 回答者について

（1）性別

性別は、「女性」が82.6%、「男性」が15.6%となっている。

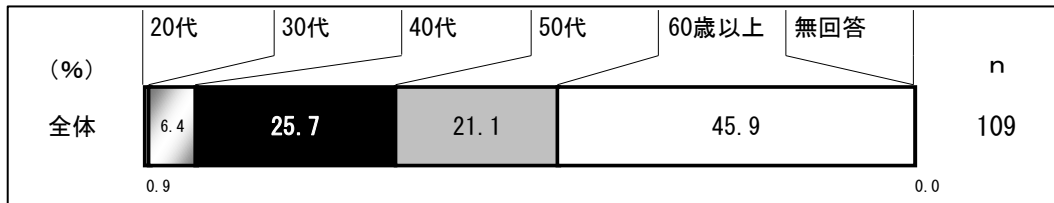
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



（2）年齢

年齢については、「60歳以上」が45.9%、「40代」が25.7%、「50代」が21.1%、「30代」が6.4%、「20代」が0.9%となっている。

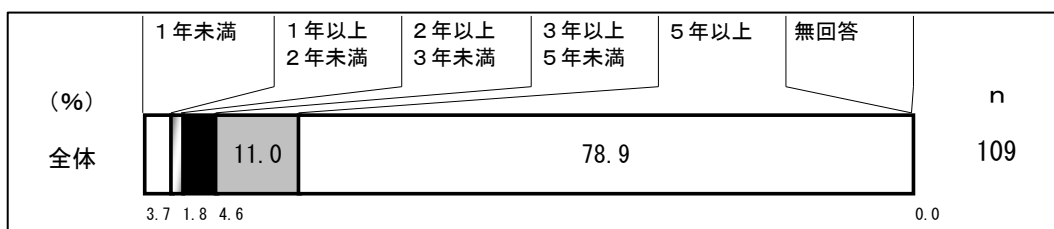
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



（3）ケアマネジャー業務の経験年数

ケアマネジャー業務の経験年数については、「5年以上」が78.9%、「3年以上5年未満」が11.0%、「2年以上3年未満」が4.6%、「1年未満」が3.7%、「1年以上2年未満」が1.8%となっている。

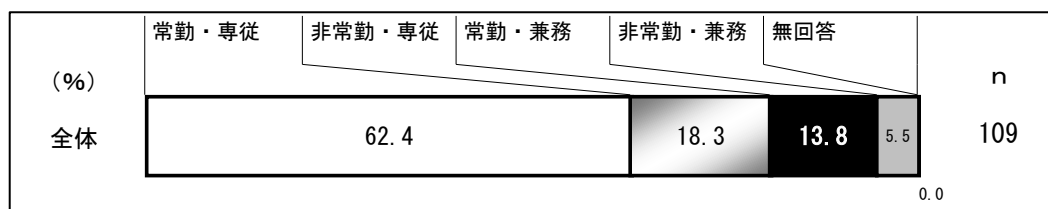
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(4) 勤務形態

勤務形態については、「常勤・専従」が62.4%、「非常勤・専従」が18.3%、「常勤・兼務」が13.8%、「非常勤・兼務」が5.5%となっている。

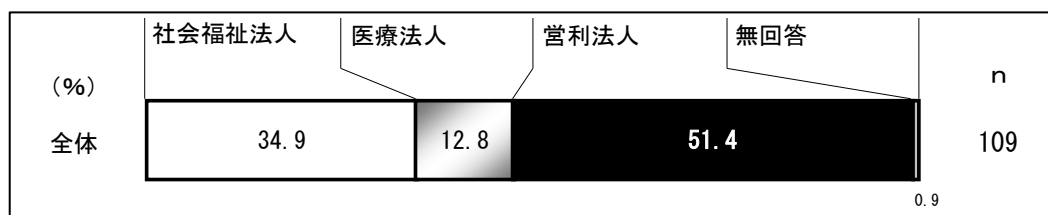
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(5) 母体組織

母体組織については、「営利法人」が51.4%、「社会福祉法人」が34.9%、「医療法人」が12.8%となっている。

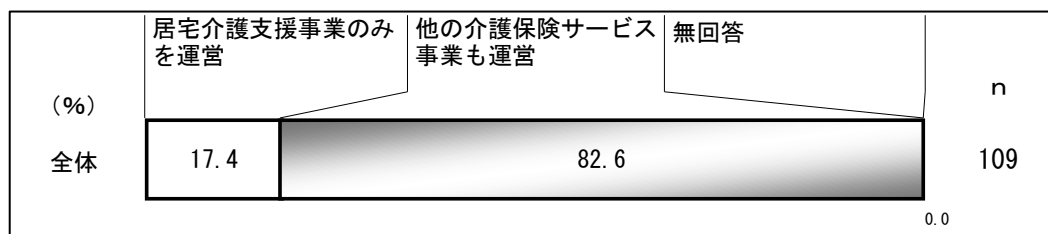
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(6) 組織形態

組織形態については、「他の介護保険サービス事業も運営」が82.6%、「居宅介護支援事業のみを運営」が17.4%となっている。

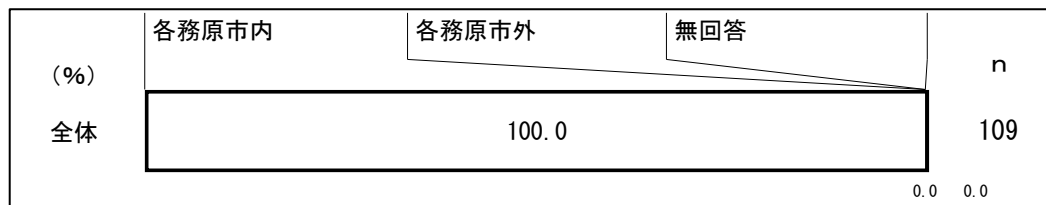
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(7) 所属事業所の所在地

所在地については、「各務原市内」が100.0%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



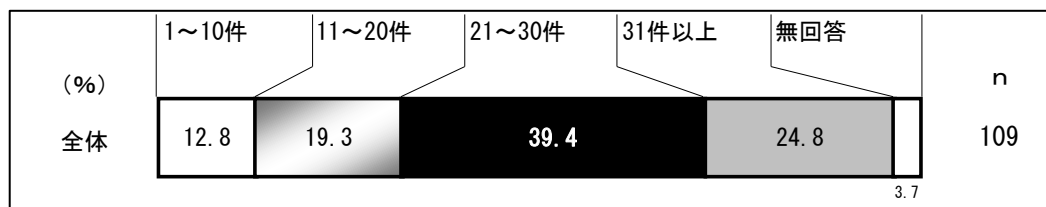
2 ケアプランの作成について

(1) ケアプラン作成件数

①ケアプラン作成件数（介護）

ケアプラン作成件数（介護）については、「31件以上」が24.8%、「11～20件」が19.3%、「1～10件」が12.8%となっている。

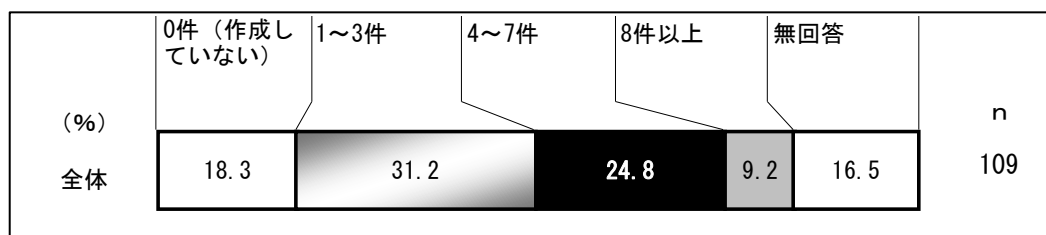
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



②ケアプラン作成件数（介護予防）

ケアプラン作成件数（介護予防）については、「1～3件」が31.2%、「4～7件」が24.8%、「0件（作成していない）」が18.3%、「8件以上」が9.2%となっている。

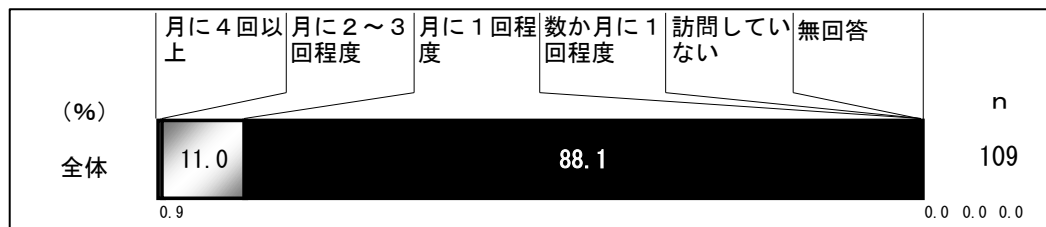
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) 利用者への訪問頻度

利用者への訪問頻度については、「月に1回程度」が 88.1%、「月に2～3回程度」が 11.0%、「月に4回以上」が 0.9%となっている。

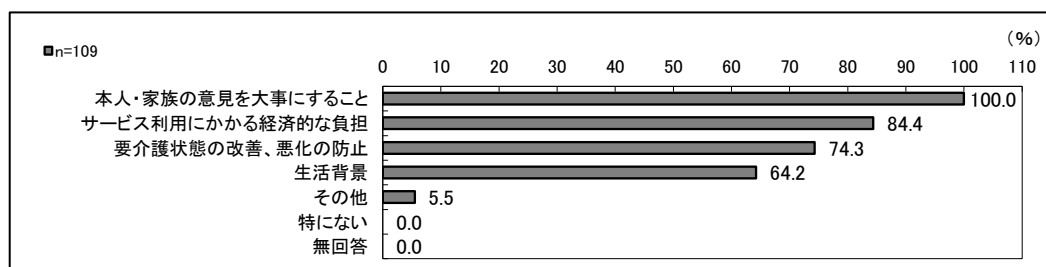
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(3) ケアプラン作成の際に気をつけていること

ケアプラン作成の際に気をつけていることについては、「本人・家族の意見を大事にすること」(100.0%)が最も多く、次いで「サービス利用にかかる経済的な負担」(84.4%)、「要介護状態の改善、悪化の防止」(74.3%)、「生活背景」(64.2%)などとなっている。なお、「特にない」は回答なしとなっている。

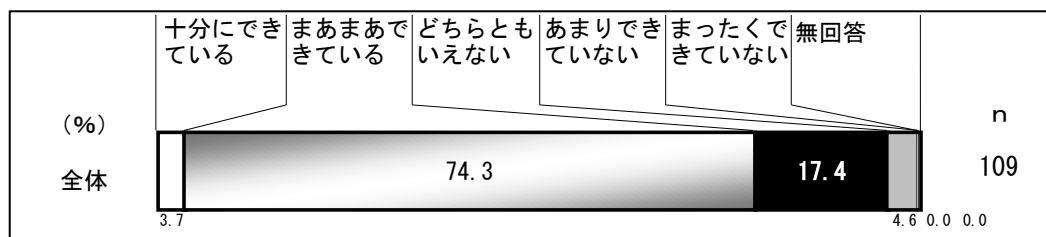
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(4) ケアプラン作成の際のアセスメント

ケアプラン作成の際のアセスメントについては、「十分にできている」(3.7%)と「まあまあできている」(74.3%)を合わせた“できている”が78.0%、「どちらともいえない」が17.4%、「あまりできていない」(4.6%)と「できていない」(0.0%)を合わせた“できていない”が4.6%となっている。

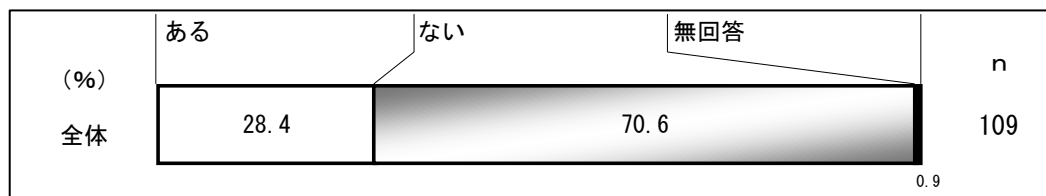
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(5) ケアプランの作成を断ったこと

ケアプラン作成を断ったことについては、「ない」が70.6%、「ある」が28.4%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



なお、ケアプラン作成を断った理由としては次の回答があった。

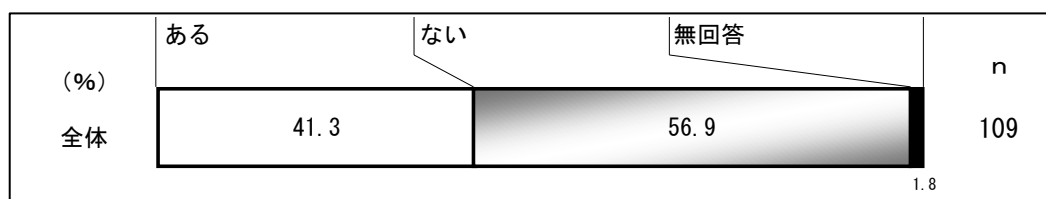
- ・ 困難事例過ぎて自信がなかった。
- ・ 件数がいっぱいのため。
- ・ サービス利用につながらない相談ばかりの場合。
- ・ 申し込みが重なった時。
- ・ 担当が40件以上になる場合のみ。
- ・ 業務が多忙なため。
- ・ プラン数がいっぱいの時。
- ・ 担当件数がいっぱいだったり、急ぎの動きを要求されたりして対応できない。
- ・ 事業所で受けられる件数の上限に達していたため。
- ・ 家族がモンスターチャイルドで家族の要望に応えきれなかった（夜間、土日の頻回なTEL対応や感情の高ぶり、CM非難など）。

- ・他にケアマネもいるので。
- ・非常勤のため、担当できる件数に上限がある。
- ・ご相談内容から、他居宅支援事業所の方が適当と考えたため。
- ・定員がいっぱいだったから。
- ・その時点でのケアマネのキャパ状況を見て判断。
- ・遠方だったため。
- ・他の業務との兼ね合いや新規が同時期になったため。
- ・1月に新規で受け付け可能な許容を超えたため。
- ・本人、家族との信頼関係が構築できなかった。介護保険でできないサービスを嘘を付いてでもしてほしいと言われた。

(6) 事業者からサービス提供を拒否されたこと

事業者からサービス提供を拒否されたことについては、「ない」が 56.9%、「ある」が 41.3%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



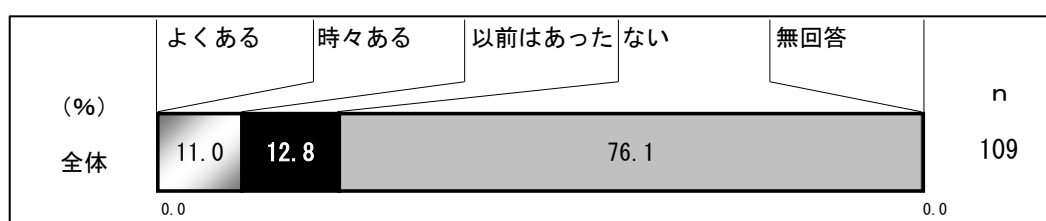
- ・なお、事業者からサービス提供を拒否された理由としては次の回答があった。
- ・介護度が重くなってきた時。
- ・訪問介護でヘルパーが少なくサービスに入れられない。
- ・定員、地域。
- ・利用したい時間、曜日に空きがなかった。
- ・利用者のニーズが細かすぎるため。利用者がヘルパーさんの人柄を否定したため。
- ・空きがない、送迎対応できない。
- ・DS 空床、ヘルパー空き時間がない。
- ・空きがない。本人の状態が事業所に合わない。
- ・入所施設に徘徊があると受け入れできないと断られた。デイでも認知症の BPSD 症状のある人の受け入れを苦渋されることがある。
- ・スタッフの都合がつかない。
- ・事業所の許容量がオーバーするため。
- ・本人の ADL に対応できない。環境や人員の問題。

- ・ 認知症の進行により、他の利用者に迷惑となる言動が増えたため。
- ・ 曜日指定の希望があったが職員不足でとのこと。

(7) サービス事業者から利用者が希望しないサービスを組み入れるよう求められたこと

サービス事業者から利用者が希望しないサービスを組み入れるよう求められたことについては、「ない」が76.1%、「以前はあった」が12.8%、「時々ある」が11.0%、「よくある」が回答なしとなっている。

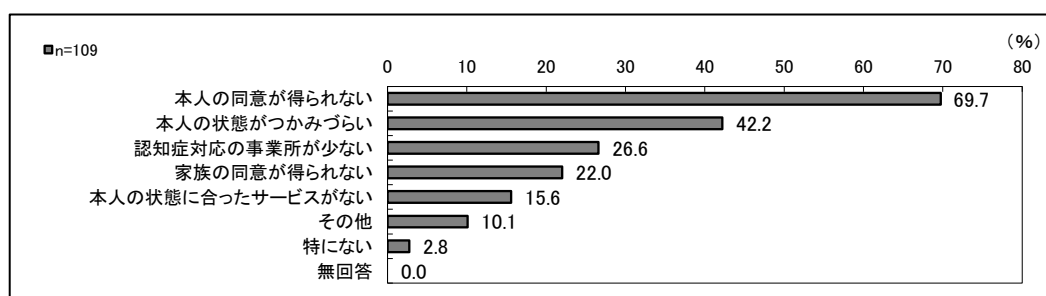
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(8) 認知症利用者のケアプラン作成時に困難だと思うこと

認知症利用者のケアプラン作成時に困難だと思うことについては、「本人の同意が得られない」(69.7%) が最も多く、次いで「本人の状態がつかみづらい」(42.2%)、「認知症対応の事業所が少ない」(26.6%)、「家族の同意が得られない」(22.0%)、「本人の状態に合ったサービスがない」(15.6%) などとなっている。なお、「特になし」は2.8%となっている。

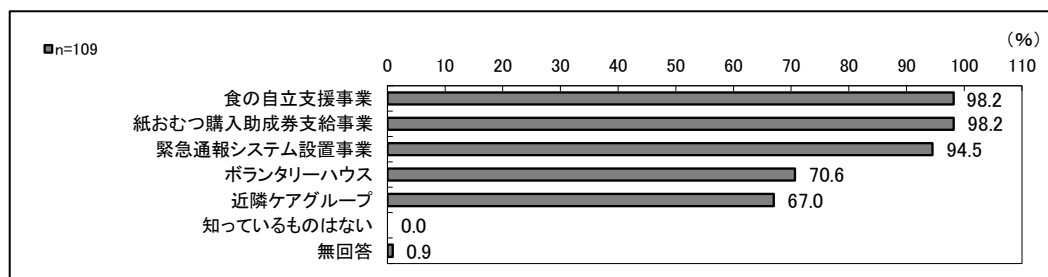
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(9) 高齢者自立支援事業等で知っているもの

市や地域が行っている高齢者自立支援事業等で知っているものについては、「食の自立支援事業」(98.2%)、「紙おむつ購入助成券支給事業」(98.2%)、「緊急通報システム設置事業」(94.5%)、「ボランティアハウス」(70.6%)、「近隣ケアグループ」(67.0%)となっている。なお、「知っているものはない」は回答なしとなっている。

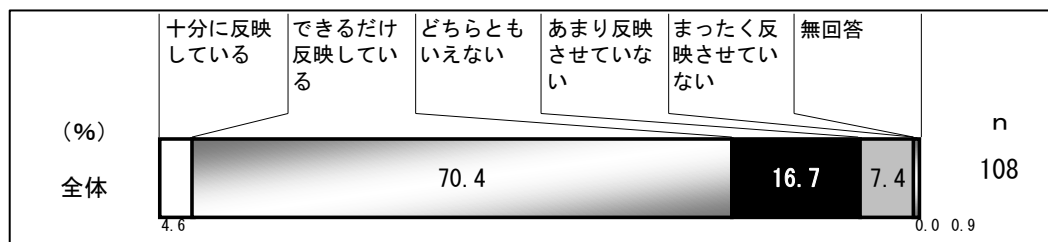
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(10) 高齢者自立支援事業等をケアプランに反映させているか

市の高齢者自立支援事業等をプランに反映しているかについては、「十分に反映している」(4.6%)と「できるだけ反映している」(70.4%)を合わせた“反映させている”が75.0%、「どちらともいえない」が16.7%、「あまり反映させていない」(7.4%)と「まったく反映させていない」(0.0%)を合わせた“反映させていない”が7.4%となっている。

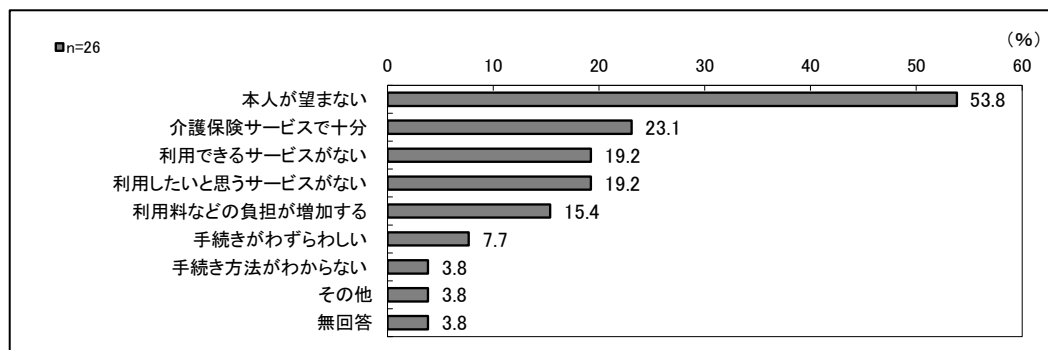
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(11) 反映させていない理由

反映させていない理由については、「本人が望まない」(53.8%)が最も多く、次いで「介護保険サービスで十分」(23.1%)、「利用できるサービスがない」・「利用したいと思うサービスがない」(同率19.2%)、「利用料などの負担が増加する」(15.4%)、「手続きがわずらわしい」(7.7%)、「手続き方法がわからない」(3.8%)などとなっている。

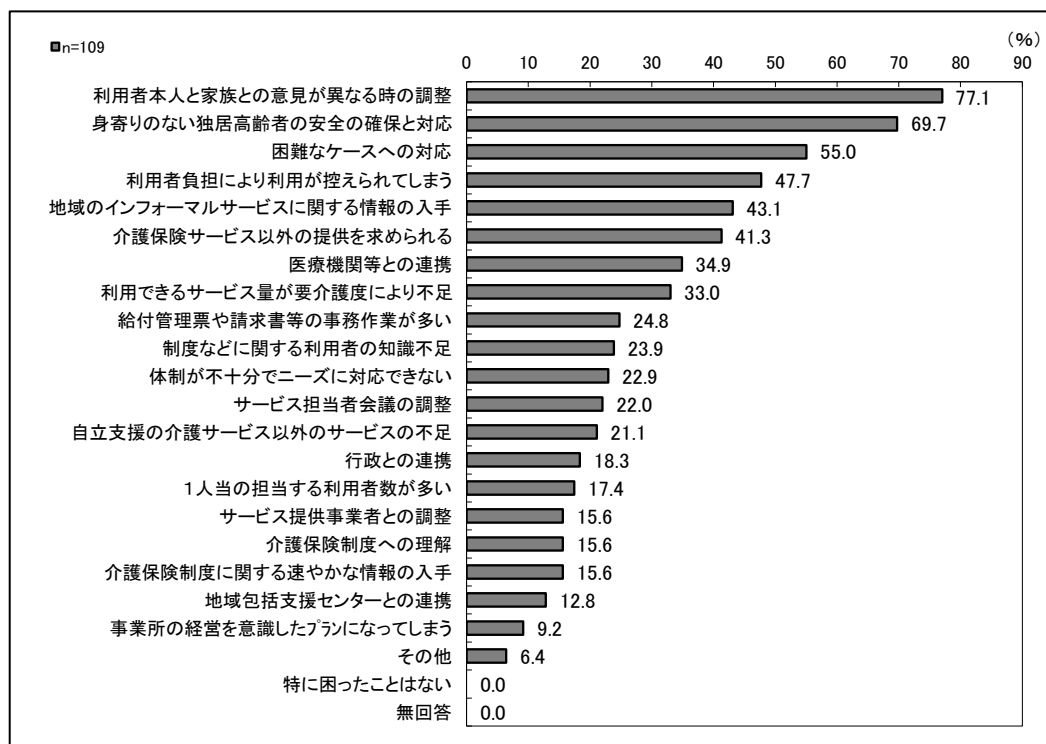
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(12) ケアマネジャーの業務として難しいこと

ケアマネジャーの業務として難しいことについては、「利用者本人と家族との意見が異なる時の調整」(77.1%)が最も多く、次いで「身寄りのない独居高齢者の安全の確保と対応」(69.7%)、「困難なケースへの対応」(55.0%)、「利用者負担により利用が控えられてしまう」(47.7%)、「地域のインフォーマルサービスに関する情報の入手」(43.1%)、「介護保険サービス以外の提供を求められる」(41.3%)、「医療機関等との連携」(34.9%)、「利用できるサービス量が要介護度により不足」(33.0%)、「給付管理票や請求書等の事務作業が多い」(24.8%)、「制度などに関する利用者の知識不足」(23.9%)、「体制が不十分でニーズに対応できない」(22.9%)、「サービス担当者会議の調整」(22.0%)、「自立支援の介護サービス以外のサービスの不足」(21.1%)、「行政との連携」(18.3%)、「1人当りの担当する利用者数が多い」(17.4%)、「サービス提供事業者との調整」・「介護保険制度への理解」・「介護保険制度に関する速やかな情報の入手」(同率 15.6%)、「地域包括支援センターとの連携」(12.8%)、「事業所の経営を意識したプランになってしまう」(9.2%)などとなっている。なお、「特に困ったことはない」は回答なしとなっている。

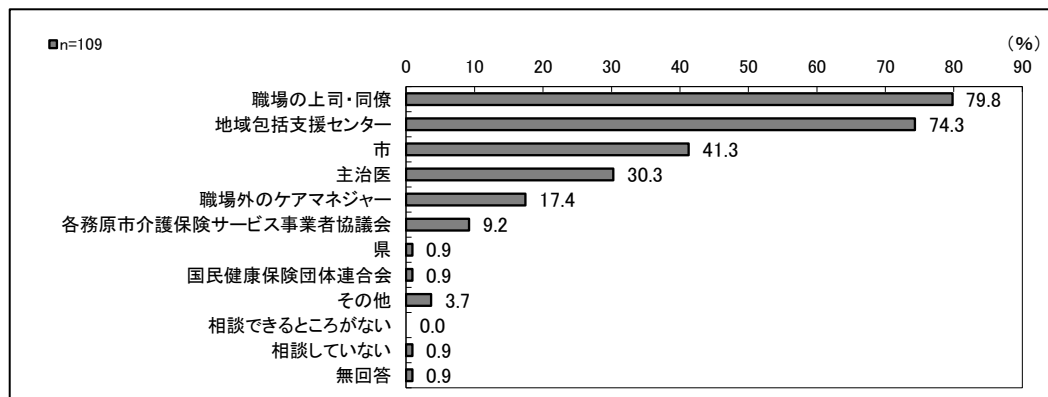
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(13) 困った時の相談先

困った時の相談先については、「職場の上司・同僚」(79.8%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター」(74.3%)、「市」(41.3%)、「主治医」(30.3%)、「職場外のケアマネジャー」(17.4%)、「各務原市介護保険サービス事業者協議会」(9.2%)、「県」・「国民健康保険団体連合会」(同率0.9%)などとなっている。なお「相談していない」は0.9%、「相談できるところがない」は回答なしとなっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）

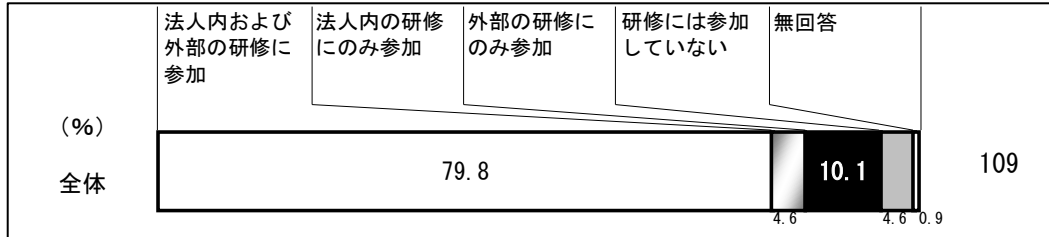


3 ケアマネジメントの質の向上について

(1) サービスの質の向上に向けた研修への参加状況

サービスの質の向上に向けた研修への参加状況については、「法人内及び外部の研修に参加」が79.8%、「外部の研修にのみ参加」が10.1%、「法人内の研修にのみ参加」・「研修には参加していない」が同率で4.6%となっている。

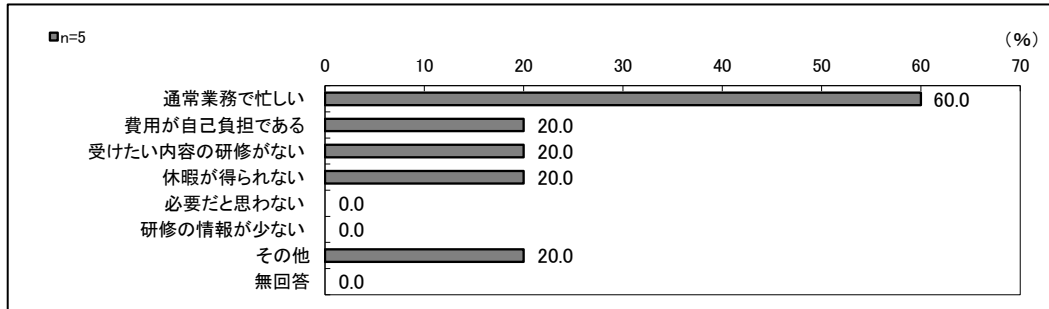
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) 研修に参加していない理由

研修に参加していない理由については、「通常業務で忙しい」(60.0%)が最も多く、次いで「費用が自己負担である」・「受けたい内容の研修がない」・「休暇が得られない」(同率20.0%)などとなっている。

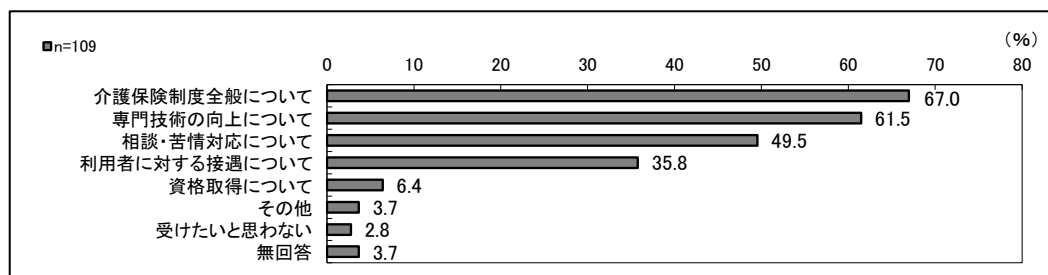
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(3) 研修で受けてほしい内容

研修で受けてほしい内容については、「介護保険制度全般について」(67.0%)が最も多く、次いで「専門技術の向上について」(61.5%)、「相談・苦情対応について」(49.5%)、「利用者に対する接遇について」(35.8%)、「資格取得について」(6.4%)などとなっている。なお、「受けてほしいと思わない」は2.8%となっている。

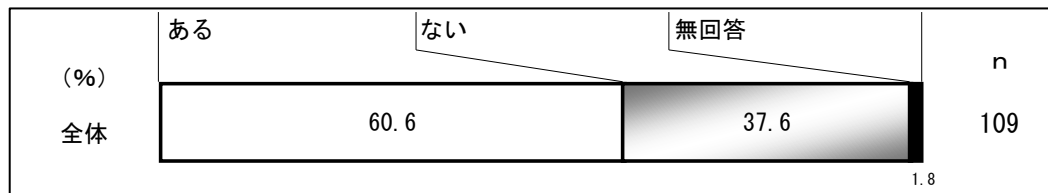
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(4) 利用者やその家族からの苦情を受けたこと

利用者やその家族からの苦情を受けたことについては、「ある」が60.6%、「ない」が37.6%となっている。

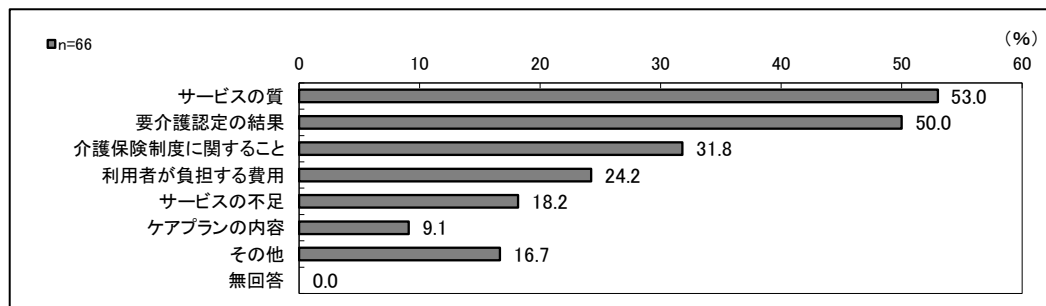
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(5) 苦情の内容

苦情の内容については、「サービスの質」(53.0%)が最も多く、次いで「要介護認定の結果」(50.0%)、「介護保険制度に関すること」(31.8%)、「利用者が負担する費用」(24.2%)、「サービスの不足」(18.2%)、「ケアプランの内容」(9.1%)などとなっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(6) 資質向上のための研修について行政に期待すること

資質向上のための研修について行政に期待することについては、次の回答が寄せられている。

- ・ 研修費の負担軽減。ICT 導入にあたっての行政とりまとめが必要。サービス事業所の導入を任意でなく必須とすべき指導をお願いしたい。
- ・ 新しい制度に関する説明などをいただくと助かります。
- ・ 貧困者のためにボランティアや低価の移動支援となる助成をしていただきたい。
- ・ ケアマネジャー間と情報共有の機会の確保。他職種連携での研修機会の場。
- ・ 制度を遵守しているか？指摘事項（運営指導）を改善するための研修をつくっていただくと良いです。
- ・ 高齢福祉課の人たちとの顔が見える研修の実施。TEL に出る人が高圧的で怖い人がいる（認定、給付ともに）。まず行政の質を上げて手本となってほしい。怖いので相談しにくい。
- ・ 地域資源の開拓、情報提供、周知等活用のための研修の場があると良い。
- ・ 介護保険制度改正時のレクチャーをしてほしい。
- ・ 障がい福祉法など障がいを持った方に対する法律を踏まえた支援方法。様々な問題をかかえるケースについて。高齢・障がい・こども。
- ・ 今だと ZOOM 研修が気軽に受けられるので、どんどんやっていただきたい。内容は多岐にわたるが、介護職員が受けられるものを ZOOM で短時間やっていただけるとありがたいです。
- ・ 他のケアマネ事務所と繋がりを持てる研修があると、「〇〇で困っている」「うちではこうしているよ」と、話ができて、何かあった時でも気軽に相談できるので、心強

いです。

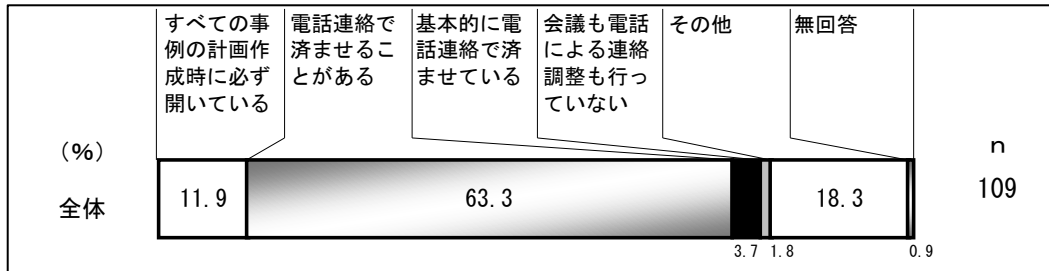
- ・ 事例から学ぶ機会と、相談しやすい窓口であってほしい。現場を共有できると尚ありがたいです。

4 サービス担当者会議の実施状況について

(1) サービス担当者会議の実施状況

サービス担当者会議の実施状況については、「電話連絡で済ませることがある」が63.3%、「すべての事例の計画作成時に必ず開いている」が11.9%、「基本的に電話連絡で済ませている」が3.7%、「会議も電話による連絡調整も行っていない」が1.8%となっている。

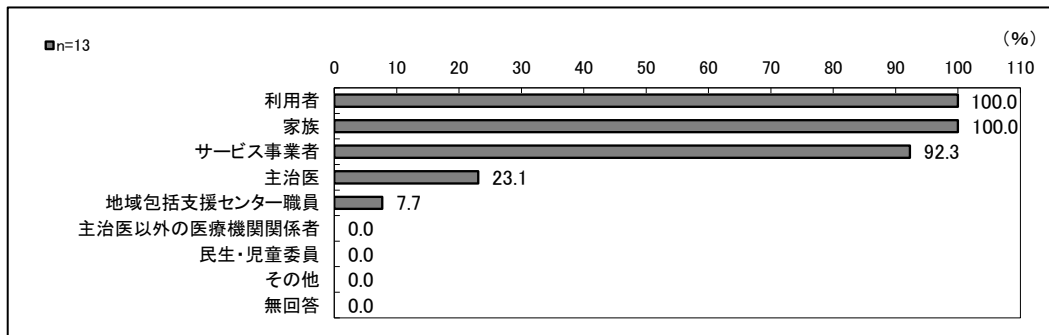
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) サービス担当者会議の出席者

サービス担当者会議の出席者については、「利用者」・「家族」（同率100.0%）が最も多く、次いで「サービス事業者」（92.3%）、「主治医」（23.1%）、「地域包括支援センター職員」（7.7%）などとなっている。

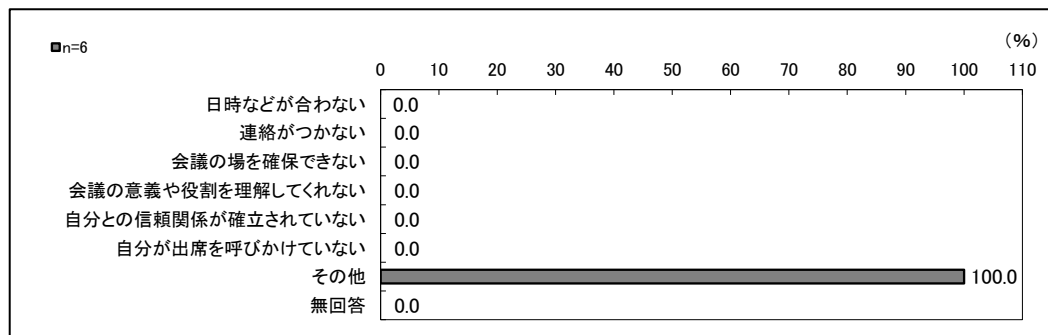
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(3) サービス担当者会議を開催できない理由

サービス担当者会議を開催できない理由については、「その他」が 100.0%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



「その他」に寄せられた回答は次のとおり。

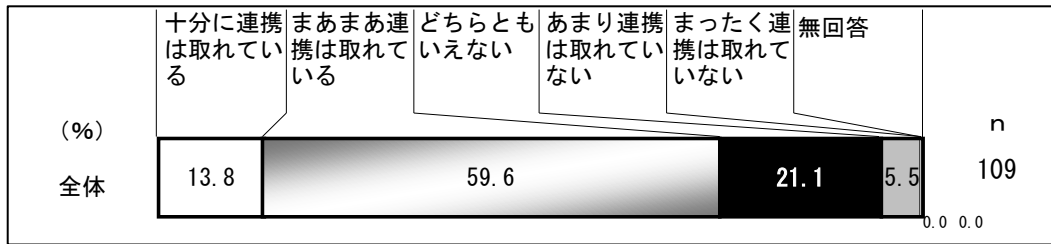
- ・ コロナにより感染拡大を防ぐため。
- ・ コロナ禍で開いていない。
- ・ コロナ対策のため。
- ・ 感染対策。
- ・ コロナ感染拡大予防のため。
- ・ 本人・家族からの要望。コロナ、都合が悪い等。
- ・ コロナ禍につき控えている。
- ・ 見直しが必要な場合以外はコロナ感染拡大により電話にしている。
- ・ コロナウイルス感染拡大防止のため。

5 地域包括支援センターについて

(1) 地域包括支援センターとの連携状況

地域包括支援センターとの連携状況については、「十分に連携は取れている」(13.8%)と「まあまあ連携は取れている」(59.6%)を合わせた“取れている”が73.4%、「どちらともいえない」が21.1%、「あまり連携は取れていない」(5.5%)と「まったく連携は取れていない」(0.0%)を合わせた“取れていない”が5.5%となっている。

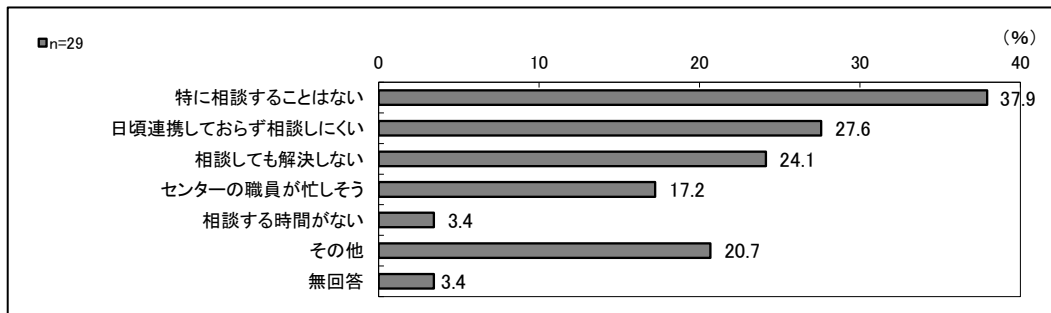
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) 連携が取れていない理由

連携が取れていない理由については、「特に相談することはない」(37.9%)が最も多く、「日頃連携しておらず相談しにくい」(27.6%)、「相談しても解決しない」(24.1%)、「センターの職員が忙しそう」(17.2%)、「相談する時間がない」(3.4%)などとなっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(3) どうしたら連携が取れるようになるか

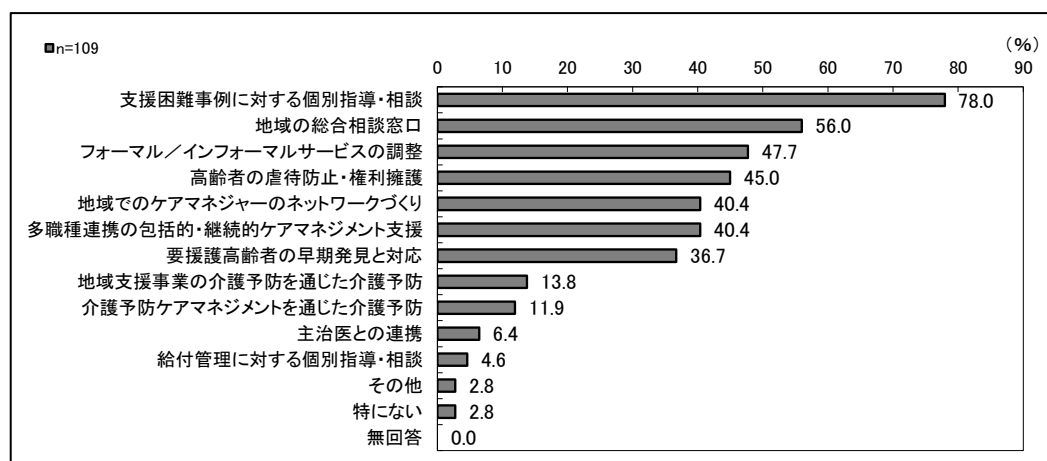
どうしたら連携が取れるようになるかについては、次の回答が寄せられた。

- ・ 地域包括支援センターにより、スピードや関わり方の遅い困難ケースの対応、ケアマネの対応に差がある。
- ・ 必要な時に連携すればいい。相談しにくい訳ではない。
- ・ 現在市内には包括が7か所ありますが、地域によっては高齢化が顕著になっています。包括の設置が実情に合っていない地域もあります。そのため、相談業務がタイムリーに行われず、支援が遅れてしまうケースがあり、困っています。地域によってはブランチ機能を持つ必要があると考えます。一律な設置ではなく、地域の実態を知り、必要な地域に必要な数だけの相談窓口が必要と考えます。
- ・ 包括主催の地域ごとの研修を増やして交流機会を増やしてほしい。

(4) 地域包括支援センターへ期待すること

地域包括支援センターへ期待することについては、「支援困難事例に対する個別指導・相談」(78.0%)が最も多く、次いで「地域の総合相談窓口」(56.0%)、「フォーマル／インフォーマルサービスの調整」(47.7%)、「高齢者の虐待防止・権利擁護」(45.0%)、「地域でのケアマネジャーのネットワークづくり」・「多職種連携の包括的・継続的ケアマネジメント支援」(同率40.4%)、「要援護高齢者の早期発見と対応」(36.7%)、「地域支援事業の介護予防を通じた介護予防」(13.8%)、「介護予防ケアマネジメントを通じた介護予防」(11.9%)、「主治医との連携」(6.4%)、「給付管理に対する個別指導・相談」(4.6%)などとなっている。なお、「特にない」は2.8%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）

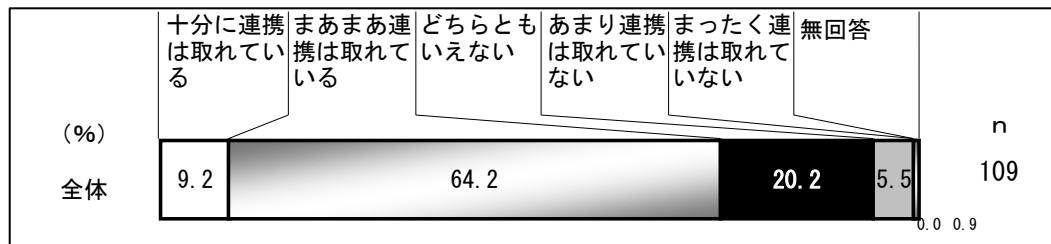


6 医療との連携状況について

(1) 日頃の医療との連携状況

日頃の医療との連携状況については、「十分に連携は取れている」(9.2%)と「まあまあ連携は取れている」(64.2%)を合わせた“取れている”が73.4%、「どちらともいえない」が20.2%、「あまり連携は取れていない」(5.5%)と「まったく連携は取れていない」(0.0%)を合わせた“取れていない”が25.7%となっている。

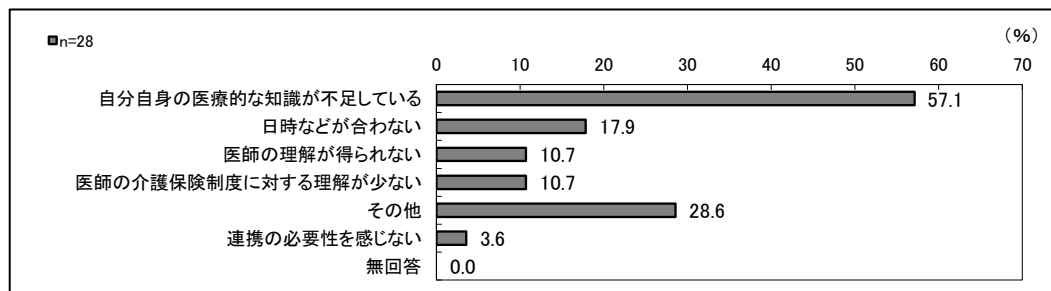
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) 医療との連携が取れていない理由

医療との連携が取れていない理由については、「自分自身の医療的な知識が不足している」(57.1%)、「日時などが合わない」(17.9%)、「医師の理解が得られない」・「医師の介護保険制度に対する理解が少ない」(同率 10.7%) などとなっている。なお、「連携の必要性を感じない」は3.6%となっている。

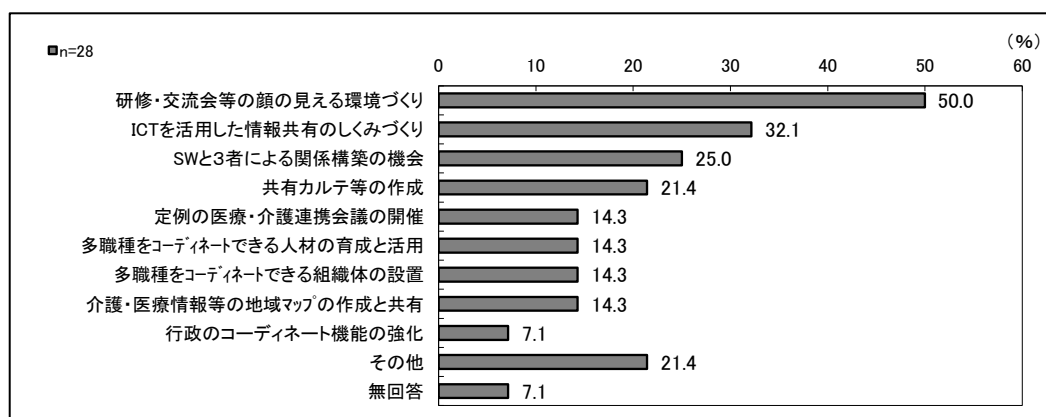
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(3) 医師とのよりよい連携のための方策

医師とのよりよい連携のための方策については、「研修・交流会等の顔の見える環境づくり」(50.0%)、「ICTを活用した情報共有のしくみづくり」(32.1%)、「SWと3者による関係構築の機会」(25.0%)、「共有カルテ等の作成」(21.4%)、「定例の医療・介護連携会議の開催」・「多職種をコーディネートできる人材の育成と活用」・「多職種をコーディネートできる組織体の設置」・「介護・医療情報等の地域マップの作成と共有」(同率 14.3%)、「行政のコーディネート機能の強化」(7.1%) などとなっている。

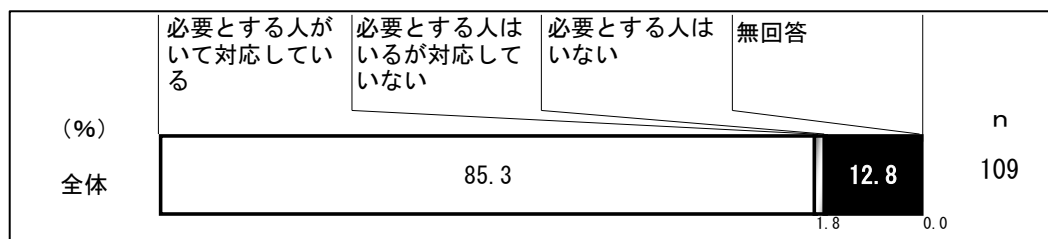
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(4) 医療行為が必要な利用者の有無

医療行為が必要な利用者の有無については、「必要とする人がいて対応している」が85.3%、「必要とする人はいない」が12.8%、「必要とする人はいるが対応していない」が1.8%となっている。

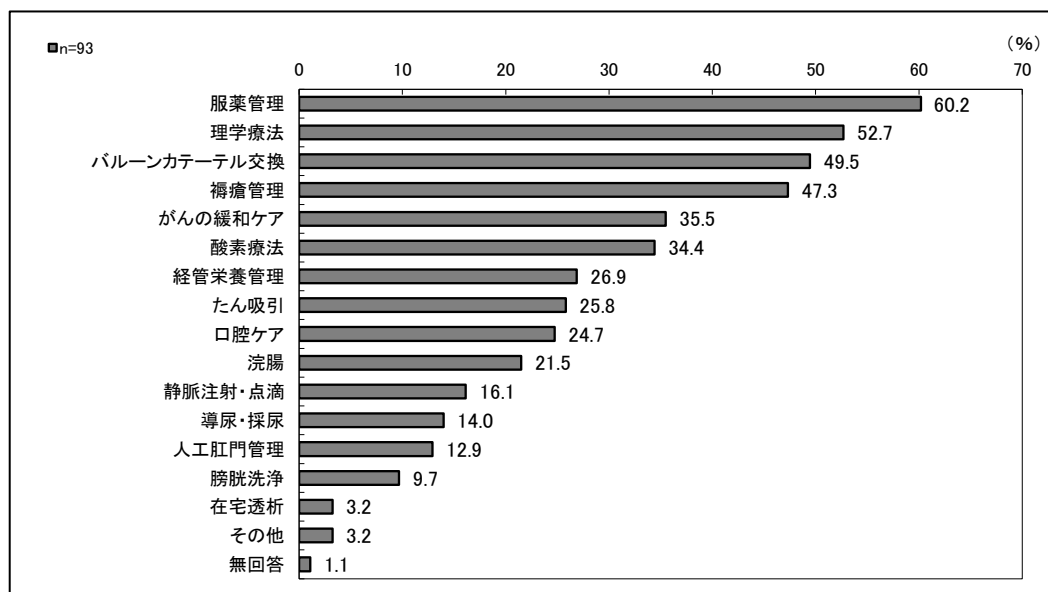
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(5) 医療行為の内容

医療行為の内容については、「服薬管理」(60.2%)が最も多く、次いで「理学療法」(52.7%)、「バルーンカテーテル交換」(49.5%)、「褥瘡管理」(47.3%)、「がんの緩和ケア」(35.5%)、「酸素療法」(34.4%)、「経管栄養管理」(26.9%)、「たん吸引」(25.8%)、「口腔ケア」(24.7%)、「浣腸」(21.5%)、「静脈注射・点滴」(16.1%)、「導尿・採尿」(14.0%)、「人工肛門管理」(12.9%)、「膀胱洗浄」(9.7%)、「在宅透析」(3.2%)などとなっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(6) 医師とどのような連携を取っているか

医師とどのような連携を取っているかについては、次の回答が寄せられている。

- ・ 報告書を読み、疑問や質問があれば看護師や訪問看護事業所に連絡を取っている。
- ・ 訪問後医師の報告書あり。
- ・ 診療レポートを毎回送ってもらい、状態の確認をしている。往診時の訪問で質問などしている。
- ・ 必要時や介護保険更新時など主治医連絡票を通して連携を取っている。
- ・ 必要時に連絡する。
- ・ 主治医連絡票による指示灯の確認。電話で受け付けや看護師を通しての支持の確認。訪問診察時の立会い。
- ・ 電話や FAX でご本人の状態の変化や要望などをお知らせしている。
- ・ 医療系サービスの導入の相談や病状についての相談等を主治医連絡票で行っている。必要な時は受診に同席している。
- ・ 訪問看護を通して連絡をしている。その他必要時は書面にてお願いしている。
- ・ 主治医連絡票での報告や相談をしている。
- ・ 文章でくださる。
- ・ 主治医連絡票、MCS、受診同行。
- ・ 必要時には随時連絡を取り、対応をお願いしている。日中常駐看護師が密に連携を電話で行っている。
- ・ プランの確認、参考意見を聞く。
- ・ TEL、書面（FAX、郵送）、訪問にて相談している。
- ・ 連携票を FAX で送り、居宅療養管理指導を FAX で送ってくださる。
- ・ 口頭、書面
- ・ 双方の状況報告、指示依頼。
- ・ 必要時に TEL 相談、本人の通院時相談、書面による照会や訪問看護を通しての情報共有。
- ・ 体調の変化等について電話や FAX で連携。
- ・ 主治医連絡票、電話。
- ・ ご利用者の受診に同席。診察時間に受付に申し込む。
- ・ 担当者会議や電話、書面の活用。
- ・ 訪問診療時に同席し、サービス利用にあたっての指示を頂いたり、ケアプランを送付し所見票を頂いている。状態変化のある方は電話連絡し、区変やサービスの相談をしている。
- ・ 直接主治医に聞く。
- ・ 連絡票でケアプランの確認をしてもらう。訪問看護を利用する。
- ・ TEL、FAX。
- ・ MCS を使用し主治医と CM、サービス事業所がつながれるようにしている。もっと活

用する先生が増えてほしい。利用者の情報共有として使用。

- ・ 受診時付き添う。リハビリ会議に参加する。
- ・ FAX、訪看 NS を通じて連携。
- ・ 本人の病状理解が難しい際、直接医師に聞く。更新の際、自宅での様子を伝える。
- ・ 主に介護保険更新時、介護度やサービス等について連携をしている。
- ・ MCS。
- ・ 薬の必要性の確認。リハビリの有無。訪問入浴時のバイタルの基準値等。
- ・ 医師とは直接的な連携を取ることが少ない。看護師からの情報が多い。直接取れたらいいと思う。
- ・ 訪問看護を通して連絡を取っている。
- ・ 訪問看護やデイケア等の利用が必要な時。ターミナルケアが必要な時。
- ・ アポイントを取って相談や書面にて相談をかけている。
- ・ 家族が主治医と密に連携が取れる状況、情報共有ができており、現在はサービスも提供できている。様々な SW より直接連絡も取ることができている。
- ・ サービス利用についての注意事項や区分変更について、事業所からの報告により体調不良があった時等。
- ・ 計画書作成時にご意見を聞いている。
- ・ 訪問時同席、福祉用具の件など確認。
- ・ 訪問診療時に立ち会って質問等してプランを確認。状態確認。
- ・ 訪問診療で毎回報告書を頂いて把握している。
- ・ 体調の変化があった時は在宅での過ごし方やデイサービスでの入浴方法について連絡票で問い合わせをしている。
- ・ 障害者家族に代わり利用者様の身体状況報告と対応の指示を受ける。ケアプラン作成時サービス利用に関しての身体的注意の指示を受ける。
- ・ 新規計画書作成時や更新時の計画作成時に、TEL や FAX にてプランに対する意見や同意を求めています。
- ・ 電話、FAX にて利用者の状態とサービス利用についての必要性。
- ・ がん末期の方の支援について医師の判断を仰いでいる。
- ・ 更新時期にて認定結果が出た時に、書面にて現在の利用者さんの状況を伝えている
- ・ 体調に合わせての介護保険サービス提供（デイサービス通所やデイでの介入方法を相談）についての確認を行っている。
- ・ FAX による連携。
- ・ 主治医意見書を願う際以外で、連絡した事は殆どありません。
- ・ 電話、FAX、文章等
- ・ 電話、書面にてケアプランの確認。医療サービス利用時の助言を頂く。利用者についての相談。
- ・ サービスについて確認やアドバイス、また本人や家族の状況や意向を伝える等連携をとっています。MCS や電話、fax、また往診に同席するなどしています。

- ・ 連携シートによる情報交換、相談。
- ・ 主治医連絡票を活用し、報告、相談、指示をもらっている。必要時、訪問診療時の立ち会い。
- ・ 在宅医連携シートや訪問し面談をおこなっている。
- ・ 面談や電話、書面での連絡。

(7) 医師との連携で必要なこと

医師との連携で必要なことについては、次の回答が寄せられている。

- ・ 情報提供（自宅での様子、サービス利用状況等）。
- ・ 訪問川等の指示書の依頼など。
- ・ 現状報告。医療以外の情報（経済状況や介護状況）。
- ・ 普段の生活や状態など受診時にわかりづらいことを伝える。
- ・ ケアマネジャーとしてやるべきこと・できることを理解していただくこと。
- ・ 連絡方法を確認すること（時間や方法、担当者）。
- ・ 時間調整。少しだけでいいので、すぐにお会いしたい時等に外来診察中でもお会いできるとありがたいです。
- ・ 医療と介護の連携の研修等で、顔なじみの関係づくりを行う。
- ・ 主治医意見書がいつも同じ内容なので検討していただきたい。
- ・ 信頼関係の構築。
- ・ 迅速な連絡を細かく伝えること。
- ・ 話しやすさ、訪問する場合の時間帯。
- ・ 利用者さんのために、かかりつけ医とも相談すること。
- ・ 往診時に同席したいが、忙しいので困ると言われることもある。医師によってまちまち。対応が難しい。
- ・ 利用者との関わりで適切な情報伝達をすること。
- ・ 日常の事を詳細に報告する。
- ・ 生活と病気の折り合い。
- ・ 横の関係での連携。
- ・ 電話はタイミングが難しく急用でなければ連絡票を利用します。
- ・ 医療、服薬の対応について。
- ・ 同じ支援の方向性であること。先生が福祉に対して理解があること。
- ・ 相談したい内容をまとめ端的にまとめる（お忙しいので……）。
- ・ 情報の共有。
- ・ 先生たちの介護保険制度への理解、連携の壁を低くできるように、CMとDrの交流会、医師会主催の研修など。

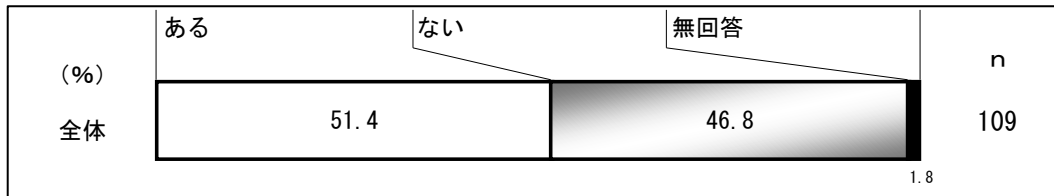
- ・ 信頼関係の構築。
- ・ 利用者の状態変化時の対応について連絡先等の共有、往診の有無等（高齢者なので状態変化時の対応が家族の不安を占めるため）。
- ・ 開かれた、気軽に連絡を取り合い情報共有できるネット（ソフト）での連携があると今以上に連携しやすい。
- ・ Drとはなかなか気をつかい連携が取りづらいが、直接会って話をするようにしている。
- ・ 利用者の病気について。
- ・ サービス利用が必要であるかを確認する。その利用者の病状等の把握。
- ・ 信頼関係。日頃から相談、報告を大切にす。
- ・ ドクターにお伺いするときの問いかけ方（いかに短く伝えられるか？）。
- ・ 病状に合わせた対応ができるようにやり取り。
- ・ 話しやすい関係。
- ・ 訪問診療時に同席し、話しやすい関係づくりに努めている。
- ・ 医療面からのアドバイスを医師より直接うかがうことができる。
- ・ Drの仕事の時間を邪魔しない。Drに家族状況等を理解してもらえようにする。
- ・ 利用者さんの生活状況を伝える。
- ・ 医師から見た必要性と、ケアマネからみた家族・利用者様のニーズの違いを理解し合う事。
- ・ 適切な連絡方法を、適切な時間で用いる。
- ・ タイミングや、要点、目的をはっきりさせておく必要があると思います。
- ・ 新しい情報の共有ができるように心掛けている。

7 高齢者虐待について

(1) 家庭内における高齢者虐待の事例を経験したこと

家庭内における高齢者虐待の事例を経験したことについては、「ある」が51.4%、「ない」が46.8%となっている。

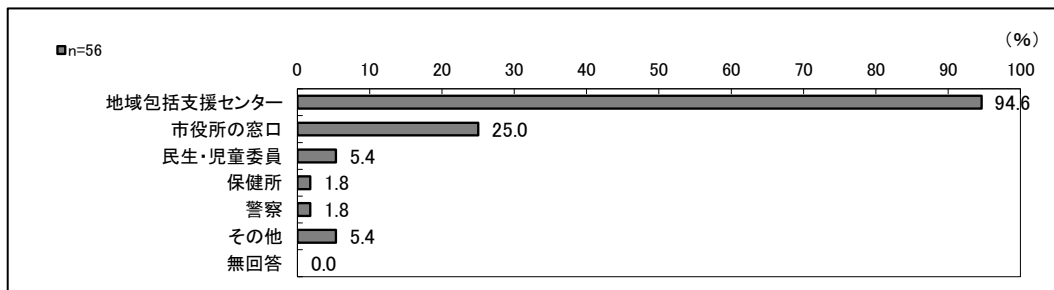
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) 虐待事例の相談先

虐待事例の相談先については、「地域包括支援センター」(94.6%)が最も多く、次いで「市役所の窓口」(25.0%)、「民生・児童委員」(5.4%)、「保健所」・「警察」(同率1.8%)などとなっている。

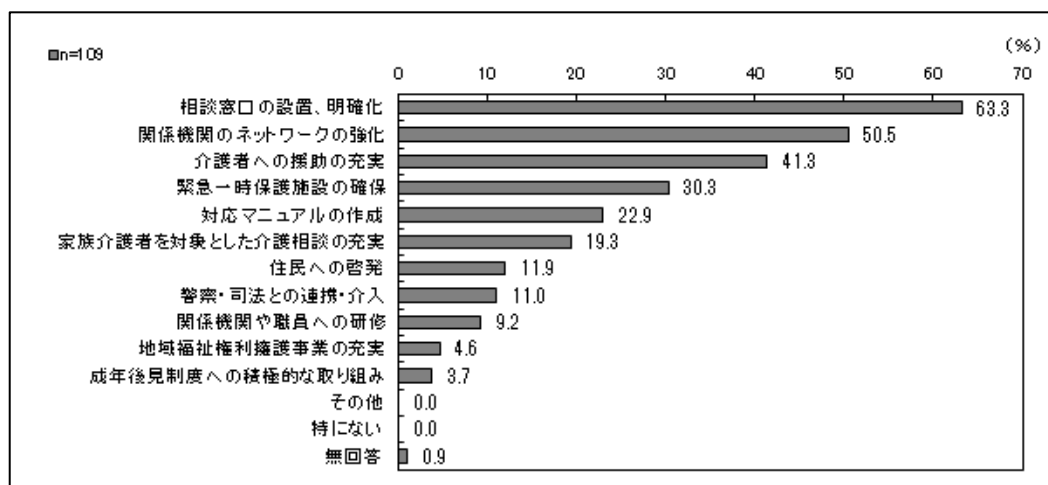
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(3) 高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組み

高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組みについては、「相談窓口の設置、明確化」(63.3%)、「関係機関のネットワークの強化」(50.5%)、「介護者への援助の充実」(41.3%)、「緊急一時保護施設の確保」(30.3%)、「対応マニュアルの作成」(22.9%)、「家族介護者を対象とした介護相談の充実」(19.3%)、「住民への啓発」(11.9%)、「警察・司法との連携・介入」(11.0%)、「関係機関や職員への研修」(9.2%)、「地域福祉権利擁護事業の充実」(4.6%)、「成年後見制度への積極的な取り組み」(3.7%) などとなっている。なお、「特にない」は回答なしとなっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）

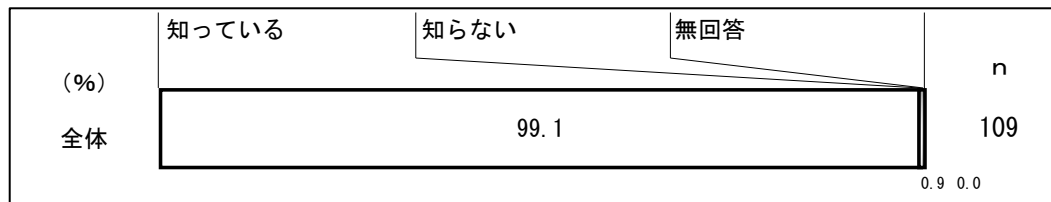


8 ヤングケアラー問題について

(1) ヤングケアラー問題を知っているか

ヤングケアラー問題を知っているかについては、「知っている」が99.1%、「知らない」が0.9%となっている。

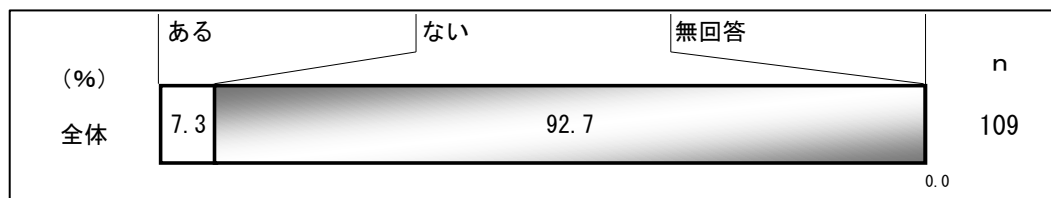
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) ヤングケアラーの事例を経験したこと

ヤングケアラーの事例を経験したことについては、「ない」が92.7%、「ある」が7.3%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



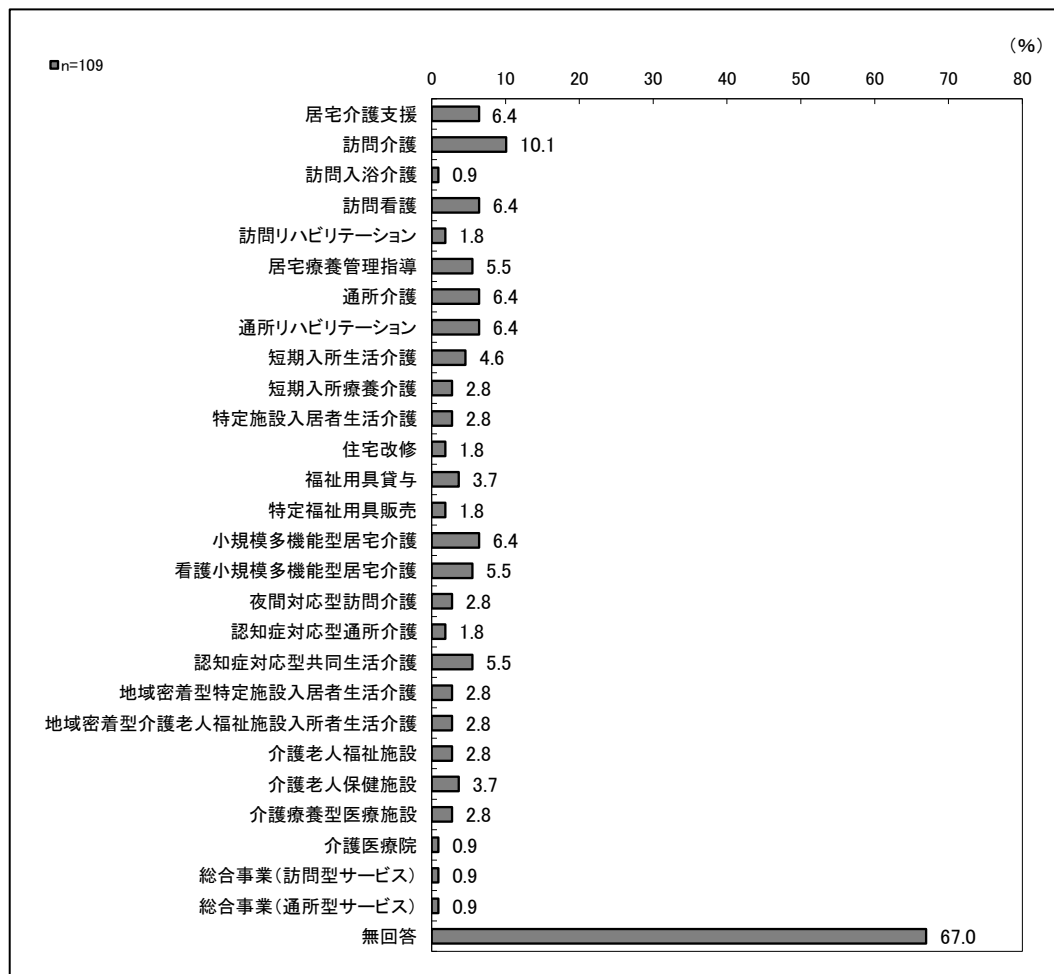
9 介護保険全般について

(1) 質に問題がある、あるいは不足している介護保険サービス

① 質に問題があると思うサービス

質に問題がある、あるいは不足している介護保険サービスについては、「訪問介護」(10.1%)、「居宅介護支援」・「訪問看護」・「通所介護」・「通所リハビリテーション」・「小規模多機能型居宅介護」(同率 6.4%)、「居宅療養管理指導」・「看護小規模多機能型居宅介護」・「認知症対応型共同生活介護」(同率 5.5%)、「短期入所生活介護」(4.6%)、「福祉用具貸与」・「介護老人保健施設」(同率 3.7%)、「短期入所療養介護」・「特定施設入居者生活介護」・「夜間対応型訪問介護」・「地域密着型特定施設入居者生活介護」・「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」・「介護老人福祉施設」・「介護療養型医療施設」(同率 2.8%)、「訪問リハビリテーション」・「住宅改修」・「特定福祉用具販売」・「認知症対応型通所介護」(同率 1.8%)、「訪問入浴介護」・「介護医療院」・「総合事業(訪問型サービス)」・「総合事業(通所型サービス)」(同率 0.9%)などの順となっている。

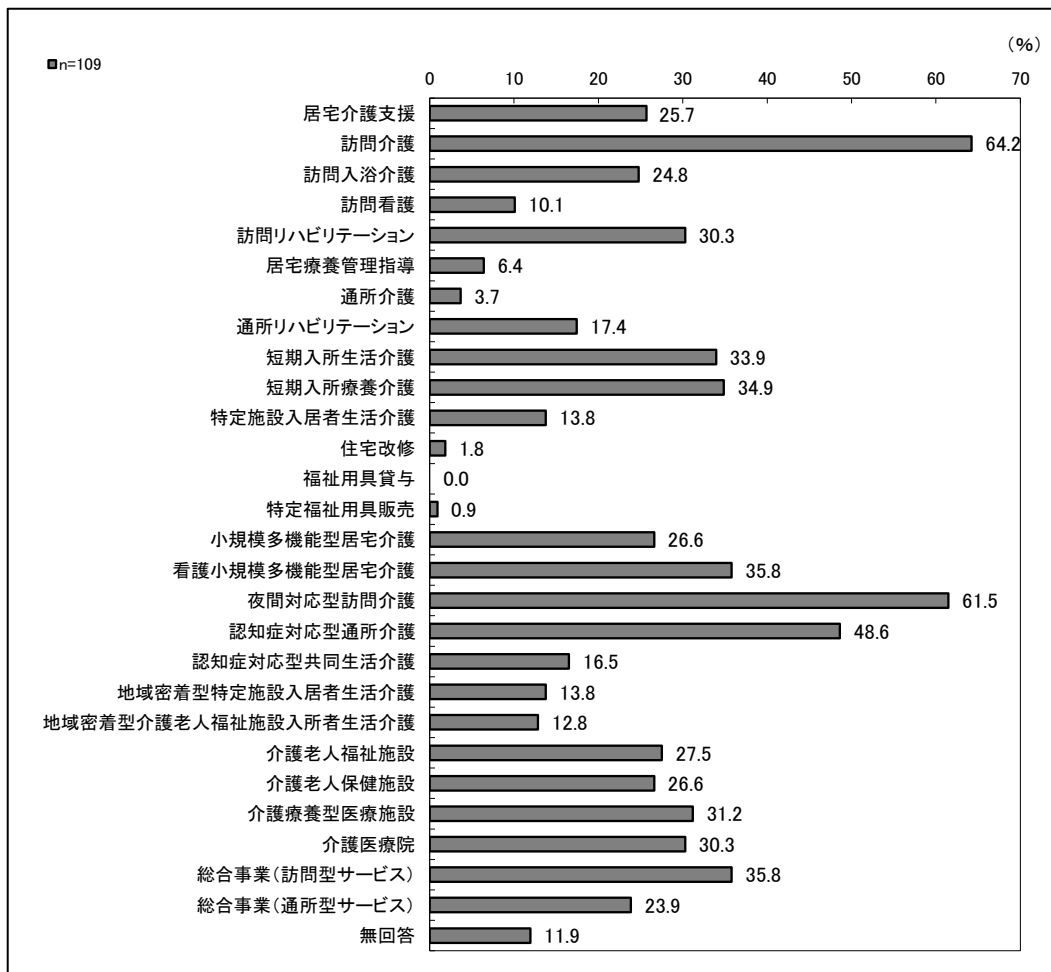
■ 居宅介護支援専門員(ケアマネジャー)



②不足していると思うサービス

不足していると思うサービスについては、「訪問介護」(64.2%)、「夜間対応型訪問介護」(61.5%)、「認知症対応型通所介護」(48.6%)、「看護小規模多機能型居宅介護」(35.8%)、「総合事業(訪問型サービス)」(35.8%)、「短期入所療養介護」(34.9%)、「短期入所生活介護」(33.9%)、「介護療養型医療施設」(31.2%)、「訪問リハビリテーション」・「介護医療院」(同率 30.3%)、「介護老人福祉施設」(27.5%)、「小規模多機能型居宅介護」・「介護老人保健施設」(同率 26.6%)、「居宅介護支援」(25.7%)、「訪問入浴介護」(24.8%)、「総合事業(通所型サービス)」(23.9%)、「通所リハビリテーション」(17.4%)、「認知症対応型共同生活介護」(16.5%)、「特定施設入居者生活介護」・「地域密着型特定施設入居者生活介護」(同率 13.8%)、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」(12.8%)、「訪問看護」(10.1%)、「居宅療養管理指導」(6.4%)、「通所介護」(3.7%)、「住宅改修」(1.8%)、「特定福祉用具販売」(0.9%)、「福祉用具貸与」(0.0%)などの順となっている。

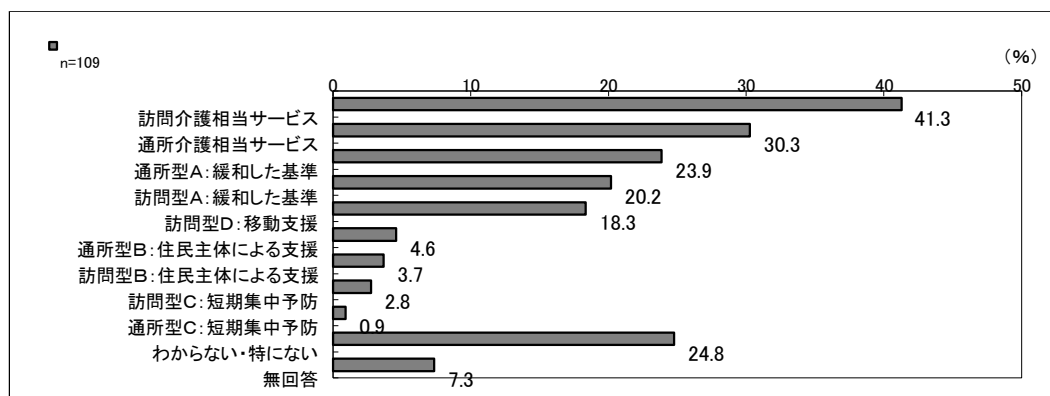
■居宅介護支援専門員(ケアマネジャー)



(2) 総合事業の中で特に利用者ニーズが高いと感じるサービス

総合事業の中で特に利用者ニーズが高いと感じるサービスについては、「訪問介護相当サービス」(41.3%)が最も多く、次いで「通所介護相当サービス」(30.3%)、「通所型A：緩和した基準」(23.9%)、「訪問型A：緩和した基準」(20.2%)、「訪問型D：移動支援」(18.3%)、「通所型B：住民主体による支援」(4.6%)、「訪問型B：住民主体による支援」(3.7%)、「訪問型C：短期集中予防」(2.8%)、「通所型C：短期集中予防」(0.9%)などとなっている。なお、「わからない・特にない」は24.8%となっている。

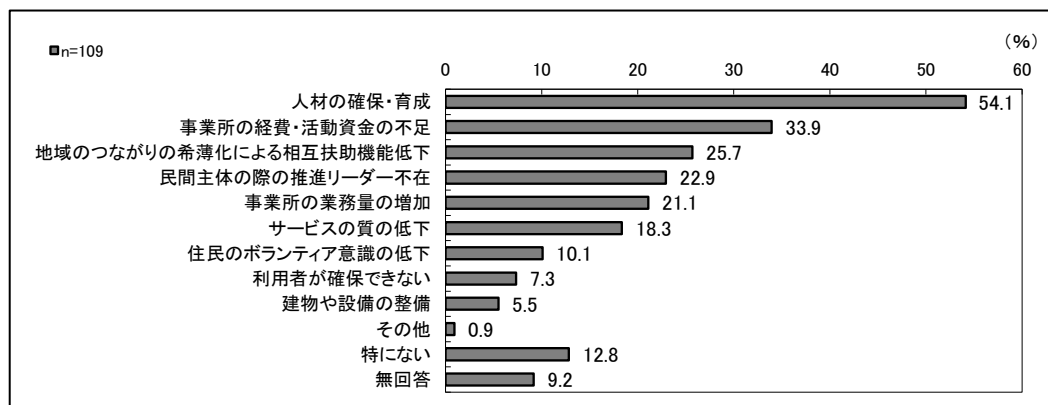
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(3) 総合事業の実施にあたり課題となること

総合事業の実施にあたり課題となることについては、「人材の確保・育成」(54.1%)が最も多く、次いで「事業所の経費・活動資金の不足」(33.9%)、「地域のつながりの希薄化による相互扶助機能低下」(25.7%)、「民間主体の際の推進リーダー不在」(22.9%)、「事業所の業務量の増加」(21.1%)、「サービスの質の低下」(18.3%)、「住民のボランティア意識の低下」(10.1%)、「利用者が確保できない」(7.3%)、「建物や設備の整備」(5.5%)などとなっている。なお、「特にない」は12.8%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）

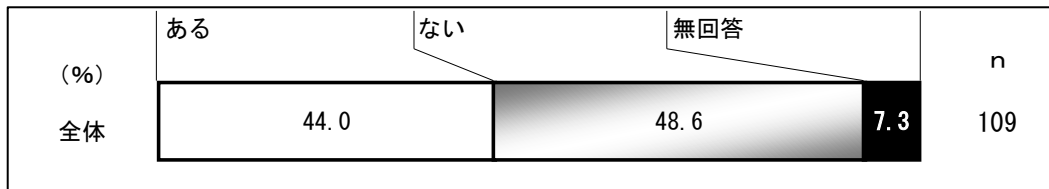


10 災害時の対応について

(1) 事業所における災害時事業継続計画の有無

事業所における災害時事業継続計画の有無については、「ない」が 48.6%、「ある」が 44.0%となっている。

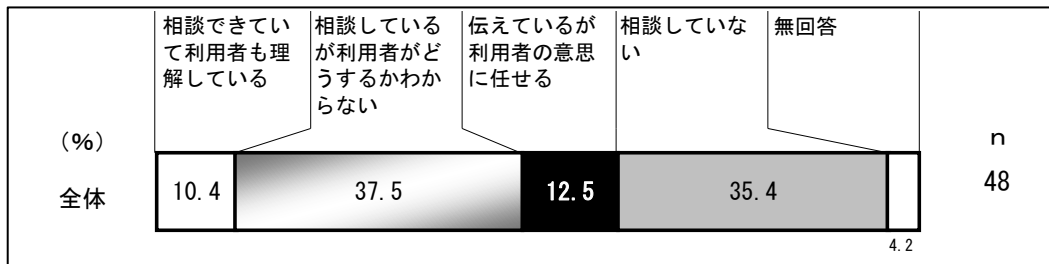
■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) 災害時の行動について利用者と相談できているか

災害時の行動について利用者と相談できているかについては、「相談しているが利用者がどうするかわからない」が 37.5%、「相談していない」が 35.4%、「伝えているが利用者の意思に任せる」が 12.5%、「相談できていて利用者も理解している」が 10.4%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）

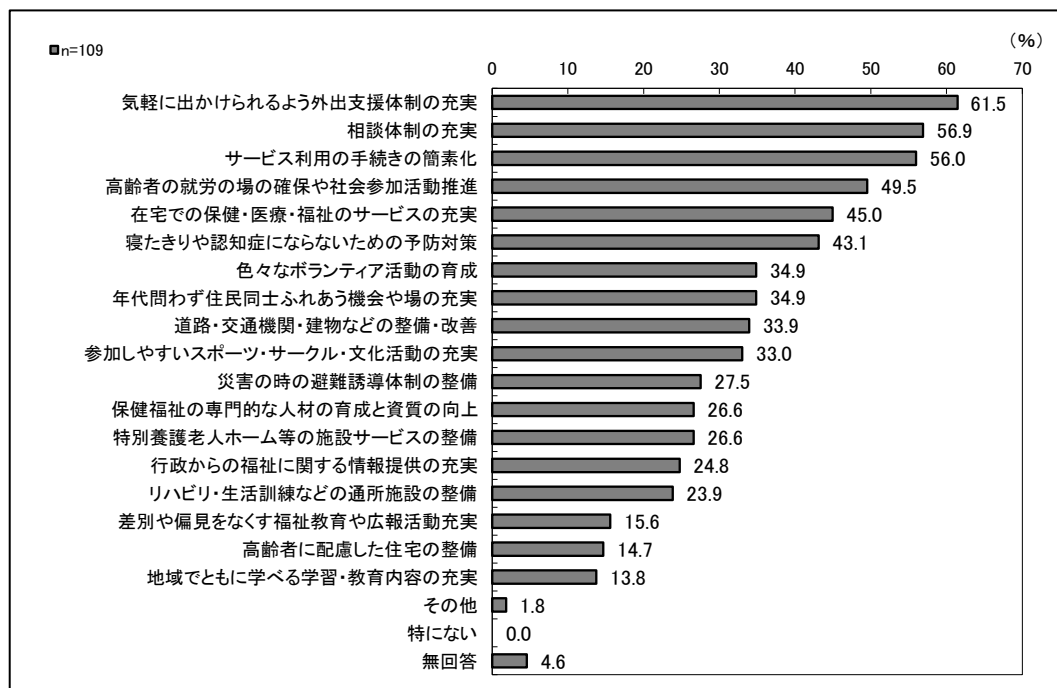


11 高齢者福祉全般について

(1) 高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点を置くべきこと

高齢者にとって住みよいまちをつくるために重点を置くべきことについては、「気軽に出かけられるよう外出支援体制の充実」(61.5%)が最も多く、次いで「相談体制の充実」(56.9%)、「サービス利用の手続きの簡素化」(56.0%)、「高齢者の就労の場の確保や社会参加活動推進」(49.5%)、「在宅での保健・医療・福祉のサービスの充実」(45.0%)、「寝たきりや認知症にならないための予防対策」(43.1%)、「色々なボランティア活動の育成」・「年代問わず住民同士ふれあう機会や場の充実」(同率 34.9%)、「道路・交通機関・建物などの整備・改善」(33.9%)、「参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動の充実」(33.0%)、「災害の時の避難誘導體制の整備」(27.5%)、「保健福祉の専門的な人材の育成と資質の向上」・「老人ホーム等の施設サービスの整備」(同率 26.6%)、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」(24.8%)、「リハビリ・生活訓練などの通所施設の整備」(23.9%)、「差別や偏見をなくす福祉教育や広報活動充実」(15.6%)、「高齢者に配慮した住宅の整備」(14.7%)、「地域でともに学べる学習・教育内容の充実」(13.8%)などとなっている。なお、「特にない」は回答なしとなっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）



(2) 今後充実させるべき介護予防事業

今後充実させるべき介護予防事業については、「閉じこもり予防」(74.3%)が最も多く、次いで「運動器の機能向上」(63.3%)、「認知症予防」(60.6%)、「うつ予防」(34.9%)、「口腔機能の向上」(30.3%)、「栄養改善」(22.0%) などとなっている。なお、「わからない・特にない」は3.7%となっている。

■居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）

